

2026年度 千葉明德短期大学 シラバス

1年次科目			
No.	ナンバリング	科目名	ページ
教養基礎科目 ①基礎科目系			
001	【A①01】	日本国憲法	1
002	【A①02】	メディア・コミュニケーション	3
003	【A①03】	オーラル・コミュニケーションⅠ（英語）	5
004	【A①03】	オーラル・コミュニケーションⅠ（韓国語）	7
005	【A①04】	体育（理論）	9
006	【A①05】	体育（実技）	11
教養基礎科目 ②教養総合科目系			
007	【A②01】	教養基礎演習（初年次教育）	13
008	【A②03】	教養総合演習	15
009	【A②04】	キャリアデザインⅠ	17
専門科目 ①教育・保育／理論系			
010	【B①01】	教育原論（教育に関する社会的・制度的事項を含む）	19
011	【B①02】	保育原論	21
012	【B①03】	発達心理学（講義）	23
013	【B①06】	発達心理学（演習）	25
014	【B①07】	こども家庭支援の心理学	27
015	【B①08】	カリキュラム論	29
016	【B①04】	乳児保育Ⅰ	31
017	【B①09】	乳児保育Ⅱ	33
018	【B①10】	特別支援保育Ⅰ	35
019	【B①05】	こどもの保健	37
専門科目 ②教育・保育／実践系			
020	【B②01】	こどもと環境	39
021	【B②02】	こどもと言葉	41
022	【B②07】	こどもと表現	43
023	【B②03】	保育内容演習（言葉と表現）	45
024	【B②04】	保育内容演習（健康と人間関係）	48
025	【B②05】	保育内容演習（環境）	51
026	【B②06】	保育者論Ⅰ	54
専門科目 ③教育・保育／実習系			
027	【B③01】	教育実習（実習指導）	57
028	【B③02】	教育実習（幼稚園Ⅰ）	59
029	【B③03】	保育実習指導Ⅰ	62
030	【B③04】	保育実習Ⅰ（保育所）	65
031	【B③05】	保育実習Ⅰ（施設）	67

専門科目 ④表現技術系			
032	【B④01】	あそび基礎演習Ⅰ	69
033	【B④03】	あそび基礎演習Ⅱ	72
034	【B④04】	こどもと文化	75
035	【B④02】	音楽表現演習Ⅰ	77
036	【B④05】	音楽表現演習Ⅱ	80
専門科目 ⑤福祉系			
037	【B⑤01】	社会福祉	82
038	【B⑤02】	こども家庭福祉	84
039	【B⑤03】	社会的養護Ⅰ	87

2年次科目			
No.	ナンバリング	科目名	ページ
教養基礎科目 ①基礎科目系			
040	【A①06】	オーラル・コミュニケーションⅡ	89
教養基礎科目 ②教養総合科目系			
041	【A②06】	フィールドワーク（人間と文化）「人と文化に出会う」（共生社会を考慮して）沖縄県伊江村（伊江島）を中心として	92
042	【A②06】	フィールドワーク（人間と文化）「音楽の都 ウィーンを訪ねて」	94
043	【A②07】	フィールドワーク（生活と社会）「ナイト・サンセットウォーク in Chiba」	96
044	【A②07】	フィールドワーク（生活と社会）「生活と文化を考える～富山県利賀村研修」	98
045	【A②08】	フィールドワーク（自然と環境）「キャンプインストラクターになろう」	100
046	【A②08】	フィールドワーク（自然と環境）「～プレーパークへいこう～ちばの遊び場について考える」	102
047	【A②05】	現代社会論 <総論>	104
048	【A②05】	現代社会論「芸術を教育・福祉へ」	106
049	【A②05】	現代社会論「今時の児童館、放課後児童クラブ、子育てサロン」	108
050	【A②05】	現代社会論「人類学とフィールドワーク」ー大相撲から文化と伝統を学ぶー	110
051	【A②05】	現代社会論「コンビニから社会の変化を考える」	112
052	【A②05】	現代社会論「まちあるき」から社会を考える	114
053	【A②09】	キャリアデザインⅡ	116
専門科目 ①教育・保育／理論系			
054	【B①11】	保育内容総論	118
055	【B①12】	こどもの健康と安全	120
056	【B①13】	特別支援保育Ⅱ	122
057	【B①14】	こどもの食と栄養Ⅰ	124
058	【B①15】	こどもの食と栄養Ⅱ	126
059	【B①16】	子育て支援	128

専門科目 ②教育・保育／実践系			
060	【B②09】	こどもと健康	130
061	【B②08】	保育方法論Ⅰ	132
062	【B②11】	保育方法論Ⅱ	135
063	【B②12】	保育者論Ⅱ	138
064	【B②13】	こども臨床学	141
065	【B②10】	保育・教職実践演習（幼稚園）	143
専門科目 ③教育・保育／実習系			
066	【B③01】	教育実習（実習指導）	146
067	【B③06】	教育実習（幼稚園Ⅱ）	148
068	【B③07】	保育実習指導Ⅱ	150
069	【B③08】	保育実習指導Ⅲ	152
070	【B③09】	保育実習Ⅱ	154
071	【B③10】	保育実習Ⅲ	157
専門科目 ④表現技術系			
072	【B④06】	あそび技能演習	159
073	【B④08】	あそび実践演習（音楽）	161
074	【B④11】	あそび実践演習（言葉）	163
075	【B④07】	音楽表現演習Ⅲ	165
076	【B④13】	音楽表現演習Ⅳ	167
専門科目 ⑤福祉系			
077	【B⑤04】	社会的養護Ⅱ	169
078	【B⑤05】	こども家庭支援論	172

専門科目 ⑥専門総合科目系			
079	【B⑥01】	専門総合演習「子どもと芸術Ⅰ」	174
080	【B⑥01】	専門総合演習「子どもの生活とその周辺領域から考える」	176
081	【B⑥01】	専門総合演習「子どもの表現と表現する自分」	178
082	【B⑥01】	専門総合演習「遊びを通して探究する」	180
083	【B⑥01】	専門総合演習「森や自然の素材をおもしろがる」	182
084	【B⑥01】	専門総合演習「インクルーシブ保育・教育を考える」	184
085	【B⑥01】	専門総合演習「「子どもの権利」「ICF」の視点に基づいた援助・支援を考えるⅠ」	186
086	【B⑥02】	卒業演習「子どもと芸術Ⅱ」	188
087	【B⑥02】	卒業演習「様々な経験を通して考える私の保育観」	190
088	【B⑥02】	卒業演習「表現する自分を探求する」	192
089	【B⑥02】	卒業演習「自分の興味関心から自己・社会・文化を見つめる」	194
090	【B⑥02】	卒業演習「問うこと、探究することをおもしろがる」	196
091	【B⑥02】	卒業演習「インクルーシブ保育・教育を考える」	198
092	【B⑥02】	卒業演習「「子どもの権利」「ICF」の視点に基づいた援助・支援を考えるⅡ」	200

ナンバリング	A①01	科目名	日本国憲法
担当形態	単独	担当教員	中溝 明子
ディプロマポリシーとの関連性	②, ③		
テキスト	特になし		
開講時期	前期	単位数・ 授業形態	2単位・講義
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人権尊重を基軸とする憲法の役割や構造を理解できる。 ・基本的人権と人権の調整原理について学び、人権感覚を身につける。 ・民主主義について理解を深め、民主主義の重要性を説明できる。 ・憲法の理念を保育・教育の現場に接続して考えることができる。 		
授業の概要	<p>日本国憲法が、国家権力を制約し、個人の人権や自由を保障する役割を果たしていることを確認し、人権の大切さを考えると共に、人権同士の衝突場面への対応などを考えます。また、子どもの人権を中心に人権の内容を理解し、これが侵害されない仕組みや対応を考えます。</p> <p>国民主権、民主主義が人権尊重の理念に結びついていることを学びます。</p> <p>ナラティブ教材を用いたグループワークなどを通じて、憲法の抽象的な概念を具体的な保育場面結び付ける学習を体験的行います。</p>		
授業計画	<p>第1回 法の支配と憲法の目的</p> <p>第2回 人権の概要と人権の調整原理</p> <p>第3回 基本的人権概説</p> <p>第4回 法の下での平等</p> <p>第5回 両性の平等</p> <p>第6回 子どもの権利概説</p> <p>第7回 子どもの権利条約にみる子どもの権利</p> <p>第8回 意見表明と最善の利益</p> <p>第9回 権利侵害が起きるとき(いじめ、児童虐待)</p> <p>第10回 不適切保育(保育現場における権利擁護)</p> <p>第11回 経済的自由権・社会権</p> <p>第12回 人身の自由・裁判を受ける権利</p> <p>第13回 国民主権と権力分立</p> <p>第14回 国会と議院内閣制、選挙制度</p> <p>第15回 平和主義</p>		

準備学習と必要時間	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の授業で学んだことを復習する(必要時間 30 分) ・課題に取り組み、レポートを提出すること(必要時間 30 分) 				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み状況 40% ・課題及びレポートの内容及び提出状況 60% 				
参考文献	「保育者のための法学・憲法入門(第2版)」 成文堂				
特記事項	なし				
課題へのフィードバック方法	課題、レポートに対する講評を行う				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状	必修	第 66 条の 6 に定める科目
	その他		保育士資格	選択	
教員の実務経験	弁護士としての活動の中から、保育現場や子どもの育ちに関連する事例を、ナラティブ教材を用いるなどして示し、対話や討論を通して、学生が主体的に考える場を設ける。				

ナンバリング	A①02	科目名	メディア・コミュニケーション
担当形態	単独	担当教員	梅澤 俊秀
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	授業中に必要な書籍を紹介します。		
開講時期	前期	単位数・ 授業形態	2単位・講義
到達目標	この授業では以前から求められたパソコンの操作や Office ソフトの習得を最初の到達点とし、同時に保育現場で必要とされるデジタルスキルの習得を最終的な到達目標としています。		
授業の概要	各自が持参するコンピュータ(WindowsPC や MacBook、iPad 等のデバイス)の操作の基本を習得した後、ビジネスアプリの基本操作や生成 AI の活用などを体験していきます。その後、保育 ICT の活用についてコードモン [®] 体験版を使いながら学習を行います。この中では「保育 ICT 検定試験」(無料)への受験も計画しています。できるかぎり ICT 化が進む保育の世界に対応できるような授業を展開していきます。		
授業計画	1: ガイダンス: 情報リテラシー、情報機器(パソコンやタブレット等のデバイス)の基本操作、ショートカットキーの使い方 2: 保育者自身の SNS リテラシー、アナログとデジタルの違いについて考察する 3: ビジネスアプリの基本(メールの送受信、文書作成アプリの操作) 4: 表計算①: 表計算アプリの基本操作(名簿管理 ~並べ替えと抽出の基本~) 5: 表計算②: 表計算アプリの操作(シフト表 ~関数の基本と条件付き書式~) 6: 保育 ICT 体験型授業①(コードモン [®] を使った保育 ICT 体験)保育 ICT の現況や国が示している保育 ICT の方針 7: 保育 ICT 体験型授業②(コードモン [®] を使った保育 ICT 体験)保育 ICT で保育がどう変わっていくか、具体的なコードモン [®] の操作) 8: 保育 ICT 検定試験受験(無料)(講義+オンライン受験)+デジタルドキュメンテーションの作成と保護者との共有について 9: 生成 AI の活用(どう活用するか、何ができるのか、生成 AI リテラシー、活用の具体化と注意点) 10: 生成 AI 実際に使ってみる(園だよりの作成、行事のイラスト作成) 11: 著作権について(著作権とは何か、著作物の注意点、生成 AI 時代の著作権) 12: デザインの重要性(ピクトグラムの作成を通して多様性を理解する) 13: プレゼンテーションアプリの基本(テーマ:理想の保育園)		

	14:プレゼンテーションの作成(理想の保育園についてプレゼンを作成) 15:プレゼンテーションの発表+ここまでの授業の Web テスト(学習のまとめ)				
準備学習と必要時間	授業の内容をできるだけ4~5日前に告知する(Google Classroom やドライブにて授業資料を共有する)ので、授業までに1時間程度の予習をする必要があります。授業中に課題が終わらなかった場合については、授業後3日以内に課題の提出をするようにして下さい。				
評価方法	授業中の課題(成果物)50%、最後の授業時間内に行う Web テスト 40%。保育 ICT 検定試験合格=10 点。				
参考文献	授業中に適宜指示します。				
特記事項	授業では各自持参するパソコン(その他のデバイス)が必ず必要です。忘れずに持参して下さい。充電も自宅で行って来て下さい。なお、スマートフォンで授業に参加する事は認められません。また各自が使用するデバイスの基本的な操作(キー操作等)については各自の責任において習得しておいて下さい。				
課題へのフィードバック方法	成果物の提出は基本的に Web にて行います。よって返却も Web から返却します。返却する課題へのコメントはできるだけ個別に返しますが、場合によっては全体を総括する形でコメントを返す事があります。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状	必修	第 66 条の 6 に定める科目
	その他		保育士資格	必修	教養科目
教員の実務経験					

ナンバリング	A①03	科目名	オーラル・コミュニケーション I (英語)
担当形態	単独	担当教員	赤松 直子
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②		
テキスト	「Children's Garden 保育英語」 成美堂		
開講時期	前期	単位数・ 授業形態	2 単位・演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育現場でコミュニケーションをとるために役立つ基礎的な保育英語が身につく。 ・英語の遊び唄を覚え、手遊びなどを身につけ、保育活動に取り入れることができる。 ・英語絵本の読み聞かせを通じて、子どもたちに簡単な英語の言葉を説明し、紹介することができる。 ・英語圏の子ども文化について学び、外国の文化について日本の子どもたちに説明し、異文化に親しむ活動を保育に取り入れることができる。 		
授業の概要	<p>保育、幼児教育を学ぶ学生ための保育英語を 4 技能(聞く、話す、読む、書く)を通じて学ぶ。学びの舞台は、外国と日本の子どもたちが共に通園する保育園、Children's Garden である。日常の保育者と子どもの会話、実習のアドバイス、実習生の日記、子どもへの声かけなど、保育英語の基礎的な英語表現を学習する。また、英語圏の子ども文化、マザーグースの唄、言葉遊びも学習し、製作にも取り組む。ペアワーク、グループワークを活用して、実践的なアクティビティを通じて、保育英語に親しみ、基礎的なコミュニケーション力を育む。</p>		
授業計画	<p>第 1 回 Orientation オリエンテーション 保育英語とは何か</p> <p>第 2 回 Play house/ Emi meets Ana おままごと遊び /アナちゃんとの出会い Vocabulary & Listening</p> <p>第 3 回 Internship tips / At the chin-up bars 実習のアドバイス /鉄棒で Translation, Writing & Speaking</p> <p>第 4 回 My first day as an intern 実習初日 Grammar & Reading</p> <p>第 5 回 Twinkle, Twinkle, Little Star(手遊び唄/ミニブック製作) Fingerplay & Crafts</p> <p>第 6 回 A map of the area around the school / Emi talks to Mark, an English child. 保育園の周辺マップ/マークちゃんとの出会い Vocabulary & Listening</p> <p>第 7 回 Going for a walk / On the Way to the Park 散歩/公園への道中 Translation, Writing & speaking</p>		

	<p>第 8 回 Into the world of children / Anagram 子どもの世界/アナグラム Grammar & Reading</p> <p>第 9 回 Humpty Dumpty/ Little Nancy Etticoat(なぞなぞ唄/パペット製作)</p> <p>第 10 回 Picture books(英語絵本)Reading aloud</p> <p>第 11 回 Hallowe'en/Picturebook 異文化学習 Hallowe'en とは何か (トリックオアトリートバッグ製作・絵本)</p> <p>第 12 回 Christmas/Picture book 異文化学習 Christmas とは何か (サンタ指人形製作・絵本)</p> <p>第 13 回 Presentation practice (Groupwork) (手遊び唄の発表練習)</p> <p>第 14 回 Presentation (Group work) (グループ発表)</p> <p>第 15 回 What a show!/ Class report & Wrap-up レポート/振り返りと総括</p>				
準備学習と必要時間	<p>毎回の予習:本文をノートに写し、語彙を調べる。手遊び唄の発表練習をする(60分)</p> <p>毎回の復習:テキスト、ノートの読み返し、配布物の貼付、製作物の完成。(60分)</p>				
評価方法	<p>「授業での取り組み(製作物や実技で確認)」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時間内の取り組み (積極的なアクティビティ参加、製作、課題、応答や発言回数及び内容)30% ・授業時間外の行う準備学習(必要な物品の準備、予習/復習)10% ・ノート提出 10% ・学習の記録 10% ・発表 30% ・クラスレポート 10% 				
参考文献	「保育の英会話」 萌文書林				
特記事項	<p>授業には、英和・和英辞典(電子辞書や紙の辞書)が必要。 また、製作をするときは、はさみ、色鉛筆、セロテープなどが必要。</p>				
課題へのフィードバック方法	<p>毎回提出される学習の記録(リフレクションシート)にコメントをつけて返却・フィードバックとする。授業内のアクティビティや課題、発表へのフィードバックは授業内に行う。教員のみならず、学生間のフィードバックも活用する。</p>				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状	選択必修	第 66 条の 6 に定める科目
	その他		保育士資格	選択必修	教養科目
教員の実務経験					

ナンバリング	A①03	科目名	オーラル・コミュニケーション I (韓国語)
担当形態	単独	担当教員	尹 孝貞
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	木内明「基礎から学ぶ韓国語講座」、初級、改訂版、CD 付き:国書刊行会		
開講時期	前期	単位数・ 授業形態	2 単位・演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国語を正確に発音し、適切な語彙を使い、文章を作ることができる。 ・韓国語の基本的な文法構造を把握しながら、韓国語で会話することができる。 ・童話・童謡から韓国の文化を学び、韓国語で基本的なコミュニケーションができる。 		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国語の発音の特徴を意識しながら、日本語にはない発音を練習し、パッチムと発音ルールに気を付けながら、正確な意味を伝えられるように練習します。動詞の変形ルールを把握し、作文する力を身に着けます。 ・韓国語の基本的な文法と表現を学び、状況にふさわしい文章を作ることで、相手に自分の考えを伝える力を身に着けます。 ・韓国の文化を映像・音楽を通して学び、様々な表現を使い、韓国語でコミュニケーションができる力を身に着けます。 		
授業計画	<p>第 1 回 講義紹介、概要説明、韓国語発音の特徴</p> <p>第 2 回 基本母音</p> <p>第 3 回 基本子音</p> <p>第 4 回 複合母音</p> <p>第 5 回 パッチム</p> <p>第 6 回 発音の変化</p> <p>第 7 回 小テスト、挨拶・自己紹介</p> <p>第 8 回 童謡で学ぶ韓国語①</p> <p style="padding-left: 40px;">한글 노래(ハングル歌) 당신은 누구십니까(あなたは誰ですか)</p> <p>第 9 回 童話で学ぶ韓国語①</p> <p style="padding-left: 40px;">사과 줄게, 빨강 줄래?(りんごあげる、赤くれる?)</p> <p>第 10 回 童謡で学ぶ韓国語②</p> <p style="padding-left: 40px;">사과같은 내 얼굴(リンゴのような私の顔)</p>		

	<p>머리 어깨 무릎 발(頭、肩、ひざ、足) 등대문을 열어라(東大門を開け)</p> <p>第 11 回 童話で学ぶ韓国語②</p> <p>똑똑똑 누구십니까?(コンコン、誰ですか)</p> <p>第 12 回 童謡で学ぶ韓国語③</p> <p>곰 세 마리(熊さん三匹) 상어가족(サメ家族)</p> <p>우리집에 왜 왔니(うちになんで来たの)</p> <p>第 13 回 童謡で学ぶ韓国語④</p> <p>숫자송(数字ソング) 둥글게 둥글게(丸く、丸く)</p> <p>第 14 回 期末テスト・解説</p> <p>第 15 回 会話練習・作文の復習</p>				
準備学習と必要時間	毎回 60 分以上は、発音練習を中心に、前回の授業の内容を復習しておくこと。				
評価方法	授業中の積極的な参加、課題の完成と復習、小テスト — 40% ・期末試験 — 60%				
参考文献	授業中に適宜示します				
特記事項	なし				
課題へのフィードバック方法	小テストとして行う会話・ハンゲル練習では、教員が文法・表現・発音等についてコメントをする。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状	選択必修	第 66 条の 6 に定める科目
	その他		保育士資格	選択必修	教養科目
教員の実務経験					

ナンバリング	A①04	科目名	体育(理論)
担当形態	単独	担当教員	粕谷 礼乃
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②		
テキスト	適宜資料を配布する。		
開講時期	前期	単位数・授業形態	1単位・講義
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちと共に生活する保育者として、さらに、生涯を通じて生き生きとした生活を営むひとりの人として、生活と体との関係を理解し、説明することができる。 ・子どもをとりまく生活環境と体との関係に関する知識を獲得し、子どもの“健康な体を育む”保育者の役割について自分なりの考えを述べるができる。 		
授業の概要	<p>本授業は、“体を育む”といった観点で展開します。今日では、私たちの体や生活習慣に影響を及ぼすさまざまなもの・ことが身のまわりに溢れています。そして、私たちは往々にしてそれらの情報や価値観に影響を受けています。したがって本授業では、まずそのような情報を知ることから自分自身の体と生活を見つめ直し、そのうえで、“体を育む”視点から、自身の体と生活、さらに子どもと共にある保育者の役割について考えていきます。そのために、適宜グループでのディスカッションやワーク、知識の定着を問うテストも行います。。</p>		
授業計画	<p>第1回 「体育」の歴史と幼児期の運動遊びの重要性、生涯スポーツとは 第2回 生活と体の関係(1) 昨今の私たちの生活リズム、睡眠と健康について 第3回 生活と体の関係(2) 食の傾向、食を選択する力と健康について 第4回 生活と体の関係(3) スマートフォンによる生活の変化と心身への影響 第5回 授業内確認テストと振り返りワーク 第6回 グループワークⅠ(健康な体づくりのための「体育」プログラム作成) 第7回 グループワークⅡ (健康な体づくりのための「体育」プログラム提案と意見交換) 第8回 まとめ、“体を育む”視点でのレポート作成</p>		
準備学習と必要時間	<p>毎回 60 分以上は、授業で取り扱われた内容について事例を調べ、自身の生活と体を見つめ直す時間を設けること。</p>		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業毎のレポート — 30% ・テスト — 40% ・まとめのレポート — 30% 		

参考文献	授業で適宜紹介、配布する。				
特記事項	なし				
課題へのフィードバック方法	授業毎のレポートに対して、授業冒頭で共有する。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状	必修	第 66 条の 6 に定める科目
	その他		保育士資格	必修	教養科目
教員の実務経験					

ナンバリング	A①05	科目名	体育(実技)
担当形態	単独	担当教員	厚東 芳樹
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト			
開講時期	後期	単位数・授業形態	1単位・実技
到達目標	<p>・授業内で取り扱う運動教材に対して、幼児と一緒に安全に楽しめるための個人技術、声を掛け合うことや励まし合うことも含めた集団技術の習得ができること。</p> <p>とりわけ、「36の基本の動き」の存在を知り、それぞれの動きを習得するための動作のステップアップについて説明できる。</p> <p>・遊びを通して経験できる運動の必要性について理解し、先の〔1〕の内容と合わせて実践に適用する方法を説明できる。</p> <p>・グループで協力して運動会やクリスマス会などのイベントで実施可能な創作ダンスを制作し、「観客者を巻き込む表現力(声)」「世界観」も含めた表現ができる。</p>		
授業の概要	<p>本授業では、幼児が生涯に渡ってスポーツに親しむための幼児体育のあり方に関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけます。また、「なぜ幼児期の子どもにとって運動は必要なのだろうか?」「どのような遊びが幼児期の子ども達の身体発達を促すのだろうか?」という2つの問いについて、実技を通して学んでいきます。さらに、グループ単位で「36の基本の動き」の一部を取り入れた表現を創作し、お互いに発表し合いながら学んでいきます。</p>		
授業計画	<p>第1回 「幼少期に養いたい36の動き」の存在を知りチームビルディングをする(オリエンテーション)</p> <p>第2回 人間の身体の特徴を知ろうー呼吸とリズムの大切さについてー</p> <p>第3回 縄跳びの遊びをやってみよう</p> <p>第4回 縄跳びの中で生まれる動作を使って創作ダンスを即興でつくろう</p> <p>第5回 色々な鬼遊び&ボール遊びをやってみよう(空間認識力と集団行動)</p> <p>第6回 走る技術と日本文化のリズム遊びを知ろう</p> <p>第7回 「あんたがたどこさ」を使った創作ダンスを即興でつくろう</p> <p>第8回 跳び箱遊び・マット遊びをやってみようー幼児が学ぶ順番についてー</p> <p>第9回 風船・新聞紙などを工夫して色々な遊びをやってみよう(おまけ:水遊び)</p> <p>第10回 パラバルーンを使った表現をやってみよう</p> <p>第11回 乳児・幼児に対する救命救急の実技</p>		

	<p>第 12 回 グループ創作ダンス発表準備1(観客者を巻き込む表現力)</p> <p>第 13 回 グループ創作ダンス発表準備2(世界観と声)</p> <p>第 14 回 グループ創作ダンスグループ発表及びフィードバック</p> <p>第 15 回 スポーツ・体育場面のリスクマネジメントについて</p>				
準備学習と必要時間	<ul style="list-style-type: none"> ・授業期間内に説明した幼児体育や体育授業の中で発生した事象事例については、調べて整理しておくこと。(必要時間:60分)。 ・創作ダンスについて、グループでの打ち合わせや話し合いを授業前もしくは授業後に60分以上は行って組み立ててください。 ・その他、授業中に提示された映像等(例:youtubeで視聴可能な動画など)を視聴し、ノートにまとめるなど毎回60分の復習時間をとること。 				
評価方法	<p>授業への出席や授業態度、学習内容の理解度および技術技能の習得度合いを総合して評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題①—20% ・レポート課題②—10% ・即席の創作ダンスでの表現・実技への取り組み—30% ・授業への取り組み(挨拶、積極的な取り組み)—30% ・安全管理・危機管理に留意(モラル含む)した実技能力—10% 				
参考文献	<p>前橋明編著 池谷仁志 [ほか]著(2020)幼児体育指導ガイド3. 大学教育出版(無理に購入は不要)</p> <p>その他、授業中に適宜示します。</p>				
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・実技科目であるため、必ず運動しやすい服装の着用、シューズに履き替えて受講すること。ピアスや爪等は、他者に怪我をさせてしまう危険性もあるため、とくに注意すること。 				
課題へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題提出後、模範解答を提示して解説を行います。 				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状	必修	第66条の6に定める科目
	その他		保育士資格	必修	教養科目
教員の實務経験					

ナンバリング	A②01	科目名	教養基礎演習(初年次教育)
担当形態	オムニバス	担当教員	明石 現・由田 新
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	適宜配布		
開講時期	前期	単位数・ 授業形態	1単位・演習
到達目標	<p>本授業では、まず初めに、共に学び合う仲間と自身が学ぶ学校、周辺地域を探索しながら関係性を構築することで、グループ学習の土台作りを行なう。</p> <p>その上で、子どもや身の周りの社会的事象について興味・関心を深め、話し合い、それらについての基礎的な事柄を説明できるようにする。</p> <p>また、学園祭の準備・運営の中で仲間との連携を通して、保育者に求められる協働性や主体性や他者(来場者)の立場に立った企画を考える力を身につける。さらに活動を振り返り、準備・連携・安全配慮の重要性を理解できるようになることを目標とする。</p>		
授業の概要	<p>本学では2年間を通して、専門科目および教養科目の中で様々なことを学ぶ。本授業では初年次教育として、そうした学びの基礎作りを行い、「自ら学ぼうという姿勢」と共に「他者に目を向けながら学ぶ姿勢」を身に付ける。具体的には、主体的なテーマ設定を伴うグループワークやゲストスピーカーを招き講演会を実施するなど、社会の多様性に触れる体験を通して、身の周りの事象を俯瞰できるよう学習を進める。</p> <p>さらに本授業では学園祭の準備・運営を授業内活動として位置づけ、企画立案、役割分担、制作、広報、運営、振り返りまでを実践的に体験する。その体験の中で学生はグループで協働しながら、来場者の視点を意識した企画を考え、限られた時間や条件の中で実現に向けて取り組む。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 学校周辺を探索し、知る</p> <p>第2回 オリエンテーション 学校周辺を探索し、知る</p> <p>第3回 理事長講演「センス・オブ・ワンダー」</p> <p>第4回 「子どもを取り巻く社会の事象」</p> <p>第5回 学園祭①</p> <p>第6回 講演会・事前学習</p> <p>第7回 ゲストスピーカーによる講演会</p> <p>第8回 学園祭②</p> <p>第9回 講演会・事後学習</p>		

	第 10 回 学園祭③ 第 11 回 学園祭④ 第 12 回 学園祭⑤				
準備学習と必要時間	・毎回 60 分の予習と復習時間をとること。 ・毎回、自身で学習の内容を整理して、次回に繋げること。				
評価方法	・授業への取り組み(授業への積極的な取り組み・発言) — 60% ・レポート — 40%				
参考文献	特になし				
特記事項	授業時間は各回の内容に合わせて設定する。オリエンテーションにて説明するので気をつけること。				
課題へのフィードバック方法	レポートには授業内でコメントをする。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業	必修	幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格		
教員の実務経験					

ナンバリング	A②03	科目名	教養総合演習
担当形態	オムニバス	担当教員	明石 現・由田 新
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	適宜配布		
開講時期	後期	単位数・ 授業形態	1 単位・演習
到達目標	本授業は「教養基礎演習(前期)」の「自ら学ぼうとする姿勢」と「他者に目を向けながら学ぶ姿勢」に関して、「自然科学」や「現代史」を通して、より深く考察する。また、2年次の卒業必修科目「現代社会論」との連携を図り、より広範な視野を獲得する。		
授業の概要	本授業は、上記2つの学びの姿勢に関して、より具体的に、そして確実に理解を深めるため、後期は「自然科学」「現代史」を学習する他、2年次の「現代社会論」と連携する。これらを通して、更に一歩踏み込んだ話題提供をし、社会を形成する一員として具体的に「自分は何を意識して、何を求めて行動するのか」を突き詰めることとする。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 自然科学①グループでテーマ設定 第2回 自然科学②グループでテーマ研究・発表準備 第3回 自然科学③グループでテーマ研究・発表準備 第4回 自然科学④研究発表 第5回 現代史①グループでテーマ設定 第6回 現代史②グループでテーマ研究・発表準備 第7回 現代史③グループでテーマ研究・発表準備 第8回 現代史④研究発表 第9回 「フィールドワーク」との連携、まとめ		
準備学習と必要時間	・毎回 60 分の予習と復習時間をとること。 ・毎回、自身で学習の内容を整理して、次回に繋げること。		
評価方法	・授業への取り組み(授業への積極的な取り組み) — 60% ・レポート — 40%		
参考文献	特になし		
特記事項	特になし		

課題へのフィードバック方法	・発表には、口頭にてコメントする。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業	必修	幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格		
教員の実務経験					

ナンバリング	A②04	科目名	キャリアデザイン I
担当形態	単独	担当教員	明石 現
ディプロマポリシーとの関連性	②, ③		
テキスト	資料を適宜配布する。		
開講時期	前期	単位数・授業形態	1 単位・講義
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「働くこと」とそれに関する様々な労働法について理解し、自分の言葉で説明することができる。 ・自己理解を深め、自身のキャリアについて検討し、書き表すことができる。 ・千葉県および自らの暮らす地域の「子ども・子育て支援」について理解し、説明することができる 		
授業の概要	<p>本授業は、自分の人生を生涯にわたって形成していくために、「働くこと」について考えていきます。そのために労働に関する様々な労働問題や法について、グループディスカッションを通して理解を深めます。</p> <p>また、社会における保育者の役割や多様な働き方を知り、自分が保育者としてどのように働きたいのかを考えていきます。</p>		
授業計画	<p>第 1 回 「働くこと」について考える①「働く」とは？</p> <p>第 2 回 「働くこと」について考える② 自分について考えよう</p> <p>第 3 回 「働くこと」に関する法を学ぼう</p> <p>第 4 回 仕事と生活の調和:さまざまな労働問題について(過労と心身の健康など)</p> <p>第 5 回 社会における「保育者」という職業について:自分の地域を調べよう</p> <p>第 6 回 自身が暮らす地域の「子ども・子育て支援」の調査</p> <p>第 7 回 グループディスカッションと発表</p> <p>第 8 回 自身のキャリアについて考える、まとめ</p>		
準備学習と必要時間	<ul style="list-style-type: none"> ・提示した課題について、事前に調べておくこと(必要時間:60 分以上) ・ニュース・新聞等で「労働問題」や「子ども・子育て」に関する報道に常に興味を持つこと。 		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での取り組み(グループワークでの姿勢や発言内容) 20% ・提示した課題の提出状況及び内容 60% ・キャリアに関する自己課題への取り組み 20% 		

参考文献	川崎友嗣 他「大学生のためのキャリアデザイン 自分を知る・社会を知る・未来を考える」ミネルヴァ書房、2019 宗方比佐子他「大学生のための『キャリア開発の教科書』」ミネルヴァ書房、2022				
特記事項	なし				
課題へのフィードバック方	提出物には次回の授業の冒頭で教員がコメントします。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業	必修	幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格		
教員の実務経験					

ナンバリング	B①01	科目名	教育原論 (教育に関する社会的・制度的事項を含む)
担当形態	単独	担当教員	由田 新
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②		
テキスト	資料を適宜用意します		
開講時期	前期	単位数・ 授業形態	2単位・講義
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな教育という働きについて理解し、説明できる。 ・教育に関する思想や法的・制度的仕組みについて理解し、説明できる。 ・身近にある様々な教育の問題に興味を持ち自分なりの見解を持ち、説明できる。 		
授業の概要	<p>教育というと学校での教育をイメージしやすいと思いますが、教育＝学校ではありません。学校は「教育」のある部分を担ってはいますが、私たちは学校だけで成長しているわけではありません。この授業ではまず、学校以外での教育を考えます。そして、教育についての基礎的な理論・思想・制度等を学びつつ、今日の学校というシステムを見つめ直し、人が一人前の人間へと育っていくということの本質を考えていきます。それは、幼児教育や保育の考え方の理解へと繋がっていくと思います。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 教育とは何か 第2回 なぜ教育が必要か 第3回 日々の生活の営みにある教育①家庭・地域がもっていた教育力 第4回 日々の生活の営みにある教育②子どもの遊び集団がもっていた教育的機能 第5回 人が育つ環境としての現代社会の課題(家庭・地域・社会) 第6回 近代公教育制度の成立と今日の学校の理念 第7回 今日の教育制度・保育制度とその課題 第8回 教育改革の動向と諸外国の教育事情 第9回 学校と地域の連携 第10回 近代教育思想の歴史 第11回 子ども観と教育思想 第12回 幼稚園教育要領・保育所保育指針の考え方と方法 第13回 生涯学習社会と教育 第14回 安全教育と危機管理 第15回 現代教育の諸問題／総まとめ</p>		

準備学習と必要時間	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で提示された課題について調査・検討してくる事。 ・授業後に授業内で学んだことを整理し、まとめること。(合わせて 60 分以上) 				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小レポート - 20% ・小テスト - 30% ・期末レポート - 50% 				
参考文献	「教育学への視座—教育へのまなざしの転換を求めて」(青木久子編著、萌文書林) 「学校ってなんだろう—教育の社会学入門」(苅谷剛彦著、筑摩書房) 「子どもの社会力」(門脇厚司、岩波書店)				
特記事項	なし				
課題へのフィードバック方法	・提出物には次回の授業の冒頭で教員がコメントします。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状	必修	教育の基礎的理解に関する科目
	その他	社会福祉主 事任用資格 選択必修	保育士資格	必修	保育の本質・目的に関する科目
教員の実務経験					

ナンバリング	B①02	科目名	保育原論
担当形態	単独	担当教員	伊藤 恵里子
ディプロマポリシーとの関連性	②		
テキスト	「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館 「保育所保育指針解説」 フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 フレーベル館 その他、資料を適宜配布する。		
開講時期	前期	単位数・ 授業形態	2単位・講義
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の意義と目的について理解し、説明することができる。 ・幼稚園教育要領・保育所保育指針における保育の基本について理解し、説明することができる。 ・保育の内容と方法の基本について理解し、説明することができる。 ・保育の思想と歴史的変遷について理解し、説明することができる。 ・保育の現状と課題について考察し、意見を表明する。 		
授業の概要	保育所保育指針等における保育の基本について学び、保育の意義や目的を理解する。また、保育の内容と方法、法令や制度の基本、歴史的変遷や思想について学んだ上で、保育の現状と課題について考察する。		
授業計画	第1回 「保育」とは何か:「保育」のイメージ 第2回 あらためて「保育」とは何か 第3回 保育の基盤としての子ども観 第4回 子ども理解から出発する保育 第5回 保育内容・方法の原理:保育の基本 第6回 保育内容・方法の原理:保育の一場面から 第7回 子どもが育つ環境の理解 第8回 保育実践から学ぶ①(第1～7回までのまとめ) 第9回 保育の計画と実践の原理 第10回 多様な子どもと共に育つ保育:多様性が求められる時代の保育 第11回 多様な子どもと共に育つ保育:保育の一場面から 第12回 現代の子育てと子育て支援 第13回 保育の歴史に学ぶ 第14回 保育実践から学ぶ②(第9～13回までのまとめ)		

	第 15 回 保育の現状と課題				
準備学習と必要時間	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で提示された課題について調査・検討してくる。 ・授業後に授業内で学んだことを整理し、まとめること。(60 分程度) 				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内コメントシート 20% ・授業内課題 30% ・期末レポート 50% 				
参考文献	授業内で紹介する。				
特記事項	なし				
課題へのフィードバック方法	授業内コメントシートや課題に対しては、次回以降の授業でコメントをする。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業	必修	幼稚園教諭免許状		
	その他	社会福祉主 事任用資格 選択必修	保育士資格	必修	保育の本質・目的に関する科目
教員の実務経験					

ナンバリング	B①03	科目名	発達心理学(講義)
担当形態	単独	担当教員	相磯 友子
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②		
テキスト	適宜資料を配布します。		
開講時期	前期	単位数・ 授業形態	2単位・講義
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯発達の観点から、特に胎児期～乳幼児期の発達の特徴を理解した上で、子どもの発達と保育実践に関わる基本的知識を習得する。 ・生涯発達という考え方を理解し、説明できる。 ・各時期の発達の特徴を理解し、自分の言葉で説明できる。 ・生涯における乳幼児期の経験の重要性について説明できる。 		
授業の概要	<p>「発達」というと、何かを「獲得する(できるようになる)こと」とイメージしやすいと思いますが、それだけではありません。この授業では、講義を中心に、生涯発達の視点から「発達」の考え方を学びます。また、特に乳幼児期の身体・認知・言語・社会性の発達について学びます。各発達段階の特徴を理解することは、保育者として、一人ひとりの子どもの発達過程に合わせた支援を考える際の基盤になります。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、発達とは、子ども観</p> <p>第2回 発達観、遺伝と環境</p> <p>第3回 発達の理論</p> <p>第4回 胎児期から新生児期の発達</p> <p>第5回 乳幼児期の認知の発達とそれを支える保育</p> <p>第6回 乳幼児期の身体・運動機能の発達とそれを支える保育</p> <p>第7回 乳幼児期の思考の発達とそれを支える保育</p> <p>第8回 乳幼児期の社会性・情動の発達(1)とそれを支える保育</p> <p>第9回 乳幼児期の社会性・情動の発達(2)とそれを支える保育</p> <p>第10回 乳幼児期の自己の発達とそれを支える保育</p> <p>第11回 乳幼児期のことばの発達とそれを支える保育</p> <p>第12回 乳幼児期の仲間関係の発達とそれを支える保育</p> <p>第13回 乳幼児期の遊びの発達とそれを支える保育</p> <p>第14回 児童期の発達</p> <p>第15回 生涯における乳幼児期の重要性</p>		

準備学習と必要時間	毎週 60 分以上は、授業で紹介する資料や本、絵本を読んだり、テレビや動画の視聴を通して事例と結びつけて考えてください。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの解答 — 70% ・授業での議論・話し合い活動への貢献 — 30% 				
参考文献	授業で適宜示します。				
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・講義中心ですが議論や話し合い活動を行うこともあるため、授業への積極的な参加を期待します。 ・単位を修得できない場合、発達心理学(演習)は履修できません。 				
課題へのフィードバック方法	ワークシートの解答には適宜コメントを付け、次の授業の冒頭で返却し解説します。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状	必修	教育の基礎的理解に関する科目
	その他		保育士資格	必修	保育の対象の理解に関する科目
教員の実務経験					

ナンバリング	B①06	科目名	発達心理学(演習)
担当形態	単独	担当教員	石井 喜美
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②		
テキスト	「子どもの理解と援助演習で学ぶ、心身の発達をみる力と保育者のかかわり方」 萌文書林		
開講時期	後期	単位数・ 授業形態	1単位・演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと共に生活し、その育ちを支え、かかわりながら自らも育っていく者となるために、以下のことを目標にします。 ・子どもは生活や遊びの中で、生きるために必要な様々な経験をしていることを説明することができる。 ・子どもの発達理解に基づく援助という観点から、保育行為を捉えて記述することができる。 		
授業の概要	<p>保育の現場で、子どもが身近な環境や人とかかわって体験することが、その子どもの発達とどう結びついているのか、またそれを援助するとはどういうことなのかを学びます。</p> <p>授業では、実習等で出会った子どもの生活や遊び、保育者の援助や環境構成といったものを結びつけながら、子どもの発達を踏まえた保育実践について学びます。また、話し合い等のグループワークを通して考察を深めていきます。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 保育における子ども理解の意義</p> <p>第2回 子ども理解における発達の把握</p> <p>第3回 生活や遊びを通じた学び①子どもにとっての生活や遊びとは</p> <p>第4回 生活や遊びを通じた学び②遊びと発達</p> <p>第5回 子どもの主体的学び①子どもの主体的行動と保育者の関わり</p> <p>第6回 子どもの主体的学び②主体性を尊重した発達援助</p> <p>第7回 環境としての保育者と子どもの発達</p> <p>第8回 身体感覚を伴う多様な経験と環境の相互作用</p> <p>第9回 個と集団の発達を踏まえた保育</p> <p>第10回 集団における経験と育ち</p> <p>第11回 発達の課題に応じた援助や関わり</p> <p>第12回 発達の連続性と就学への支援</p> <p>第13回 現代社会における子どもの発達と保育の課題</p>		

	第 14 回 これまでのまとめ 期末試験 第 15 回 期末試験解説 全体の振り返り				
準備学習と必要時間	毎回 60 分以上の予習と復習時間をとること。 ・授業内で提示される課題を行うこと。その際、発達心理学(講義)や実習等で学んできたことと関連づけながら考えてくること。 ・授業内で学んだことを復習し、理解しておくこと。				
評価方法	・授業での取り組み(グループワークへの参加、発言内容等)ー20% ・毎回のリアクションペーパー、または課題 ー30% ・期末試験 ー50%				
参考文献	繁多 進(監修)向田久美子・石井正子(著) 『新 乳幼児発達心理学ーもっと子どもが分かる 好きになるー』(福村出版)				
特記事項	なし				
課題へのフィードバック方法	試験後、模範解答を提示して解説を行う。 リアクションペーパーや課題等については、次の授業内に解説する等してフィードバックを行う。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状	必修	教育の基礎的理解に関する科目
	その他		保育士資格	必修	保育の対象の理解に関する科目
教員の実務経験					

ナンバリング	B①07	科目名	こども家庭支援の心理学
担当形態	オムニバス	担当教員	石井 喜美・佐藤 隆司
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	授業中、適宜、配布する		
開講時期	後期	単位数・ 授業形態	2単位・講義
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解し、説明できる。 2. 家族・家庭の意義(機能)を理解するとともに、日本における家族の変遷と家族支援の必要性を理解する。 3. 「豊か」な人生を送るためのワーク・ライフ・バランスと働き方改革に関して理解する。 4. こどもの精神保健とその課題について理解し、説明できる。 		
授業の概要	<p>生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、親子・家族関係に関して発達の観点と社会的な観点から理解する。また、子育て家庭を取り巻く現在の状況と課題、こどもの精神保健等に関して理解する。</p> <p>なお、授業の進捗状況により若干、授業計画は前後することもあり得る。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション「こども家庭支援」という視点について(石井・佐藤)</p> <p>第2回 乳幼児期から学童期前期にかけての発達(石井)</p> <p>第3回 学童期後期から青年期にかけての発達(石井)</p> <p>第4回 成人期・老年期における発達(石井)</p> <p>第5回 親子関係・家族関係の理解(石井)</p> <p>第6回 子育て経験と親としての育ち(石井)</p> <p>第7回 家族・家庭の意義と機能(佐藤)</p> <p>第8回 子育てを取り巻く社会的状況(佐藤)</p> <p>第9回 ライフコースと仕事・子育て(佐藤)</p> <p>第10回 多様な家庭とその理解(佐藤)</p> <p>第11回 特別な配慮を要する家庭(石井)</p> <p>第12回 こどもの生活・生活環境とその影響(石井)</p> <p>第13回 こどもの心の健康に関わる問題(石井)</p> <p>第14回 第1回－第14回学修内容確認(石井・佐藤)</p> <p>第15回 総括(石井・佐藤)</p>		

準備学習と必要時間	<p>【予習】 毎日 10 分以上は家族・保育に関連する新聞、ネットニュースなどを読んでおくこと。</p> <p>【復習】 授業後は、授業中に指摘したポイント、留意事項などを説明できるように整理しておくこと(予習・復習計1時間以上)。</p>				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度等(課題提出期限厳守) — 20% ・課題 — 20% ・期末試験 — 60% 				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『保育所保育指針』厚生労働省, 2017年 ・『保育所保育指針解説』厚生労働省, 2018年 ・本郷一夫・神谷哲司編著『シードブック 子ども家庭支援の心理学』建帛社, 2019年 ・永房典之編著『新・子ども家庭支援の心理学—発達・家族の理解と子育て支援—』教育情報出版, 2023年 <p>※その他, 必要に応じて授業中に紹介する。</p>				
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・講義中心。 ・私語、飲食、化粧、電子機器使用(録画・録音等)などは禁止。 				
特記事項 課題へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・質問は原則、翌週の授業の際、コメントする。 ・課題等に関しては模範解答を提示して解説をする 				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格	必修	保育の対象の理解に関する科目
教員の実務経験	<p>(佐藤)児童相談所(区域担当・虐待防止調整担当・里親担当児童福祉司)、児童養護施設、児童自立支援施設等の実務経験を活かして現場の実情と課題等に触れ、より実践的な授業を展開する。</p>				

ナンバリング	B①08	科目名	カリキュラム論
担当形態	単独	担当教員	尾形 優一
ディプロマポリシーとの関連性	②		
テキスト	「教育・保育課程論 書いて学べる指導計画」 萌文書林		
開講時期	後期	単位数・ 授業形態	2単位・講義
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育における計画の意味と考え方を理解し、実際に指導案を作成することができる。 ・様々な計画とそれぞれの持つ特徴について理解し、説明できる。 ・環境を通して行う教育について説明できる。 		
授業の概要	<p>保育におけるカリキュラムの意義やその役割について理解を深め、全体的な計画・教育課程、長期・短期指導計画のそれぞれの持つ特徴や立案の方法を学ぶ。また、実際に指導計画の立案を通して、保育実践との関連性や反省・評価の観点について理解を深めることを目標とする。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション/カリキュラムとは何か/保育における計画の基礎的知識 第2回 全体的な計画と教育課程 / 指導計画の位置づけと役割 第3回 部分的な活動における指導計画の書き方 第4回 環境を通して行う教育にかかわる基礎的理解 第5回 保育における計画の種類とその意義 第6回 長期指導計画について 第7回 短期指導計画について 第8回 幼児の発達・子どもに即した指導計画 第9回 0歳児の発達・子どもの姿に即した指導計画 第10回 1-2歳児の発達・子どもの姿に即した指導計画 第11回 指導計画の反省評価 第12回 カリキュラム・マネジメントの意義とその重要性 第13回 地域・小学校との連携と計画 第14回 試験 これまでの学習成果のまとめ 第15回 カリキュラム論に関わる基礎的事項の確認</p>		

準備学習と必要時間	授業前にテキストを読み、該当事項について必要な語句を調べたりしておくこと。 (30分以上) 復習として、授業で学んだことをまとめ提出する。(30分以上)				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での取り組み (グループ活動やディスカッションでの積極的な取り組みや発言内容):20% ・授業毎の小レポート:30% ・試験:50% 				
参考文献	「教育・保育課程論 書いて学べる指導計画」 萌文書林 「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開」 文部科学省 チャイルド本社 「改訂版 実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド」 小櫃智子 田中君枝・小山朝子・遠藤純子 わかば社				
特記事項	PC・タブレットを用いた授業内課題やグループワークがあるため、毎回の授業に充電してある状態で持参してください。また、筆記用具も持参してください。				
課題へのフィードバック方法	小レポートや授業内課題は、確認した後に次回以降の授業内で共有し解説します。試験の解答用紙は、15回目の授業で返却します。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状	必修	教育の基礎的理解に関する科目
	その他		保育士資格	必修	保育の内容・方法に関する科目
教員の実務経験					

ナンバリング	B①04	科目名	乳児保育 I
担当形態	単独	担当教員	田中 悦子
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	「やさしい乳児保育」 青踏社		
開講時期	前期	単位数・ 授業形態	2 単位・講義
到達目標	<p>1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。</p> <p>2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。</p> <p>3. 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と保育者が行うべき援助・配慮について理解する。</p> <p>4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。</p> <p>※「乳児保育」とは、3 歳未満児を念頭に置いた保育を示す。</p>		
授業の概要	<p>3 歳未満児を念頭に置いた乳児保育の理念や社会的な役割と背景、歴史的変遷について学ぶと共に、多様な保育の場における乳児の保育の現状と課題について理解する。また、運営体制及び保護者や関係機関との連携や、乳児の発達と生活や遊びを踏まえた保育の内容について学ぶ。</p> <p>特に、発育・発達を踏まえた保育内容を扱う中で、夏期の乳児保育体験に向けて、抱っこやおんぶなど、基本的な乳児とのかかわり方についても触れる。</p>		
授業計画	<p>第 1 回 乳児保育の意義・目的</p> <p>第 2 回 乳児保育の歴史及び役割と機能</p> <p>第 3 回 乳児保育の基本～養護と教育～</p> <p>第 4 回 乳児が生活する場所と課題(家庭・保育所等)</p> <p>第 5 回 乳児保育の生活</p> <p>第 6 回 職員間・職種間の連携、保護者との連携</p> <p>第 7 回 3 歳未満児とその家庭を取り巻く環境と保護者支援</p> <p>第 8 回 乳児保育を取り巻く社会的状況と課題・関係機関との連携</p> <p>第 9 回 乳児期の生活と遊び、保育者による援助・配慮</p> <p>第 10 回 おおむね 0～6 か月児の生活と遊び、保育者による援助・配慮</p> <p>第 11 回 おおむね 6 か月～1 歳の生活と遊び、保育者による援助・配慮</p> <p>第 12 回 おおむね 1 歳～2 歳未満児の生活と遊び、保育者による援助・配慮</p>		

	第 13 回 おおむね 2 歳児の生活と遊び、保育者による援助・配慮 ～3 歳以上児の保育への移行を踏まえて～ 第 14 回 子ども同士の関わりと援助・配慮 第 15 回 期末試験と総まとめ				
準備学習と必要時間	・毎回 60 分の予習復習時間をとること (復習では、授業内で学んだことを整理し、レジメまたはノートにまとめること)				
評価方法	・授業での取り組み(積極的な取り組みや発言内容) 10% ・振り返りワーク等の提出物 10% ・期末試験 80% ※再試験あり(おおよそ試験結果発表後 2 週間以内)				
参考文献	「保育所保育指針解説」厚生労働省編				
特記事項	・単位を修得できない場合、乳児保育Ⅱは履修できません。				
課題へのフィードバック方法	・振り返りワーク・期末試験後に模範解答を提示して解説を行います。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格	必修	保育の内容・方法に関する科目
教員の実務経験					

ナンバリング	B①09	科目名	乳児保育Ⅱ
担当形態	単独	担当教員	田中 悦子
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②		
テキスト	「やさしい乳児保育」 青踏社		
開講時期	後期	単位数・ 授業形態	1単位 演習
到達目標	<p>1. 3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わりの方について理解する。</p> <p>2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。</p> <p>3. 乳児保育における配慮に実際について、具体的に理解する。</p> <p>4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。</p> <p>※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭に置いた保育を示す。</p>		
授業の概要	<p>乳児保育体験での経験を振り返りながら、養護及び教育の一体性を踏まえた乳児保育の内容と方法を学ぶ。(乳児保育体験からの学びをグループで討議を行う)</p> <p>また、個々の生活リズムを大切にする乳児保育の計画や環境構成等とその際の配慮の実際についての具体的に理解を深める。(調乳・排泄等の演習を通して乳児保育の援助・配慮・環境構成等について具体的に学ぶ)</p>		
授業計画	<p>第1回 「乳児保育Ⅰ」の学習内容の確認と振り返り(前期試験返却)</p> <p>第2回 乳児保育における環境構成 ～環境を通じた関わり～</p> <p>第3回 乳児保育における環境構成 ～遊びの環境づくり～</p> <p>第4回 発育・発達を踏まえた生活と援助の実際 ～授乳等～</p> <p>第5回 保育者の役割① 乳児保育体験を通して ～自己の育ち、学びの芽生えを育む～</p> <p>第6回 保育者の役割② 乳児保育体験を通して ～受容的・応答的な関わり・個に応じた援助～</p> <p>第7回 保育者の役割③ 乳児保育体験を通して ～子どもと保育者の関係性～</p> <p>第8回 発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際 ～手遊び・絵本～</p> <p>第9回 発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際 ～排泄～</p> <p>第10回 発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際 ～玩具づくり～</p>		

	<p>第 11 回 乳児保育における配慮の実際 ～健康・安全～</p> <p>第 12 回 発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際 ～手作り玩具を通した遊び～</p> <p>第 13 回 乳児保育における計画・記録・評価とその意義 ～長期・短期の計画の実際～</p> <p>第 14 回 後期試験(50 分) これまでの振り返り</p> <p>第 15 回 乳児保育Ⅱの学習内容の確認と振り返り</p>				
準備学習と必要時間	<p>・毎回 60 分は予習復習時間をとること (復習では、授業内で学んだことを整理し、レジメまたはノートにまとめること)</p>				
評価方法	<p>・乳児保育体験の振り返りについてのレポート 10%</p> <p>・授業での取り組み(グループ討議への積極的な取り組みや発言内容) 10%</p> <p>・振り返りワーク等の提出物 10%</p> <p>・手作り玩具提出 10%</p> <p>・期末試験 60% (再試験あり・おおよそ試験結果発表後 2 週間以内)</p>				
参考文献	<p>「保育所保育指針解説」厚生労働省編</p>				
特記事項 課題へのフィード バック方法	<p>【特記事項】</p> <p>・演習・グループ討議を行う予定のため、積極的な参加を期待する</p> <p>【課題へのフィードバック方法】</p> <p>・振り返りワーク・期末試験後に模範解答を提示して解説を行います。</p>				
卒業・免許状・資格 との関連	卒業		幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格	必修	保育の内容・方法に関する科目
教員の実務経験					

ナンバリング	B①10	科目名	特別支援保育 I
担当形態	単独	担当教員	相磯 友子
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	適宜資料を配布します。		
開講時期	後期	単位数・ 授業形態	1 単位・講義
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・障害観を理解し、「障害の社会モデル」について説明できる。 ・障害についての基礎知識を学び、具体的な支援方法を考えることができる。 ・身近な存在として、障害のある子ども(人)の特性だけでなく「内面」に目を向け、もっと関わってみたい、もっと知りたいと興味・関心をもつ。 		
授業の概要	<p>この授業では、まず障害をどのように見るかという「障害観」を学びます。次に、様々な障害のある子ども(人)の内面世界を、映像や疑似体験を通して丁寧に理解していきます。「障害」とは何なのか、また障害のある子ども(人)と関わる上で保育者としてどのようなことを大切にしたいのかを自分なりに考えながら、柔軟な視点を持って参加してください。</p>		
授業計画	<p>第 1 回 オリエンテーション、障害観 第 2 回 支援の必要な子どもはどこにいるか 第 3 回 肢体不自由の子ども理解と支援 第 4 回 聴覚障害の子ども理解と支援 第 5 回 視覚障害／盲ろうの子ども理解と支援 第 6 回 知的障害の子ども理解と支援 第 7 回 自閉症の子ども理解と支援 第 8 回 発達障害の子ども理解と支援 第 9 回 読み書きに困難のある子ども理解と支援 第 10 回 吃音の子ども理解と支援 第 11 回 重症心身障害・医療的ケアの必要な子ども理解と支援 第 12 回 外国につながる子ども理解と支援 第 13 回 支援の必要な子どもの保護者支援 第 14 回 保育における合理的配慮 第 15 回 インクルーシブ保育とは</p>		

準備学習と必要時間	毎週 60 分以上は、授業で紹介する資料や本、絵本を読んだり、テレビや動画の視聴を通して事例と結びつけて考えてください。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ごとの小テスト - 70% ・授業での議論・話し合い活動への貢献 - 30% 				
参考文献	授業で適宜示します。				
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・講義中心ですが議論や話し合い活動を行うこともあるため、授業への積極的な参加を期待します。 ・単位を修得できない場合、特別支援保育Ⅱは履修できません。 				
課題へのフィードバック方法	小テストの解答は適宜コメントを付け、次の授業の冒頭で返却し解説します。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状	必修	教育の基礎的理解に関する科目
	その他		保育士資格	必修	保育の内容・方法に関する
教員の実務経験					

ナンバリング	B①05	科目名	こどもの保健
担当形態	単独	担当教員	有馬 祐子
ディプロマポリシーとの関連性	②, ③		
テキスト	「体系的に学ぶ 子どもの保健・子どもの健康と安全」学健書院・ 「子育てハッピーアドバイス 知っててよかった小児科の巻」1万年堂出版		
開講時期	前期	単位数・ 授業形態	2単位・講義
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、説明できる。 ・こどもの身体的な発育・発達について理解し、説明できる。 ・こどもの心身の健康状態とその把握の方法について理解し、説明できる。 ・こどもの疾病の予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解し、説明できる。 		
授業の概要	こどもの心身の健康や、身体的な発育・発達と保健に関する基本的な知識を学ぶ。また、保育及び地域における、他職種間の連携・協働の下での保健活動の実状と、その意義を理解する。また、こどもの疾病の予防及び適切な対応について検討する。ディスカッション、発表も取り入れ、学習を深めていく。		
授業計画	第1回 こどもの環境とは何か 第2回 健康とは何か 第3回 ヒトの成り立ち・こどもの保健の意義とは何か 第4回 生理機能の発達について(脳・呼吸器・循環器) 第5回 生理機能の発達について(消化器・排泄・代謝) 第6回 運動機能の発達について 第7回 精神機能の発達について 第8回 感染症の予防について 第9回 感染症の適切な対応について 第10回 予防接種について 第11回 アレルギー疾患の予防および適切な対応について 第12回 口と歯の健康と適切な対応について 第13回 先天性疾患・その他の疾患について 第14回 熱中症について 第15回 試験・熱中症の予防と対応について		

準備学習と必要時間	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時に与えられた事前課題は、次回授業時までには必ず内容を把握し、出席時に提出すること。(30分) ・授業の記録は、時々点検する予定なので、提出できるノートを用意し、記録の整理をしておくこと。(10分) ・授業時に取り組んだワークシートは、返却されたら復習できるように整理し、目を通すこと。(30分) 				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時配付する課題(事前) — 22% ・授業中配付するワークシート — 28% ・期末試験 — 50% 				
参考文献	授業中に適宜示す。				
特記事項	配布資料を整理するファイルの準備をお願いします。				
課題へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時には必要ないものを整頓し、片付けるべき道具はしまうこと。 ・課題の提出においては、書式、提出期日を守ること。 ・単位を修得できない場合、こどもの健康と安全は履修できません。 ・試験後は、解答を提示します。オンラインで講評します。 				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格	必修	保育の対象の理解に関する科目
教員の実務経験					

ナンバリング	B②01	科目名	こどもと環境
担当形態	単独	担当教員	古賀 琢也
ディプロマポリシーとの関連性	②, ③		
テキスト	「散歩しながら子どもに教えてあげられる草花図鑑」主婦の友社		
開講時期	前期	単位数・ 授業形態	1単位・演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境に目を向け、こどもの育ちや保育への繋がりを意識するようになる。 ・身近な動植物や、文化・歴史などについて、こどもと楽しみながら探求していく姿勢を身につける。 ・領域「環境」の視点からこどもの育ちや保育について捉えることができる。 		
授業の概要	フィールドでの身近な自然の観察、グループでの探索などを基に身近な環境に触れ、親しんでいく。また、観察や探索で体験したことを共有することで、遊びの展開や環境のおもしろさについて互いに意見を出しながら考えていく。その際、領域「環境」に関する視点や感性にも触れながら、専門的な力を養っていく。		
授業計画	第1回 学園内を探検し、お気に入りの場所や植物を見つけよう 第2回 身近な草花と保育 ～身近な自然に目を向ける・遊ぶとは～ 第3回 地域に目を向ける ～遊びから疑問や問いを膨らませよう～ 第4回 フィールドに出かけてみよう、学外探検 第5回 探検や発見をドキュメンテーションにまとめてみよう 第6回 経験を仲間と共有しよう ～遊びのプロセス・疑問と発見を共有する意味～ 第7回 虫かごを持って生き物探しに行こう ～作る・使う・観察する～ 第8回 身近な生き物と保育 ～飼育・発見・生命と子どもが経験すること～ まとめ		
準備学習と必要時間	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で提示された視点に基づいて、身近な環境を意識して生活する。 (必要時間:各回 30分以上) ・授業内で学んだことを整理し、まとめること。(必要時間:各回 30分以上) ・指定された資料がある場合は、資料を読み、自分なりの考えをまとめておくこと。 		

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・自然観察、遊びのレポート、 — 20% ・地域フィールドワークの準備、発表 — 20% ・生き物観察の準備、振り返り小レポート — 20% ・グループワークへの参加の積極性 — 20% ・まとめレポート — 20% 				
参考文献	授業中に適宜示します				
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・個人でのレポートだけでなく、グループでの議論やワークも行います。積極的な参加を期待します。 ・必要に応じて、学内外でのフィールドワークを行います。雨天でもフィールドワークを行うため、必要に応じて服装や靴などを調整して授業に臨むこと。 				
課題へのフィードバック方法	レポートにはコメント等をいれて返却します。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状	必修	領域及び保育内容の指導法に関する科目・環境
	その他		保育士資格	必修	保育の内容・方法に関する科目
教員の実務経験	保育所、認定こども園での実践経験を踏まえ、保育における身近な自然の活かし方や子どもの感性について事例を交えながら解説する。				

ナンバリング	B②02	科目名	こどもと言葉
担当形態	単独	担当教員	池谷 潤子
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館 「保育所保育指針解説」 フレーベル館		
開講時期	前期	単位数・ 授業形態	1単位 演習
到達目標	(1)人にとっての言葉の意義や機能を理解し、説明できる。 (2)言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解し、具体的な例を説明できる。 (3)幼児にとっての児童文化財の意義を理解し、基礎的な知識を身につける。		
授業の概要	領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を身に付ける。具体的には、人間にとっての「言葉」の意義と機能について理解した上で、幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身に付ける。		
授業計画	第1回 人にとって「言葉」とは何か? —人間にとっての言葉の意義と機能 第2回 子どもは、言葉をどのように獲得するのか? — 子どもの言葉の発達過程:誕生から、文字の獲得まで 第3回 「言葉に対する感覚」とは何か? — 言葉の美しさ、楽しさを感じてみよう(演習) 第4回 言葉に対する感覚を豊かにする実践とは? — 様々な言葉遊びと保育への取り入れ方 第5回 子どもと楽しむ「言葉遊び」を考えてみよう(演習) 第6回 言葉を育て、想像する楽しさを広げる「児童文化財」とは? — 子どもにとっての「児童文化財」の意義 第7回 児童文化財の実際 —種類や歴史、保育への取り入れかた 第8回 児童文化財を用いた実践 — 子どもと一緒に絵本(物語・紙芝居など)を楽しもう(模擬保育)		
準備学習と必要時間	毎回 60 分以上の予習と復習時間をとること。		
評価方法	・授業への参加度(グループ活動、発表、模擬保育等) — 40% ・小レポート(毎回の授業での学びのふりかえり) — 30% ・最終レポート(授業での学びのふりかえりと今後の展開) — 30%		

参考文献	参考文献を適宜提示する。				
特記事項	なし				
課題へのフィードバック方法	レポートには翌週の授業でコメントをします。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状	必修	領域及び保育内容の指導法に関する科目・言葉
	その他		保育士資格	必修	保育の内容・方法に関する科目
教員の実務経験					

ナンバリング	B②07	科目名	こどもと表現
担当形態	オムニバス	担当教員	明石 現・池谷 潤子・大澤 ちづる
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「保育所保育指針解説」フレーベル館		
開講時期	後期	単位数・ 授業形態	1単位・演習
到達目標	領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達について理解するとともに、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な専門的事項についての知識を身につける。		
授業の概要	「あそび基礎演習」の授業の中で、自らが経験し学んだ表現活動や表現技術を基に、「表現とは何か」に立ち返り、表現について考える授業である。保育現場や乳幼児の具体的な実践例に触れながら、保育者としての専門的視点や知識を学ぶ。また、幼児理解を深めるために、幼児の表現の発達過程についても学んでいく。授業では、その時々課題に応じてグループディスカッションをしながら深めていく。保育者として幼児と関わる自分を想像しながら授業に臨むことが求められる。		
授業計画	第1回 表現とは何か(担当:明石 現) 第2回 環境要因から見る表現の可能性(担当:明石 現) 第3回 幼児の表現の発達の理解 —身体表現—(担当:池谷 潤子) 第4回 幼児の表現の発達の理解 —造形表現—(担当:池谷 潤子) 第5回 幼児の表現の発達の理解 —音楽表現—(担当:大澤 ちづる) 第6回 保育現場における3歳児未満の表現活動(担当:池谷 潤子) 第7回 保育現場における3歳児以上の表現活動(担当:明石 現) 第8回 ICTの活用と総括(担当:大澤 ちづる)		
準備学習と必要時間	事前に提示された課題に取り組み、準備しておくこと。(必要時間:60分)		
評価方法	・授業毎のフィードバックシート —50% ・授業への取り組み(話し合いへの参加姿勢等) —50%		
参考文献	「新しい保育講座 11 保育内容 表現」ミネルヴァ書房		
特記事項	なし		

課題へのフィードバック方法	提出物には必要に応じてコメントをし、授業内で共有する				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状	必修	領域及び保育内容の指導法に関する科目・健康
	その他		保育士資格	必修	保育の内容・方法に関する科目
教員の実務経験	(大澤)幼稚園(国内外)での教諭経験、及び、発達支援を目的とした音楽療法についての経験を有する。				

ナンバリング	B②03	科目名	保育内容演習(言葉と表現)
担当形態	単独	担当教員	小木曾 友則
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「保育所保育指針解説」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 「保育用語辞典」ミネルヴァ書房		
開講時期	通年	単位数・授業形態	2単位 演習
到達目標	この授業は、実際に子どもとかかわったり、保育者の子どもとかかわり等に触れる体験を通して、保育内容を領域「言葉」及び「表現」に焦点をあてつつ、総合的に学んでいきます。 <ul style="list-style-type: none"> ・日々の生活やあそびの中で様々な体験をし、総合的に子どもが育つということを理解し説明できる。 ・子どもが保育の中で体験している内容を知り、領域「言葉」「表現」の視点から説明できる。 ・生活やあそびを支える子ども理解や子どもとかかわり、保育者の援助を知り記録できる。 		
授業の概要	実際に子どもとかかわりながら、具体的に保育の内容を学んでいくためには、「面白いな」「どうしてだろう」と自分なりに課題をもって取り組むことが学びの第一歩になります。 <p>具体的には、皆さんの体験レポートを基に、子どもが伝えようとする姿や、豊かな感性をもち表現する姿を捉え、子どもを理解したり、保育者の援助を具体的に学んでいきます。同時に言葉や表現の育ちを概観していきます。</p> この授業では保育内容「言葉と表現」に焦点をあてて学びますが、子どもの活動やかかわりの中で独立したものではないことはすぐに理解できることでしょう。ここでは、その他の領域との関連についても触れながら進めていきます。また、他教科とも連携し、自分の身の周りの事物をも意識しながら学んでいきます。		
授業計画	第1回 事例と記録の検討(1)子どもとの触れ合いから 第2回 事例と記録の検討(2)子どもの言葉への感覚や関心から 第3回 事例と記録の検討(3)子どもの感性の豊かさや表現の多様さから 第4回 事例と記録の検討(4)領域「健康」の視点から		

	<p>第 5 回 事例と記録の検討(5)領域「人間関係」の視点から</p> <p>第 6 回 事例と記録の検討(6)領域「言葉」の視点から</p> <p>第 7 回 事例と記録の検討(7)領域「環境」の視点から</p> <p>第 8 回 事例と記録の検討(8)領域「表現」の視点から</p> <p>第 9 回 子どもの幼稚園での生活やあそびから、言葉による表現や音楽・身体・造形表現への心情や意欲を探る (1)理論</p> <p>第 10 回 子どもの幼稚園での生活やあそびから、言葉による表現や音楽・身体・造形表現への心情や意欲を探る (2)実践</p> <p>第 11 回 保育内容領域間や、小学校教科等とのつながりを知る</p> <p>第 12 回 幼稚園での生活やあそびから保育内容「言葉」のねらいと内容を考える～事例検討から</p> <p>第 13 回 保育内容「言葉」における保育実践の動向を知る</p> <p>第 14 回 幼稚園での生活やあそびから保育内容「表現」のねらいと内容を考える～事例検討から</p> <p>第 15 回 保育内容「表現」における保育実践の動向を知る</p> <p>第 16 回 子どもの生活やあそびと保育内容「言葉」「表現」との関連を考える～事例検討から (1)理論</p> <p>第 17 回 子どもの生活やあそびと保育内容「言葉」「表現」との関連を考える～事例検討から (2)実践</p> <p>第 18 回 子どもの「言葉」の獲得と育ちについて知る (1)理論</p> <p>第 19 回 子どもの「言葉」の獲得と育ちについて知る (2)実践</p> <p>第 20 回 子どもの「表現」の多様さを捉える (1)理論</p> <p>第 21 回 子どもの「表現」の多様さを捉える (2)実践</p> <p>第 22 回 子どもの言葉や表現を豊かにする環境、援助の実際を知る (1)理論</p> <p>第 23 回 子どもの言葉や表現を豊かにする環境、援助の実際を知る (2)実践</p> <p>第 24 回 保育内容「健康」との関連性を確認する</p> <p>第 25 回 保育内容「人間関係」との関連性を確認する</p> <p>第 26 回 保育内容「環境」との関連性を確認する</p> <p>第 27 回 生活やあそびを総合的にとらえる(情報機器や教材の活用を含む)</p> <p>第 28 回 保育内容を踏まえた上で指導計画を作成する</p> <p>第 29 回 保育内容を踏まえた上で指導計画に基づき実践する</p> <p>第 30 回 保育内容を踏まえた上で実践後の振り返りを行い、評価の考え方を学ぶ</p> <p>前期期末試験・期末試験解説</p>
準備学習と必要時間	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として課題レポートを行う。(60分以上) ・他の受講生のレポートを読み、他所の意見に触れ、視野を広げる。(60分以上)

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での取り組み(討議への積極的な参加、発言内容、レポート課題) — 60% ・試験(前期・後期) — 40% 				
参考文献	「幼稚園教育要領」 文部科学省 「保育所保育指針」 厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 内閣府				
特記事項	絵本「こどものとも」の年間購読をします。				
課題へのフィードバック方法	試験後、模範解答を提示して解説を行う。 レポートにはコメント等を書き加え返却する。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状	必修	領域及び保育内容の指導法に関する科目
	その他		保育士資格	必修	保育の内容・方法に関する科目
教員の実務経験	(小木曾)保育士・幼稚園教諭として保育所及び幼保連携認定こども園で勤務した経験を踏まえ、具体的な事例を利用しながら実践的な講義を展開する。				

ナンバリング	B②04	科目名	保育内容演習(健康と人間関係)
担当形態	複数	担当教員	伊藤 恵理子・郷家 史芸
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館 「保育所保育指針解説」 フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 フレーベル館 「保育用語辞典」 ミネルヴァ書房		
開講時期	通年	単位数・授業形態	2単位・演習
到達目標	この授業は、実際に子どもとかかわったり、保育者の子どもとかかわり等に触れる体験を通して、保育内容を領域「健康」及び「人間関係」に焦点をあてつつ、総合的に学んでいきます。 <ul style="list-style-type: none"> ・日々の生活やあそびの中で様々な体験をし、総合的に子どもが育つということを理解し説明できる。 ・子どもが保育の中で体験している内容を知り、領域「健康」「人間関係」の視点から説明できる。 ・生活やあそびを支える子ども理解や子どもとかかわり、保育者の援助を知り記録できる。 		
授業の概要	実際に子どもとかかわりながら、具体的に保育の内容を学んでいくためには、「面白いな」「どうしてだろう」と自分なりに課題をもって取り組むことが学びの第一歩になります。 <p>具体的には、皆さんの体験レポートを基に、子どもが身体を動かしてあそび、他者とかかわりながら育つ姿に触れ、子どもを理解したり、保育者の援助を具体的に学んでいきます。少子化という現代的課題から、子ども同士のかかわり合いやその質の保障についても考えていきます。</p> <p>この授業では保育内容「健康と人間関係」に焦点をあてて学びますが、子どもの活動やかかわりの中で独立したものではないことはすぐに理解できることでしょう。ここでは、その他の領域との関連についても触れながら進めていきます。</p> <p>また、他教科とも連携し、自分の身の周りの事物をも意識しながら学んでいきます。</p>		
授業計画	第1回 事例と記録の検討(1)子どもとの触れ合いから 第2回 事例と記録の検討(2)子どものあそびや運動から 第3回 事例と記録の検討(3)子どもと他者のかかわりから		

	<p>第4回 事例と記録の検討(4)領域「健康」の視点から</p> <p>第5回 事例と記録の検討(5)領域「人間関係」の視点から</p> <p>第6回 事例と記録の検討(6)領域「言葉」の視点から</p> <p>第7回 事例と記録の検討(7)領域「環境」の視点から</p> <p>第8回 事例と記録の検討(8)領域「表現」の視点から</p> <p>第9回 子ども同士のかかわりと、その時々のお気持ちや葛藤、そこでの育ちに目を向ける (1)理論</p> <p>第10回 子ども同士のかかわりと、その時々のお気持ちや葛藤、そこでの育ちに目を向ける (2)実践</p> <p>第11回 保育内容領域間や、小学校教科等とのつながりを知る</p> <p>第12回 幼稚園での生活やあそびから保育内容「健康」のねらいと内容を考える</p> <p>第13回 保育内容「健康」における保育実践の動向を知る</p> <p>第14回 幼稚園での生活やあそびから保育内容「人間関係」のねらいと内容を考える</p> <p>第15回 保育内容「人間関係」における保育実践の動向を知る</p> <p>第16回 運動会などの行事と人間関係の育ちについて考える (1)理論</p> <p>第17回 運動会などの行事と人間関係の育ちについて考える (2)実践</p> <p>第18回 子どもの健康な生活と基本的な生活習慣の育ちについて知る (1)理論</p> <p>第19回 子どもの健康な生活と基本的な生活習慣の育ちについて知る (2)実践</p> <p>第20回 子どもの人とのかかわりの育ちを概観する (1)理論</p> <p>第21回 子どもの人とのかかわりの育ちを概観する (2)実践</p> <p>第22回 相互にかかわり合って育つ子どものあそび・人とのかかわりの育ちとあそびの展開・体力、運動能力の育ちから (1)理論</p> <p>第23回 相互にかかわり合って育つ子どものあそび・人とのかかわりの育ちとあそびの展開・体力、運動能力の育ちから (2)実践</p> <p>第24回 保育内容「言葉」との関連性を確認する</p> <p>第25回 保育内容「表現」との関連性を確認する</p> <p>第26回 保育内容「環境」との関連性を確認する</p> <p>第27回 生活やあそびを総合的にとらえる(情報機器や教材の活用を含む)</p> <p>第28回 保育内容を踏まえた上で指導計画を作成する</p> <p>第29回 保育内容を踏まえた上で指導計画に基づき実践する</p> <p>第30回 保育内容を踏まえた上で実践後の振り返りを行い、評価の考え方を学ぶ 期末試験・期末試験解説</p>
準備学習と必要時間	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として課題レポートを行う。(60分以上) ・他の受講生のレポートを読み、他所の意見に触れ、視野を広げる。(60分以上)

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での取り組み(討議への積極的な参加、発言内容、レポート課題) — 60% ・試験(前期・後期) — 40% 				
参考文献	「幼稚園教育要領」文部科学省 「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府				
特記事項	なし				
課題へのフィードバック方法	試験後、模範解答を提示して解説を行う。 レポートにはコメント等を書き加え返却する。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状	必修	領域及び保育内容の指導法に関する科目
	その他		保育士資格	必修	保育の内容・方法に関する科目
教員の実務経験	(郷家)認定こども園での勤務経験を活かし、子どもの遊びに関して深く考察し、実践的に授業を行います。				

ナンバリング	B②05	科目名	保育内容演習(環境)
担当形態	複数	担当教員	古賀 琢也・由田 新
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「保育所保育指針解説」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 「保育用語辞典」ミネルヴァ書房		
開講時期	通年	単位数・授業形態	1単位 演習
到達目標	この授業は、実際に子どもとかかわったり、保育者の子どもとのかかわり等に触れる体験を通して、保育内容を領域「環境」に焦点をあてつつ、総合的に学んでいきます。 <ul style="list-style-type: none"> ・日々の生活やあそびの中で様々な体験をし、総合的に子どもが育つということを理解し説明できる。 ・子どもが保育の中で体験している内容を知り、領域「環境」の視点から説明できる。 ・生活やあそびを支える子ども理解や子どもとのかかわり、保育者の援助を知り記録できる。 		
授業の概要	実際に子どもとかかわりながら、具体的に保育の内容を学んでいくためには、「面白いな」「どうしてだろう」と自分なりに課題をもって取り組むことが学びの第一歩になります。 <p>具体的には、皆さんの体験レポートを基に、子どもがさまざまな環境にかかわり、その多様性を知ったり工夫したりする姿に触れながら、子どもを理解し、保育者の援助を具体的に学んでいきます。現代における自然の重要性と保障、留意点についても考えていきます。</p> <p>この授業では保育内容「環境」に焦点をあてて学びますが、子どもの活動やかかわりの中で独立したものではないことはすぐに理解できることでしょう。ここでは、その他の領域との関連についても触れながら進めていきます。また、他教科とも連携し、自分の身の周りの事物をも意識しながら学んでいきます。</p>		
授業計画	第1回 保育内容領域間や、小学校教科等とのつながりを知る 第2回 自分の身近な環境や自然に目を向ける 第3回 幼稚園環境と子どものかかわり・子どもにとって身近な環境と、環境とのかかわりの実際を知る (1)理論		

	<p>第 4 回 幼稚園環境と子どものかかわり・子どもにとって身近な環境と、環境とのかかわりの実際を知る (2)実践</p> <p>第 5 回 子どもの幼稚園での生活やあそびから、身近な環境への関心や意欲を探る (1)理論</p> <p>第 6 回 子どもの幼稚園での生活やあそびから、身近な環境への関心や意欲を探る (2)実践</p> <p>第 7 回 幼稚園での生活から保育内容「環境」のねらいや内容を考える</p> <p>第 8 回 保育内容「環境」における保育実践の動向を知る</p> <p>第 9 回 自然物と子どもとのかかわりや、さまざまな環境とあそび、及びその留意点について知る (1)理論</p> <p>第 10 回 自然物と子どもとのかかわりや、さまざまな環境とあそび、及びその留意点について知る (2)実践</p> <p>第 11 回 身近な環境への関心、環境を生活へ取り入れる工夫や情報機器・教材の活用、援助の実際を知る (1)理論</p> <p>第 12 回 身近な環境への関心、環境を生活へ取り入れる工夫や情報機器・教材の活用、援助の実際を知る (2)実践</p> <p>第 13 回 保育内容「言葉」「表現」「健康」「人間関係」との関連性を確認する</p> <p>第 14 回 保育内容を踏まえた上で指導計画を作成し、実施後振り返りを行い評価について学ぶ (1)理論</p> <p>第 15 回 保育内容を踏まえた上で指導計画を作成し、実施後振り返りを行い評価について学ぶ (2)実践</p> <p>期末試験・期末試験解説</p>
準備学習と必要時間	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として課題レポートを行う。(60分以上) ・他の受講生のレポートを読み、他者の意見に触れ、視野を広げる。(60分以上)
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での取り組み(討議への積極的な参加、発言内容、レポート課題) — 60% ・試験(前期・後期) — 40%
参考文献	<p>「幼稚園教育要領」 文部科学省</p> <p>「保育所保育指針」 厚生労働省</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 内閣府</p> <p>その他、適宜紹介します。</p>
特記事項	なし
課題へのフィードバック方法	<p>試験後、模範解答を提示して解説を行う。</p> <p>レポートにはコメント等を書き加え返却する。</p>

卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状	必修	領域及び保育内容の指導法に関する科目
	その他		保育士資格	必修	保育の内容・方法に関する科目
教員の実務経験	(古賀)保育園・こども園での勤務経験を活かし、実践現場での具体的事例を交えながら、実習に臨むための学習や課題について実践的な授業を行う。				

ナンバリング	B②06	科目名	保育者論 I
担当形態	単独	担当教員	小木曾 友則
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	「幼稚園教育要領解説」フレーベル館. 「保育所保育指針解説」フレーベル館. 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館. その他適宜資料を配布する。		
開講時期	前期	単位数・授業形態	1単位・講義
到達目標	1. 保育者の役割と倫理について理解し、説明することができる。 2. 保育者の制度的な位置づけを理解し、説明することができる。 3. 保育者の専門性について理解し、説明することができる。		
授業の概要	本講義は、現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。 講義では、保育者に関わる関係法令や制度的位置づけを学ぶとともに、担当教員が保育士・幼稚園教諭として勤務した経験を踏まえ、具体的な事例を基に保育者の専門性について理解する。		
授業計画	第1回 保育者の役割と倫理① 「保育者の役割と職務内容とは」 第2回 保育者の役割と倫理② 「保育者の倫理とは」 第3回 保育者の制度的位置づけ① 「関係法令にみる保育士・幼稚園教諭・保育教諭の定義」 第4回 保育者の制度的位置づけ② 「保育士・幼稚園教諭・保育教諭の資格と要件」 第5回 保育者の制度的位置づけ③ 「欠格事由・信用失墜行為及び秘密保持義務等」 第6回 保育者の専門性① 「保育者の資質・能力とは」 第7回 保育者の専門性② 「養護及び教育の一体的展開とは」		

	第 8 回 保育者の専門性③ 「過程との連携と保護者に対する支援」				
準備学習と必要時間	予習として、毎回授業計画に示された「 」のテーマに関して、テキストで確認を行う。 (60 分) 復習として、毎回講義のテーマに関して講義資料をもとに振り返る。(30 分)				
評価方法	<p>受講態度(20%)授業課題(30%)期末レポート(50%)</p> <p>受講態度は、授業中に提示した課題に責任を持って取り組む、質問に対する応答やグループ討議での積極性、発表時のまとめ方等から「関心・意欲・態度」及び「技能・表現」の到達度を見る。</p> <p>授業課題は、毎授業時間終了時に講義のゴールについて記述する振り返りシートから授業内容に関する「知識・理解」及び「思考・判断」から到達度を見る。</p> <p>期末レポートは、各授業に設定されたゴールから出題し、「知識・理解」及び「思考・判断」の観点から到達度を見る。</p>				
参考文献	授業中に適宜示します。				
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンまたはタブレットを毎回持参すること。 ・Google Classroom から講義資料の配信、授業課題の提示を行う。 ・配信されたレジュメの PDF データにメモするか、あらかじめ自身で印刷するなどして受講することをすすめる。 ・授業計画に示した「 」は各回の講義のゴールである。授業中はゴールを念頭に受講し、授業後の振り返りシートで理解した内容をまとめて教員に提出する。 ・期末レポートは、各講義のゴールから出題される。毎回の講義を重んじた授業設計であることを踏まえて受講してほしい。 ・他の受講者に対する迷惑行為(私語、飲食、講義と無関係なスマートフォンの使用、複数回に渡る退室や明確に受講意思のない居眠りなど)と判断される行為はその回の受講態度の減点となる。講義の進行を妨げる場合は受講態度を大きく減点する。 ・本講義では、生成 AI の利用については「使用可能範囲」と「使用禁止範囲」を設けている。これは遵守してほしい。 				
課題へのフィードバック方法	毎回の講義で提出する振り返りシートには教員がコメントを行い、次回の授業冒頭で他の学生のコメントを紹介する。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状	必修	教育の基礎的理解に関する科目
	その他		保育士資格	必修	保育の本質・目的に関する科目

教員の実務経験	(小木曾)保育所及び幼保連携認定こども園で勤務した経験を踏まえ、具体的な事例を利用しながら実践的な講義を展開する。
---------	---

ナンバリング	B③01	科目名	教育実習(実習指導)
担当形態	複数	担当教員	相磯 友子・伊藤 恵里子・郷家 史芸 古賀 琢也・小木曾 友則・由田 新
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	「教育課程・保育の計画と評価」 萌文書林 「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 フレーベル館 「保育用語辞典」 ミネルヴァ書房		
開講時期	通年	単位数・ 授業形態	1単位 演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園において、体験・実習を行うための準備をし、実習後に実習体験のまとめを行うことを通して、自身の体験を省察し反省的な実践を行う素地ができる。 ・実習の後半で行う、部分実習(計画の立案から実践、評価までを行う体験)を行うための準備を整え、仲間と協同して実践することができる。 ・入学直後から始まる子どもとかかわる体験・実習を通して、幼稚園における保育の実態や子どもの成長過程を知り、体験をまとめ、グループの実習を共に行う仲間とともに、振り返りを行うことで自身の体験を省察し、発表することができる。 		
授業の概要	<p><事前指導></p> <p>スムーズに実習に臨めるように、実習前には、保育体験やオリエンテーションを行い、実習に際して必要な事項等について学びます。実習に際して不安感を抱かないよう、複数で同じ実習園に通うと共に、実習中には教員が側でアドバイスなどができるように実習に帯同します。授業内だけでなく、「保育内容演習」と連動しながら教員や仲間と支え合う関係性を構築していきます。</p> <p><事後指導></p> <p>実習後の振り返りでは、自身が実習を通して感じたこと、目の前の子どもとどのように関わり考えたかなど、実習記録と体験を基に仲間同士で振り返り、実習のまとめを行います。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション(実習の意義・実習生の責務等の理解／事前訪問)</p> <p>第2回 記録に基づく実習の振り返り・次の実習の準備①</p> <p>第3回 記録に基づく実習の振り返り・次の実習の準備②</p> <p>第4回 記録に基づく実習の振り返り・次の実習の準備③</p> <p>第5回 記録に基づく実習の振り返り・次の実習の準備④/部分・責任実習に向けて</p>		

	<p>第 6 回 記録に基づく実習の振り返り・次の実習の準備⑤ 第 7 回 記録に基づく実習の振り返り⑥/実習のまとめ(1 年間の実習を終えて)</p>				
準備学習と必要時間	<ul style="list-style-type: none"> ・実習ハンドブックを読んでおく(60 分以上)。 ・自分の実習記録を再度読み直し、自分の保育者としての成長や課題を見つめ、次回の実習の目標を立てる。(60 分以上) ・授業では、実習記録を作成するため、普段から文章等を読み、書き、考察する習慣を作る事が求められます。 ・授業では、自身の考えを他者に表明し、他者の考えや思いに共感したり意見交換をするため、普段から「なぜ、どうして」と疑問を持ったり、他者の話を聴き、気持ちに気づいたりすることが求められます。 ・実習では、服装、髪の色や髪形、言葉遣い、立ち居振る舞い等について保育現場にふさわしい最低限のルールがあります。また、掃除や保育終了後の準備等の場面で、自身の普段の振る舞いや経験などが表れることがあります。したがって、日常生活の見直しや立ち居振る舞いを見つめ直すことが求められます。 				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実習記録及び指導案の課題 — 40% ・実習のまとめのレポート — 40% ・実習成果の発表 — 20% 				
参考文献	「幼稚園教育要領」 文部科学省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 内閣府				
特記事項	なし				
課題へのフィードバック方法	課題やレポートはコメントを記入して返却します。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状	必修	教育実践に関する科目
	その他		保育士資格		
教員の実務経験	(郷家)認定こども園での勤務経験を活かし、子どもの遊びに関して深く考察し、実践的に授業を行います。 (古賀)保育所・こども園での勤務経験を活かし、実践現場での具体的事例を交えながら、実習に臨むための学習や課題について実践的な授業を行う。 (小木曾)幼保連携認定こども園で幼稚園教育実習の実習生を受け入れた経験を踏まえ、具体的な事例を提示しながら、事前指導で実習の意義及び実習内容と課題の明確化、実習の留意事項、記録の作成方法などの指導を行う。事後指導では、記録をもとに実習の総括を行う。				

ナンバリング	B③02	科目名	教育実習(幼稚園Ⅰ)
担当形態	クラス分け	担当教員	相磯 友子・伊藤 恵里子・郷家 史芸・ 古賀 琢也・小木曾友則・由田 新
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 「保育用語辞典」ミネルヴァ書房		
開講時期	通年	単位数・ 授業形態	1単位 実習
到達目標	<p>入学直後からの子どもとかかわる体験、実習を通して、以下の点について、幼稚園における保育の実態を知るとともに子どもの成長について知っていきます。</p> <p>その体験を記録にまとめ、実習を共に行う仲間とともに振り返りを行うことで自身の体験を省察します。</p> <p><子ども理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園においてはじめて子どもとかかわり、子どもとかかわる喜びを感じ、子どもの姿からその特徴などを知る。また、1年を通じてどのような生活をし、どう成長を遂げるのかを知る。 <p><職務の理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者が子どもとかかわる姿を観察し、その基となる保育観や環境構成・意図などを理解する。観察したことを事実即して記録する。 ・保育時間外の保育者の仕事に目を向け、職務の内容を知る。 <p><園の理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園における生活や遊び、保育者の援助など幼稚園教育の実際を知る。 <p><保育の過程の理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活や遊び、活動を通して、保育の内容に関心を持ちその意味を考える。 <p>また、そのような体験を保証するために保育者が願いと教育的な意図をもって構成する環境について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の過程を理解し、仲間とともに部分的な場面について保育の計画の立案、実践、自己評価、改善を行う。 <p><自己課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習を通して自己の良さや課題、価値観などに気づく。 		

授業の概要	<p>本実習は、入学後すぐにはじまる子どもたちとのかかわりを基に、6月から12月頃まで行います。長期間にわたり同一園で体験や実習を行うことで、子どもや保育者と生活を共にし、保育に参加しながら保育に関する様々なことを学びます。まずは「子どもが好き」「子どもとかかわって楽しい」という思いを大切にしながら、次第に子どもを理解することの難しさや保育の世界の奥深さに気づいていきます。そうした保育の魅力や理解のためには、長期的なかかわりや綿密な振り返りが不可欠です。実習後に記す実習記録は、そのためのテキストとなるとともに、各自の実習課題を明確にするために必要となります。</p>																									
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>実習の準備①</td> <td>5月</td> <td>実習園でのオリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>実習の準備②</td> <td>6月</td> <td>保育の体験(半日)</td> </tr> <tr> <td>実習①</td> <td>7月</td> <td>参加実習(終日)</td> </tr> <tr> <td>実習②</td> <td>10月</td> <td>参加実習(終日)</td> </tr> <tr> <td>実習③</td> <td>11月</td> <td>参加実習(終日)</td> </tr> <tr> <td>実習④</td> <td>11月</td> <td>参加実習・部分実習(終日)</td> </tr> <tr> <td>実習⑤</td> <td>12月</td> <td>参加実習(終日)</td> </tr> </table>					実習の準備①	5月	実習園でのオリエンテーション	実習の準備②	6月	保育の体験(半日)	実習①	7月	参加実習(終日)	実習②	10月	参加実習(終日)	実習③	11月	参加実習(終日)	実習④	11月	参加実習・部分実習(終日)	実習⑤	12月	参加実習(終日)
実習の準備①	5月	実習園でのオリエンテーション																								
実習の準備②	6月	保育の体験(半日)																								
実習①	7月	参加実習(終日)																								
実習②	10月	参加実習(終日)																								
実習③	11月	参加実習(終日)																								
実習④	11月	参加実習・部分実習(終日)																								
実習⑤	12月	参加実習(終日)																								
準備学習と必要時間																										
評価方法	<p>既定の実習への取り組みやレポートの提出は必須です。実習の事前準備や事後学習の成果も含めて評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習の準備や振り返りの状況 — 20% ・実習への取り組み状況 — 40% ・実習記録 — 40% 																									
参考文献	<p>「幼稚園教育要領」 文部科学省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 内閣府 その他、追って紹介する。</p>																									
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・実習を規定時間行うことが必要となりますが、規定時間を満たしたとしても、実習の状況等により、単位の修得ができない場合があります。 ・単位を修得出来ない場合、次年度教育実習(幼稚園Ⅱ)および教育実習(実習指導)は履修出来ません。 																									
課題へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実習記録はコメントを記入して返却します。 																									
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状	必修	教育実践に関する科目																					
	その他		保育士資格																							

<p>教員の実務経験</p>	<p>(郷家)認定こども園での勤務経験を活かし、子どもの遊びに関して深く考察し、実践的に授業を行います。</p> <p>(古賀)保育所・こども園での勤務経験を活かし、実践現場での具体的事例を交えながら、実習に臨むための学習や課題について実践的な授業を行う。</p> <p>(小木曾)幼保連携認定こども園で幼稚園教育実習の実習生を受け入れた経験を踏まえ、実習において習得した教科全体の知識及び技能を基礎として総合的に実践する応用能力を培えるよう指導を行う。</p>
----------------	---

ナンバリング	B③03	科目名	保育実習指導 I
担当形態	複数	担当教員	伊藤 恵里子・古賀 琢也・中嶋 一郎
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	「保育所保育指針解説」 フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 フレーベル館		
開講時期	通年	単位数・ 授業形態	2単位 演習
到達目標	保育所・福祉施設において、子どもや利用者の状況を知り、適切な援助を行うための準備をし、実習後に実習体験のまとめを行うことで、自身の体験を省察し反省的な実践を行う素地ができる。		
授業の概要	<p>実習は、本学のあらゆる強化と深く関連する最も中心的な科目です。特に保育実習 I では、1 年次の保育や社会福祉に関する学びを実践する貴重な機会となります。本科目は、この保育実習 I のための事前・事後指導であり、実習の事前に受ける指導のほか、実習後の指導までが含まれます。</p> <p><事前指導></p> <p>実習で学ぶためには、その前提となる、基本的な生活習慣や立ち居振る舞いも大切になります。加えて、現場で学ぶために必要な知識や技術について学びます。</p> <p>事前学習においては、全体での基本的な展開に加え、学生それぞれの達成段階に応じた授業プログラムの設定を行うほか、実習に不可欠な知識や技術の習得(試験等によって確認)をします。</p> <p><事後指導></p> <p>実習後の振り返りは、自身が実習を通して何を見て何を感じ、目の前の子どもとどのように関わり、なぜそのように考えたかなどについて、実習の記録や体験を基に仲間同士で振り返り、実習で学んだことをまとめます。</p>		
授業計画	第 1 回 オリエンテーション・保育実習で学ぶ内容とは 第 2 回 実習をするということ(実習の意義) 第 3 回 障害者スポーツ大会について 第 4 回 障害者スポーツ大会への参加 第 5 回 障害者スポーツ大会のふりかえり 第 6 回 実習に向けての手続き等①、実習におけるマナーと振る舞い 第 7 回 子どもの生活と理解、保育士の職務の理解 第 8 回 利用者の生活の理解、施設職員の職務の理解		

	<p>第 9 回 手遊び等と絵本の活用(保育内容と共に学ぶ)</p> <p>第 10 回 実習記録について① エピソード記録</p> <p>第 11 回 子どもの人権と最善の利益・プライバシー保護と守秘義務</p> <p>第 12 回 乳児保育体験について</p> <p>第 13 回 後期オリエンテーション(実習での学びについて)</p> <p>第 14 回 乳児保育体験の振り返り①</p> <p>第 15 回 乳児保育体験の振り返り②</p> <p>第 16 回 保育所・施設の役割</p> <p>第 17 回 社会福祉施設ボランティアについて</p> <p>第 18 回 実習に向けての手続き等②</p> <p>第 19 回 保育所保育指針・保育制度等の理解①</p> <p>第 20 回 保育所保育指針・保育制度等の理解②</p> <p>第 21 回 実習記録について② 記録と省察</p> <p>第 22 回 実習の目的・心構え(実習の手引きを活用して)</p> <p>第 23 回 実習における計画と実践</p> <p>第 24 回 先輩の実習体験を聴く(保育所、施設)</p> <p>第 25 回 保育園職員、施設職員の話</p> <p>第 26 回 先輩の実習体験を聴く(グループディスカッション)</p> <p>第 27 回 これまでの学びの確認と実習の目標の設定</p> <p>第 28 回 事後指導① ～実習の総括と自己評価(施設)</p> <p>第 29 回 事後指導② ～実習の総括と自己評価(保育所)</p> <p>第 30 回 事後指導③ ～自己課題の明確化</p>
準備学習と必要時間	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に各自が設定した準備課題の実施(30分以上) ・これまでの実習記録の見直し、修正(30分以上)
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内課題 — 10% ・保育体験やボランティアへの取り組み状況 — 20% ・事後学習の際のふり返りのレポート — 30% ・保育所保育指針等の試験 — 20% ・実習記録の課題 — 20%
参考文献	<p>「保育所保育指針」厚生労働省</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府</p>

特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての授業に出席することが求められます。 ・実習が不十分で単位が認定されない場合、実習指導も合わせて認定されません。 ・単位を修得出来ない場合、次年度の保育実習Ⅱ、Ⅲ及び保育実習指導Ⅱ、Ⅲは履修できません。 				
課題へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題については、翌週の授業で、全体へコメントをフィードバックします。 				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格	必修	保育実習
教員の実務経験	<p>(古賀)保育所・こども園での勤務経験を活かし、実践現場での具体的事例を交えながら、実習に臨むための学習や課題について実践的な授業を行う。</p>				

ナンバリング	B③04	科目名	保育実習 I (保育所)
担当形態	複数	担当教員	伊藤 恵里子・古賀 琢也
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	「保育所保育指針解説」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館		
開講時期	集中	単位数・ 授業形態	2単位 実習
到達目標	<p><子ども理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所において、子どもがどのような生活をし、どのように人と関わり、どう成長を遂げるのかなどを他教科の学習と関連させながら具体的に理解する。 ・生活や遊びを通して、そのときの子どもの気持ちを考察したり、理解しようとする。 <p><職務の理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士の業務内容・職業倫理について具体的に学ぶ。 ・保育士が保育観に基づく意図をもって援助を行っていることを知り、その内容を具体的に知る。 <p><保育の過程の理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の計画、観察、記録、および自己評価等について具体的に知る。 <p><施設の理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所の基本的な機能と役割について具体的に理解する。 <p><自己課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習の目的と自身の長所・短所を見極め、倫理・価値観、専門知識、専門技術などの専門性の向上に努める。 		
授業の概要	<p>本科目は、保育士資格を取得するために必要な実習の1つであり、1年次の授業終了後に実施される。</p> <p>実習としては、教育実習 I に続くステップとなる。</p> <p>実習は、概ね 11 日間以上で 90 時間以上行う。意欲やねらいを持って参加するとともに、出勤時間を守り、日々記録の作成と提出等が必要となる。</p> <p>また、乳児保育体験や、実習直前の事前訪問を行い、実習園と実習生とが互いに理解する機会を設定し、見通しをもって実習に臨めるようする。</p>		
授業計画			
準備学習と必要時間	・保育実習指導 I の受講および実習園からの課題(必要時間 60 分以上)		

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・事前指導で立てた目標の達成状況 — 10% ・実習の取り組み状況 — 40% ・実習記録 — 20% ・実習園からの評価 — 30% <p>※単位認定の前提として、実習事前事後指導を学修していることが条件となる。</p>				
参考文献	「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府				
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・実習を規定時間行うことが必要となりますが、規定時間を満たしたとしても、実習の状況等により、単位の修得ができない場合があります。 ・単位を修得出来ない場合、次年度保育実習Ⅱ、Ⅲおよび保育実習指導Ⅱ、Ⅲは履修出来ません。 				
課題へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実習記録は必要に応じてコメントを記入して返却します。 				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格	必修	保育実習
教員の実務経験	(古賀)保育所・こども園での勤務経験を活かし、実践現場での具体的事例を交えながら、実習に臨むための学習や課題について実践的な授業を行う。				

ナンバリング	B③05	科目名	保育実習 I (施設)
担当形態	単独	担当教員	中嶋 一郎
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	保育実習指導 I で配布した資料等		
開講時期	集中	単位数・ 授業形態	2 単位 実習
到達目標	<p><利用者理解> 福祉施設の利用者は、具体的に「どのような生活をし、どのように人と関わって生きているのか」を理解する。</p> <p><職務の理解> 職員の業務内容・職業倫理について具体的に学ぶ。職員が援助観に基づく意図を持って援助を行っていることを知り、その内容を具体的に知る。</p> <p><施設の理解> 福祉施設の基本的な機能と役割について具体的に理解する。</p> <p><自己課題> 実習の目的と自身の長所・短所を見極め、倫理・価値観、専門知識、専門技術などの専門性の向上に努める。</p>		
授業の概要	<p>本授業は、保育士資格を取得するために必要な実習であり、教育実習 I に続くステップとなる。</p> <p>実習は、概ね 11 日間以上且つ 90 時間以上実施することとし、実習に際して意欲・目的意識を持って参加することと勤務時間の順守及び日常の記録の作成と提出等が必要になる。</p> <p>また、障害者スポーツ大会、現場の職員によるレクチャー、先輩の話などを通じて、要保護児童、障害児(者)、福祉施設に対する理解を深めるとともに、実習直前には事前訪問を通じて実習施設と実習生とが相互理解する機会を設定し、施設の状況を理解した上で実習に臨めるように計画しており、多様な異なる価値観を受け入れる素地を創るきっかけとなることを目的とする。</p>		
授業計画			
準備学習と必要時間	保育実習指導 I の受講及び実習園からの課題(必要時間 60 分)。		

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・事前指導の目標の達成状況 — 10% ・実習の取り組み状況 — 40% ・実習記録 — 20% ・実習施設からの評価 — 30% <p>※単位認定の前提として、実習事前事後指導を学修していることが条件となる</p>				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・「保育所保育指針」厚生労働省 ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府 ・「子どもと家庭の福祉を学ぶ」ななみ書房 ・「新保育ライブラリ社会的養護」北大路書房 				
特記事項	<p>【留意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習を規定時間行うことが必要となりますが、規定時間を満たしたとしても実習の状況などにより、単位の修得ができない場合があります。 ・単位を修得出来ない場合、次年度の保育実習Ⅱ・Ⅲ及び保育実習指導Ⅱ・Ⅲは履修出来ません。 				
課題へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実習記録は必要に応じてコメントを記入して返却します。 				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格	必修	保育実習
教員の実務経験					

ナンバリング	B④01	科目名	あそび基礎演習 I
担当形態	複数	担当教員	大澤 ちづる・直井 玲子・深谷 ベルタ
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	深谷ベルタ(2018)「“体験”が感性を育む造形あそび」 風鳴舎 その他、適宜配布する。		
開講時期	前期	単位数・ 授業形態	2単位・演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの遊びや表現活動を支えるために必要な基礎知識や表現技術が身につく。 ・表現の多様性を理解し、それを受け止める姿勢を養う。 ・身体・音楽・造形・言語を用いて自らの発想を柔軟に活かした表現ができる。 		
授業の概要	<p>より豊かな表現に必要と思われる感性を養うための環境を保障します。また、具体的な保育の内容と子どもの表現についても解説していきます。</p> <p>授業方法は、主に実技、制作、創作、グループワークや個人発表で展開します。</p> <p>◇身体表現: 保育者の豊かな身体表現は、子どもの表現を引き出す人的環境となります。思い切り体を動かしたり、丁寧に身体感覚に耳を傾けたりすることを通して、ダイナミックかつ繊細な身体表現の楽しさを味わいます。様々な人と関わり、表現の多様性を学びます。</p> <p>◇音楽表現: 音・音楽や動きによる様々な遊びや表現を経験します。身のまわりにあるものから音を探し出し、音に耳を澄ませ、音を重ね合わせていくおもしろさを味わうなど、音・音楽を使ってどのような表現や遊びを創り出せるのかを具体的に学びます。</p> <p>◇造形表現: 描くことや制作を体験しながら表現することについて学び、必要となる「環境」「人間関係」等と合わせて検討していきます。感性や表現力を磨き、表現に対する理解を深め、他の学生と共同し、好奇心や関心をもって自らを育てられる/自ら成長できるような展開をします。保育の中でよく用いられる素材や教材、道具等に親しみ、制作を楽しみながらそれらの特性や活用方法、工夫の仕方などを学びます。</p>		
授業計画	<p>3つのグループが平行して行われ、ローテーションをしながら展開する授業です。</p> <p>基本的に身体・音楽・造形表現の要素をおさえながら、各分野で関連する言語表現の内容も取り上げます。</p> <p>◇身体表現 (担当: 直井 玲子)</p> <p>第1回 リズムと動き</p> <p>第2回 体の部位を意識する遊び</p>		

	<p>第3回 動きのかけひき</p> <p>第4回 身の回りの素材と動き</p> <p>第5回 ドラマ / 演劇教育と遊び</p> <p>◇音楽表現 (担当:大澤 ちづる)</p> <p>第1回 ことばと動きと音遊び(わらべうた、手あわせ歌)</p> <p>第2回 音楽的なゲーム遊び</p> <p>第3回 ボディーパーカッション</p> <p>第4回 身の回りの素材を使った音遊び</p> <p>第5回 ペープサートと歌遊び</p> <p>◇造形表現 (担当:深谷 ベルタ)</p> <p>第1回 造形の基本 色</p> <p>第2回 造形の基本 点と線</p> <p>第3回 造形の基本 形と空間</p> <p>第4回 造形の基本 素材</p> <p>第5回 造形の基本 構成(デザインとレイアウト)</p>
準備学習と必要時間	<ul style="list-style-type: none"> ・円滑な活動に向け、素材や道具を各自で用意すること。(特記事項を参照)。 ・提示された小レポートや実技課題に従い、授業までに準備すること。 <p>(必要時間:60分)。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・制作物や実技の成果 — 40% ・授業での取り組み(ワークショップや活動への積極的な取り組み) — 40% ・まとめのファイル — 20%
参考文献	必要に応じて資料を配布する。
特記事項	<p><身体・音楽表現授業への参加について></p> <p>必ず動きやすい服装で参加すること(スカート不可)。上履きを持参すること。</p> <p><造形表現授業の持ち物について></p> <p>道具類は(場合により素材も)各自で用意する必要があります。</p> <p>用意すべき道具:ハサミ、カッターナイフ、ホッチキス(ステドラー)、セロハンテープ、油性マーカーペン(黒)、液体糊、絵筆(2本)、クレヨン。</p> <p>汚れても構わない服装で参加すること。</p>
課題へのフィードバック方法	発表に対して口頭でコメントする。

卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状	必修	領域及び保育内容の指導法に関する科目
	その他		保育士資格	必修	保育の内容・方法に関する科目
教員の実務経験	(大澤)幼稚園(国内外)での教諭経験、及び、発達支援を目的とした音楽療法についての経験を有する				

ナンバリング	B④03	科目名	あそび基礎演習Ⅱ
担当形態	複数	担当教員	相澤 奈那・大澤 ちづる・直井 玲子
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	深谷ベルタ(2018)「“体験”が感性を育む造形あそび」 風鳴舎 その他、適宜配布する。		
開講時期	後期	単位数・ 授業形態	2単位・演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身体・音楽・造形・言語表現の観点から保育の内容を理解する。 ・心身の発達や子どもを取り巻く環境を踏まえ、子どもの遊びをより豊かに展開するための知識や技術が身につく。 ・子どもの表現活動に必要な素材や教材等を実践的に活用、および作成できる。 		
授業の概要	<p>保育の内容と子どもの表現について、実技を踏まえながら、そこで子どもが経験していることを解説します。また、豊かな遊びに結びつく環境構成とその展開について検討します。授業方法は、主に実技、制作、創作、グループワーク、発表で展開します。</p> <p>◇身体表現: 言葉や音、素材、イメージやテーマをもとに、身体が作りだす形や動きの広がりを経験します。仲間と共に動きをつくりだしていく楽しさを味わいながら、多様な動きを伴う全身での表現を身につけます。子どもの身体表現について理解を深めると同時に、他の表現や5領域との関連についての視点を学びます。</p> <p>◇音楽表現: 自らの声や言葉、身体、身の回りにあるモノを利用した音素材、身近な楽器などを使って様々な音・音楽遊びを経験します。これらの経験をもとに、身体・音楽・造形・言語表現をより関連づけながら解説します。子どもの表現をみること、聴くことの大切さも学びます。</p> <p>◇造形表現: 描くことや制作を体験しながら表現することについて学び、必要となる「環境」「人間関係」等と合わせて検討していきます。感性や表現力を磨き、表現に対する理解を深め、他の学生と共同し、好奇心や関心をもって自らを育てられる/自ら成長できるような展開をします。保育の中でよく用いられる素材や教材、道具等に親しみ、制作を楽しみながらそれらの特性や活用方法、工夫の仕方などを学びます。</p>		
授業計画	<p>◇身体表現(担当:直井 玲子)</p> <p>第1回 身の回りのものの形と体、動きの連鎖</p> <p>第2回 言葉と身体表現:オノマトペを使った遊び</p> <p>第3回 造形と身体表現:身近な素材を使った遊び、線で遊ぶ</p> <p>第4回 インプロ(即興演劇)と子どもの遊び</p>		

	<p>第5回 絵本から全身を使ったおはなしづくりへの発展 ◇音楽表現(担当:大澤 ちづる) 第1回 リトミックの基礎 第2回 楽器遊び 第3回 素材遊びと音遊び 第4回 手作り楽器 第5回 ことば(オノマトペ)と音楽表現 ◇造形表現(担当:相澤 奈那) 第1回 自然素材① ねんど 第2回 自然素材② 光と影 第3回 自然素材③ 葉っぱ 第4回 自然素材④ 紙 第5回 自然素材⑤ 毛糸</p>				
準備学習と必要時間	<p>・円滑な活動に向け、素材や道具を各自で用意すること。(特記事項を参照) ・提示された小レポートや実技課題に従い、授業までに準備すること。 (必要時間:60分以上)。</p>				
評価方法	<p>・制作物や実技の成果 —40% ・授業での取り組み(ワークショップや活動への積極的な取り組み) — 40% ・まとめのファイル/ポートフォリオ — 20%</p>				
参考文献	<p>必要に応じて資料を配布する。</p>				
特記事項	<p><身体・音楽表現授業への参加について> 必ず動きやすい服装で参加すること(スカート不可)。上履きを持参すること。 <造形表現授業の持ち物について> 道具類は(場合により素材も)各自で用意する必要があります。用意すべき道具:ハサミ、カッターナイフ、ホチキス(ステドラ)、油性マーカーペン(黒)、液体糊、セロハンテープ、絵筆(2本)、クレヨン。汚れても構わない服装で参加すること。</p>				
課題へのフィードバック方法	<p>発表に対しては口頭でコメントをする。</p>				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状	必修	領域及び保育内容の指導法に関する科目
	その他		保育士資格	必修	保育の内容・方法に関する科目

教員の実務経験	(大澤)幼稚園(国内外)での教諭経験、及び、発達支援を目的とした音楽療法についての経験を有する
---------	---

ナンバリング	B④04	科目名	こどもと文化
担当形態	単独	担当教員	池谷 潤子
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	特になし		
開講時期	講義	単位数・授業形態	1単位・演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・映像や資料をもとにディスカッションを行い、保育・子育て文化の多様性について理解し、その特徴を自分の言葉で説明できる。 ・異なる文化的背景をもつ保育・子育ての事例を比較し、その特徴や背景にある価値観を分析できる。 ・自分の経験や将来の保育観と結びつけて考察できる。 		
授業の概要	<p>この授業では、こどもを取り巻く文化について、さまざまな視点から考察します。取り上げるテーマは、日本および諸外国の子育て文化（国際的な比較映画、森のようちえん、保育における主体的な遊び）に加え、「かがくえほん」から広がる保育と遊びの実践です。</p> <p>多角的な視点から日本の保育・子育て文化を客観的に捉えることで、子育て環境の多様性や、遊びを通して育つ子どもの姿への理解を深め、気づきと考察を促すことを目指します。</p>		
授業計画	<p>第1回 子育て文化を考える(1)映像視聴</p> <p>第2回 子育て文化を考える(2)ディスカッション</p> <p>第3回 森のようちえん(1)ドイツの実践を知る</p> <p>第4回 森のようちえん(2)日本(長野)の実践を知る</p> <p>第5回 「かがくえほん」のちから(1)絵本から広がる遊びを経験する</p> <p>第6回 「かがくえほん」のちから(2)遊びの実践と記録づくり</p> <p>第7回 保育における主体的な遊びを考える(1)映像視聴</p> <p>第8回 保育における主体的な遊びを考える(2)ディスカッション</p>		
準備学習と必要時間	毎回 60 分の予習と復習の時間をとること。		
評価方法	<p>授業での取り組み(ディスカッション) 40%</p> <p>コメントペーパー 30%</p> <p>期末試験(課題レポート) 30%</p>		

参考文献	森のようちえん～自然の中で子育てを～ 今村章光(解放出版社) 日本の森のようちえん 内田幸一(ミツイパブリッシング) 自然保育の素：こどもと一緒に野外を楽しむ(ミツイパブリッシング)				
特記事項	なし。				
課題へのフィードバック方法	発表、コメントシート、課題レポートに関して、全体へのフィードバックと解説を行います。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格	必修	保育の内容・方法に関する科目
教員の実務経験	(池谷)国外保育園での音楽と動きの教育についての講師経験、日本人学校での幼稚園教諭経験があり				

ナンバリング	B④02	科目名	音楽表現演習 I
担当形態	クラス分け・ 単独	担当教員	明石 現・大澤 ちづる・清水 朋美・曾我 桂子 局 和美・福中 琴子・松井 直子
ディプロマポリシー との関連性	②		
テキスト	ピアノコース:「バステイン おとなのピアノ教本 Book1」 株式会社東音企画 ギターコース:「新ギター教本」 ギタルラ社 共通:「こどものうた 100」 チャイルド本社 他に適宜、楽譜や資料を配布する。		
開講時期	前期	単位数・ 授業形態	1 単位・演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノ、ギターについての基礎的な知識や技術を学び、こどもの歌の弾き歌いや簡単な独奏曲を演奏することができる。 ・20 曲以上の「こどものうた」を知るとともに、それらを歌う表現技術が身につく。 ・音楽理論の基礎的な知識(読譜、拍子、リズムなど)について理解し、活用できる。 		
授業の概要	<p>保育の内容を理解し、展開するために必要な保育の表現技術の一つである歌唱およびピアノやギターなどの伴奏楽器を用いた演奏の力量を高めることを目的として、少人数によるグループ授業を行う。</p> <p>「こどものうた」を知り、演奏することを通して、音楽を感じる心と豊かにする表現力を養う。グループ授業による歌唱や演奏技術の習得、授業内での実技試験、音楽理論の筆記試験を実施する。</p>		
授業計画	<p>ピアノ 第 1 回 オリエンテーション 楽器に関する基礎知識</p> <p>第 2 回 五線譜の読み方、楽譜上の音と運指</p> <p>第 3 回 C コード</p> <p>第 4 回 G コード、F コード</p> <p>第 5 回 ハ長調</p> <p>第 6 回 まんちん C ポジションの読譜</p> <p>第 7 回 速度記号、臨時記号、反復記号、オクターブ記号、3 拍子</p> <p>第 8 回 ト長調</p> <p>第 9 回 G コード→D コードの動き、G コード→C コードの動き</p> <p>第 10 回 8 分音符(休符)と付点のリズム</p> <p>第 11 回 ヘ長調、独奏曲①</p> <p>第 12 回 音楽基礎知識(楽典)復習、独奏曲②</p> <p>第 13 回 音楽基礎知識(楽典)試験、実技試験準備</p>		

	<p>第 14 回 実技試験、まとめ</p> <p>第 15 回 学内コンサートの鑑賞</p> <p>ギター 第 1 回 楽器に関する基礎知識、フォーム</p> <p>第 2 回 開放弦による右手フォーム、左手ポジション</p> <p>第 3 回 五線譜、ギターコードダイアグラムの読み方</p> <p>第 4 回 スケール、単音の練習曲</p> <p>第 5 回 和音押弦の練習、左右フォーム</p> <p>第 6 回 和音の練習曲</p> <p>第 7 回 アルペジオ音型①</p> <p>第 8 回 アルペジオ音型②</p> <p>第 9 回 独奏曲の運指法、声部理解、断絃法</p> <p>第 10 回 独奏曲によるアーティキュレーション</p> <p>第 11 回 初級独奏曲①</p> <p>第 12 回 初級独奏曲②</p> <p>第 13 回 音楽基礎知識(楽典)試験、実技試験準備</p> <p>第 14 回 実技試験、まとめ</p> <p>第 15 回 学内コンサートの鑑賞</p>				
準備学習と必要時間	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前までに、必ず実技の課題に関する自主練習をしておくこと。(60分以上) ・終了した課題曲に関しても日常的に復習をして、レパートリーの蓄積をすること。 				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題曲の達成度・実技試験 — 40% (実技試験を辞退した場合は、単位不可となります。) ・授業の取り組み — 60% (筆記試験、提出物等を含む) 				
参考文献	<p>「こどものうた 200」 チャイルド本社</p> <p>「続こどものうた 200」 チャイルド本社</p> <p>「保育者・教師をめざす人、集まれ！みんなピアノだい好き！」 全音楽譜出版社</p>				
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で、確認のための実技発表や筆記試験を行うことがある。 ・継続的に自己練習を行うこと。授業前までに 60 分以上は練習しておくこと。 				
課題へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・発表に対しては適宜コメントをする。 				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格	選択	保育の内容・方法に関する科目

教員の実務経験	
---------	--

ナンバリング	B④05	科目名	音楽表現演習Ⅱ
担当形態	クラス分け・ 単独	担当教員	明石 現・大澤 ちづる・清水 朋美・曾我 桂子 局 和美・福中 琴子・松井 直子
ディプロマポリシー との関連性	②		
テキスト	ピアノコース:「バステイン おとなのピアノ教本 Book1」株式会社東音企画 ギターコース:「新ギター教本」ギタールラ社 共通テキスト:「こどものうた 10」チャイルド本社 他に適宜、楽譜や資料を配布する。		
開講時期	後期	単位数・ 授業形態	1単位・演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノやギターなどの伴奏楽器を弾きながら、10曲以上の「こどものうた」を歌う表現技術が身につく。また、独奏曲の演奏を通して、それぞれの楽器の特性を生かした演奏法が身につく。 ・20曲以上の「こどものうた」を知るとともに、それらを歌う表現技術が身につく。 ・音楽理論の基礎的な知識(読譜、拍子、リズム、コードネームなど)について理解を深め、活用できる。 		
授業の概要	保育の内容を理解し、展開するために必要な保育の表現技術の一つである歌唱およびピアノやギターを用いた弾き歌いの力量を高めることを目的として、少人数によるグループ授業を行う。こどもの歌の弾きうたいを通して豊かな感性や音楽的表現力の向上を目指す。授業では歌唱、授業内での実技発表、実技試験を実施する。		
授業計画	第1回 夏休みの課題 第2回 メジャーコードによる弾き歌い1 第3回 メジャーコードによる弾き歌い2 第4回 メジャーコードによる弾き歌い3 第5回 音楽理論の基礎とコードネーム 第6回 伴奏パターン1 第7回 伴奏パターン2 第8回 伴奏パターン3 第9回 独奏曲 第10回 マイナーコードによる弾き歌い1 第11回 マイナーコードによる弾き歌い2 第12回 音楽理論の筆記試験、解説 第13回 学内コンサートへの参加と鑑賞		

	第 14 回 実技試験 リハーサル 第 15 回 実技試験・まとめ・2 年次への課題				
準備学習と必要時間	・授業前に、必ず実技の課題に関する自己練習をしておくこと。(60 分以上) ・終了した課題曲に関しても日常的に復習をして、レパートリーの蓄積をすること。				
評価方法	・課題曲の達成度実技試験 — 40% (実技試験を辞退した場合は単位不可となります) ・授業内の取り組み — 60% (筆記試験、提出物等を含む)				
参考文献	「こどものうた 20」 チャイルド社 「続こどものうた 20」 チャイルド社 「保育者・教師をめざす人、集まれ!みんなピアノ だい好き!」 全音楽譜出版社				
特記事項	・単位修得には 10 曲以上の弾きうたい曲達成が必要となる。 ・継続的に自己練習を行うこと。授業前までに 60 分以上は練習しておくこと。				
課題へのフィードバック方法	・発表に対しては適宜コメントをする。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格	選択	保育の内容・方法に関する科目
教員の実務経験					

ナンバリング	B⑤01	科目名	社会福祉
担当形態	単独	担当教員	中嶋 一郎
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	なし		
開講時期	前期	単位数・ 授業形態	2単位・講義
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代における社会福祉の意義と歴史的変遷から、福祉の思想と考え方を理解する。 ・現代の社会福祉における制度や実施体系を理解する。 ・社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかる仕組みを理解する。 ・利用者の生活ニーズが表出する社会的、個別的な背景を理解し、支援の際に活かせるようにする。 ・利用者の生活ニーズに対する具体的支援方法を理解する。 		
授業の概要	<p>この科目は、保育士資格を取得するための必修科目であり、保育士実践に不可欠の知識・技能を学習するものである。</p> <p>具体的内容としては、社会福祉の現代的意義について、歴史、対象、制度、担い手の視点からとらえる。また、社会福祉に関する理論と制度の体系を学び、相談活動の方法や技術、保育における具体的な展開方法を学ぶことを目的とする。さらに、身近な事例を紹介しながら授業を進めつつ、社会福祉の現代的意義を平易に解説し、利用者の生活課題を理解する。これらを通じて保育士として必要な社会福祉に係る知識・技術を身につける。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 現代社会における社会福祉の意義① 社会福祉の概念と理念</p> <p>第2回 保育における社会福祉① 日本の人口動向 生活と社会福祉</p> <p>第3回 保育における社会福祉② 保育と社会福祉 社会福祉を学ぶ姿勢</p> <p>第4回 現代社会における社会福祉の意義② 社会福祉の歴史的変遷</p> <p>第5回 社会福祉と児童家庭福祉① 社会福祉の分野としての児童家庭福祉</p> <p>第6回 社会福祉と児童家庭福祉② 児童の人権・権利擁護と社会福祉</p> <p>第7回 社会福祉と児童家庭福祉③ 家庭支援・子育て支援と社会福祉</p> <p>第8回 社会福祉の制度と実施体系① 社会福祉の制度と法体系 社会福祉行財政と実施機関</p> <p>第9回 社会福祉の制度と実施体系② 社会福祉施設 社会福祉の専門職 社会保障および関連制度</p>		

	<p>第 10 回 社会福祉における相談援助① 相談援助の概要 相談援助の具体的展開 事例分析(1)</p> <p>第 11 回 社会福祉における相談援助② 相談援助の概要 相談援助の具体的展開 事例分析(2)</p> <p>第 12 回 社会福祉における相談援助③ 相談援助の概要 相談援助の具体的展開 事例分析(3)</p> <p>第 13 回 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み 情報提供と第三者評価 利用者の権利擁護と苦情解決</p> <p>第 14 回 社会福祉の動向と課題</p> <p>第 15 回 これまでのまとめ 保育士として社会福祉で学んだことをどう活かすのか</p>										
準備学習と必要時間	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前は事前学習として前回学んだことを 60 分以上かけて復習してください。 ・授業後は事後学習として学んだ内容に関する社会的な出来事を 60 分以上かけて調べて理解を深めてください。 										
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 期末試験 総合点の 55% 2. 授業毎の感想レポート 45% 										
参考文献	授業中に適宜示します										
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話等の使用や私語等を慎むことは、守るべきマナーです。(減点の対象) ・授業等で不満があれば個人的に受け付けておりますので、いつでもご相談ください。 ・自分の意見を持つことは、共に学ぶ学友との相互理解を深めるための道具です。自分の意見はワークシートにまとめ、それを元に他人と議論を交わしてください。 <p>(以下、加点の対象)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の学生を尊重し、その意見をしっかりと受け止めてください。 ・発表の際には、他の学生に伝わる大きさの声で行ってください。 ・わからないことがあれば、授業内、外で積極的に質問してください。 										
課題へのフィードバック方法	<p>試験後、模範解答を提示して解説を行います。</p> <p>授業毎に課す感想レポートについては、特に返却はいたしません。</p> <p>質問等の記載があった場合は、個別対応、または次回の授業にて補足をします。</p>										
卒業・免許状・資格との関連	<table border="1"> <tr> <td>卒業</td> <td></td> <td>幼稚園教諭免許状</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>社会福祉主 事任用資格 選択必修</td> <td>保育士資格</td> <td>必修</td> <td>保育の本質・目的に関する科目</td> </tr> </table>	卒業		幼稚園教諭免許状			その他	社会福祉主 事任用資格 選択必修	保育士資格	必修	保育の本質・目的に関する科目
卒業		幼稚園教諭免許状									
その他	社会福祉主 事任用資格 選択必修	保育士資格	必修	保育の本質・目的に関する科目							
教員の実務経験											

ナンバリング	B⑤02	科目名	こども家庭福祉
担当形態	単独	担当教員	中嶋 一郎
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	なし		
開講時期	後期	単位数・ 授業形態	2単位・講義
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを育てる家庭を支援する具体的な社会制度について理解し、説明が出来るようにする。 ・子ども家庭福祉の対象となる家庭、及び子どもの実態の理解、及び関わり方を理解し、説明ができるようにする。 ・子ども家庭福祉への具体的な支援方法、及び問題解決方法を理解し、実践で使用できるようにする。 		
授業の概要	<p>この科目は、保育士資格を取得するための必修科目であり、保育実践に不可欠の知識・技能を学習するものである。</p> <p>具体的には、子どもとその育児をする家庭を取り巻く環境を踏まえ、子どもを育てる家庭を支援する子ども家庭福祉の意義や歴史、制度の体系、具体的活動を学ぶ。これらを通じて、保育士としての実践的な関わりと問題解決のための方法を身につける。</p> <p>授業方法は授業毎にディスカッションを行う時間を設け、映像や配布資料を基に授業毎のテーマについて自身の考えをまとめていく形で行う。</p>		
授業計画	<p>第1回:オリエンテーション 保育における子ども家庭福祉</p> <p>第2回:現代社会と子ども家庭福祉① 現代社会と子ども・家庭</p> <p>第3回:現代社会と子ども家庭福祉② 現代社会と子ども家庭福祉</p> <p>第4回:子ども家庭福祉の意義とその歴史的展開① 子ども家庭福祉の概念・理念</p> <p>第5回:子ども家庭福祉の意義とその歴史的展開②</p> <p style="text-align: center;">子ども家庭福祉の歴史的展開・諸外国の現状</p> <p>第6回:子ども家庭福祉に関する法制度と実施体制①</p> <p style="text-align: center;">子ども家庭福祉の法体系・実施体制・費用</p> <p>第7回:子ども家庭福祉に関する法制度と実施体制②</p> <p style="text-align: center;">子ども家庭福祉の専門職とネットワーク・権利擁護</p> <p>第8回:子ども家庭福祉施策の現状と課題①</p> <p style="text-align: center;">少子化と子育て支援サービス・多様な保育ニーズへの対応</p>		

	<p>第 9 回:子ども家庭福祉施策の現状と課題② 母子保健サービス・障害のある子どもへの支援</p> <p>第 10 回:子ども家庭福祉施策の現状と課題③ 子どもの健全育成 子ども虐待とDVへの対応</p> <p>第 11 回:子ども家庭福祉施策の現状と課題④ 社会的養護サービス ひとり親家庭福祉</p> <p>第 12 回:子ども家庭福祉援助活動① 子ども家庭福祉援助活動と保育 子ども家庭福祉援助活動と相談援助</p> <p>第 13 回:子ども家庭福祉援助活動② 子ども家庭福祉援助活動の実際(1)</p> <p>第 14 回:子ども家庭福祉援助活動③ 子ども家庭福祉援助活動の実際(2)</p> <p>第 15 回:まとめ 子ども家庭福祉分野における保育士の役割</p>
準備学習と必要時間	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前は事前学習として前回学んだことを 60 分以上かけて復習してください。 ・授業後は事後学習として学んだ内容に関する社会的な出来事を 60 分以上かけて調べて理解を深めてください。 <p>※第 1 回目の事前学習として、「児童家庭福祉」「保育」という言葉を 60 分以上かけて調べてまとめておいてください。</p>
評価方法	<p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <p>1 期末試験 総合点 55%</p> <p>2 授業毎の感想レポート 45%</p>
参考文献	授業中に適宜示します。
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話等の使用や私語等を慎むことは、守るべきマナーです。(減点の対象) ・授業等で不満があれば個人的に受け付けておりますので、いつでもご相談ください。 ・自分の意見を持つことは、共に学ぶ学友との相互理解を深めるための道具です。自分の意見はワークシートにまとめ、それを元に他人と議論を交わしてください。(以下、加点の対象) ・他の学生を尊重し、その意見をしっかりと受け止めてください。 ・発表の際には、他の学生に伝わる大きさの声で行ってください。 ・わからないことがあれば、授業内、外で積極的に質問をしてください。
課題へのフィードバック方法	<p>授業ごとに課す感想レポートについては、特に返却はいたしません。</p> <p>ただ質問等の記載があった場合は、個別対応、または次回の授業にて補足します。</p>

卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状		
	その他	社会福祉主 事任用資格 選択必修	保育士資格	必修	保育の本質・目的に関する科目
教員の実務経験					

ナンバリング	B⑤03	科目名	社会的養護 I
担当形態	単独	担当教員	中嶋 一郎
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	なし		
開講時期	後期	単位数・授業形態	2 単位・講義
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護の理念と概念を理解し、保育士として実践で使用出来る知識を身につける。 ・児童の権利、児童養護の理念を理解し、保育士として実践で使用出来る知識を身につける。 ・施設養護における自立支援等の具体的な支援について理解し、保育士としての実践力を身につける。 ・社会的養護の抱える今後の課題について理解し、保育士としての考察力、対応力を身につける。 		
授業の概要	<p>この科目は、保育士資格を取得するための必修科目であり、保育実践に不可欠の知識・技能を学習するものである。</p> <p>具体的な内容としては、社会的養護の意義、制度や実施体系及び児童の権利擁護について理解する。また、関係法制度や最新の統計データを参考にしつつ、児童福祉施設の今日的動向と各サービスの特徴を理解する。</p> <p>授業の形式は、講義、演習、ディスカッション等で実施をする。</p>		
授業計画	<p>第 1 回:オリエンテーション／現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷① 社会的養護の理念と概念</p> <p>第 2 回:現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷② 社会的養護の歴史的変遷</p> <p>第 3 回:社会的養護と児童家庭福祉① 児童家庭福祉と社会的養護の関係性</p> <p>第 4 回:社会的養護と児童家庭福祉② 児童の権利擁護と社会的養護</p> <p>第 5 回:社会的養護の制度と実施体系① 社会的養護の制度と法体系</p> <p>第 6 回:社会的養護の制度と実施体系② 社会的養護の仕組みと実施体制</p> <p>第 7 回:社会的養護の制度と実施体系③ 家庭養護と施設養護</p> <p>第 8 回:社会的養護の制度と実施体系④ 社会的養護の専門職</p> <p>第 9 回:施設養護の実際① 施設養護の基本原則 施設養護の実際/養護系施設</p> <p>第 10 回:施設養護の実際② 施設養護の実際/非行系施設・障害系施設</p>		

	<p>第 11 回:施設養護の実際③ 施設養護とソーシャルワーク 施設等の運営管理 記録の作成の留意点と自己評価の視点</p> <p>第 12 回:社会的養護の課題と展望① 生活単位の小規模化とケア体制</p> <p>第 13 回:社会的養護の課題と展望② 社会的養護の担い手のケアの必要性</p> <p>第 14 回:社会的養護の課題と展望③ 社会的養護の課題</p> <p>第 15 回:保育士として社会的養護にどのように関わりたいのかを考える</p>				
準備学習と必要時間	<p>・授業前は事前学習として前回学んだことを 60 分以上かけて復習してください。</p> <p>・授業後は事後学習として学んだ内容に関する社会的な出来事を 60 分以上かけて調べて理解を深めてください。</p> <p>※第 1 回目の事前学習として、「社会的養護の意味と理念」を 60 分以上かけて調べてまとめておいてください。</p>				
評価方法	<p>1. 期末試験 - 55%</p> <p>2. 授業毎の感想レポート - 45%</p>				
参考文献	授業中に適宜示します。				
特記事項	<p>・携帯電話等の使用や私語等を慎むことは、守るべきマナーです。(減点の対象)</p> <p>・授業等で不満があれば個人的に受け付けておりますので、いつでもご相談ください。</p> <p>・自分の意見を持つことは、共に学ぶ学友との相互理解を深めるための道具です。自分の意見はワークシートにまとめ、それを元に他人と議論を交わしてください。(以下、加点の対象)</p> <p>・他の学生を尊重し、その意見をしっかりと受け止めてください。</p> <p>・発表の際には、他の学生に伝わる大きさの声で行ってください。</p> <p>・わからないことがあれば、授業内、外で積極的に質問をしてください。</p> <p>・単位を修得できない場合は社会的養護Ⅱを履修できません。</p>				
課題へのフィードバック方法	<p>試験後、模範解答を提示して解説を行います。</p> <p>授業毎に課す感想レポートについては、特に返却はいたしません。</p> <p>質問等の記載があった場合は、個別対応、または次回の授業にて補足をします。</p>				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格	必修	保育の本質・目的に関する科目
教員の実務経験					

ナンバリング	A①06	科目名	オーラル・コミュニケーションⅡ
担当形態	単独	担当教員	赤松 直子
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②		
テキスト	「Children's Garden 保育英語」 成美堂		
開講時期	後期	単位数・ 授業形態	2単位・演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・マザーグースの唄(英語の伝承童謡)から様々な英語表現や音とリズムの仕組みを学び、遊び唄を覚え、歌うことができ、手遊びなどを保育活動で実践できる。 ・英語圏の文化を学び、外国の文化について保育の現場で子どもたちに説明でき、異文化に親しむ活動を取り入れることができる。 ・英語絵本の読み聞かせを通じて、子どもたちに英語の言葉を紹介し、説明できる。 		
授業の概要	<p>保育所保育指針では子どもたちが「異なる文化にふれる活動に親しんだりすることを通じて、社会とのつながりの意識や国際理解の意識の芽生えなどが養えるようにすること」を求めている。これを鑑み、この授業では「保育英語」からマザーグースの唄を中心に学ぶ。マザーグースは英語のリズムやライム(音遊び)を学習するのに優れた英語教材とされ、オーラル・コミュニケーションにおいて、聴解力や発信力の基礎を育むことは言うまでもない。マザーグースを保育活動に取り入れるアクティビティとして、ミニブックやおもちゃを製作する。さらに、異文化学習として英語圏の子ども文化からイースターやクリスマスについて理解を深め、イースターエッグやお菓子の家を製作する。また、英語絵本の読み聞かせから語彙を学び、言葉が持つリズムや音の楽しさ、そして絵が醸し出す豊かな世界観も味わう。</p>		
授業計画	<p>第1回 Orientation/Mother Goose Rhymes オリエンテーション/マザーグースとは</p> <p>第2回 Where is Butterfly?(Where is Thumbkin?の替え唄) 手遊び唄:蝶々はどこ?/替え唄/蝶々の製作/絵本: Butterfly</p> <p>第3回 Easter って何?(異文化学習)/イースターの遊び イースターエッグの製作/イースターの絵本</p> <p>第4回 Halloween 異文化学習 (Photo props の製作)</p> <p>第5回 The Mulberry Bush/Ring-A-Ring O'Roses 輪遊び唄 桑の木の周りをまわろう/バラの花輪(パンデミックの歴史唄)</p> <p>第6回 Pat-A-Cake / Mix a Pancake 手合せ唄 ケーキを作る遊び唄/ホットケーキの英詩</p>		

	<p>第7回 Old MacDonald Had a Farm/Onomatopoeia 遊び唄 マクドナルドおじさん/英語の擬声語(動物の鳴き声)</p> <p>第8回 One, Two, Three, Four, Five / Two Little Sausages 数え唄 1, 2, 3, 4, 5/2本の小さなソーセージ</p> <p>第9回 Apples, Peaches/Mother's Knives and Forks: Rhymes 縄跳び唄 リンゴにモモ/手遊び唄 お母さんのナイフとフォーク・頭韻</p> <p>第10回 Gingerbread Man/Christmas 異文化学習</p> <p>第11回 Christmas crafts お菓子の家の製作</p> <p>第12回 Hickory Dickory Dock/マザーグースのメロディ 遊び唄 ヒコリディコリドック: イギリスとアメリカのメロディ比較</p> <p>第13回 Hush-A-Bye Baby/Peek-A-Boo Toy Cup 子守唄 ハッシュャバイベイビー/手作りおもちゃ製作</p> <p>第14回 Word game (Scrabble)</p> <p>第15回 Wrap-up/ Class report 振り返りとまとめ</p>
準備学習と必要時間	<p>事前学習: 予習ノートを作り、次回に学習する唄をノートに写し、語彙を辞書で調べておくこと。(60分)</p> <p>事後学習: 学習した唄を復習するため、声に出して読む、手遊びを練習する、唄について得た知識をノートにまとめる。製作物を完成させる。(60分)</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間外の行う準備学習(必要な物品、予習ノート提出で確認) 20% ・授業時間内の取り組み (積極的な取り組み、製作物、発言回数および内容で確認) 30% ・ノート提出 10% ・学習の記録 20% ・学期末レポート 20%
参考文献	<p>よもう うたおう! マザーグース(講談社)</p> <p>英語絵本は本学図書館所蔵を活用する。</p>
特記事項	<p>マザーグースの唄からアプローチする英語学習は新鮮で、手遊び唄なども多く親しみやすいと思われる。英和・和英辞書(電子辞書か紙の辞書)を持参すること。製作のときは、はさみ、のり、色鉛筆などを必要とする。</p>
課題へのフィードバック方法	<p>毎回提出される学習の記録にコメントを書き加えて返却・フィードバックする。</p> <p>授業中のアクティビティや課題へのフィードバックは授業内に行う。</p>

卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状	選択必修	第 66 条の 6 に定める科目
	その他		保育士資格	選択必修	教養科目
教員の実務経験					

ナンバリング	A②06	科目名	フィールドワーク(人間と文化) 『人と文化に出会う』(共生社会を考慮して) 沖縄県伊江村(伊江島)を中心として」
担当形態	単独	担当教員	中嶋 一郎
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	資料を適宜用意します。		
開講時期	集中	単位数・ 授業形態	2単位 演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる地域で生まれ育った多様な人と交流し、他者理解・自己理解を深める。 ・沖縄において多様な人々の生活を体験し、歴史を学び、自身の福祉観を醸成させる。 ・普段と異なる環境での生活を体験し、臨機応変に対応する能力を身につける。 ・共生社会について自身の考えを持ち、実現するための指針を持つ。 		
授業の概要	<p>太平洋戦争時、日本で唯一の地上戦が行われてしまった場所である沖縄には、今でもその影響が人々の生活に及んでいます。そのような歴史、環境で生活をする様々な立場の人々と交流をすることで、人々の価値観や背景を理解し、人との縁(つながり)を感じ、他者理解・自己理解を深め、自分自身の幸せ(福祉)について再考し、人やモノ、様々な出来事に対する価値観を再考する機会としてください。</p>		
授業計画	<p>1) 事前研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県の社会福祉に関する動向 ・機能障害を持つ人の生活 (木村浩子さんを事例として) ・その他(沖縄県で体験してみたいこと) <p>2) 体験研修 9月中旬に4泊5日で行う予定</p> <p>研修内容(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県にある愛楽園の見学 ・沖縄県伊江島にてフィールドワーク(障がい者支援施設・保育所の見学等) ・木村浩子さんとの交流会 		
準備学習と必要時間	<p>沖縄県にある愛楽園について各自で調べておく。事前学習として1時間程度、以下の項目についてまとめておいてください。</p> <p>沖縄県伊江島についての概要(人口・社会資源等)について各自で調べておく。</p>		

評価方法	事前学習への取り組み 20% 研修中の取り組み 60% 体験レポート 20%				
参考文献	授業中に適宜示します。				
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークでは、実際に沖縄県伊江村(伊江島)や沖縄本島に赴き活動を行います。 ・活動についての内容は軸となる活動を据えています。それ以外の活動についても参加する方々のアイディア等も取り入れながらフィールドワークの内容を考えていきます。学びにつながる経験を一緒に考え、実践していけたらと考えております。 ・費用は8万円～10万円程度を予定。 				
課題へのフィードバック方法	提出物に関しては、適宜指導を行い、必要に応じてコメントを記載して返却します。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格	選択	教養科目
教員の実務経験					

ナンバリング	A②06	科目名	フィールドワーク(人間と文化) 「音楽の都 ウィーンを訪ねて」
担当形態	単独	担当教員	明石 現
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	適宜配布します。		
開講時期	集中	単位数・ 授業形態	2単位・演習
到達目標	オーストリアの首都ウィーンにおいて、音楽や美術等、ヨーロッパ屈指の芸術文化に触れ、日本の文化との差異を理解し、多様な価値観、視点を自身の言葉で説明できる。		
授業の概要	音楽の都ウィーンに身を置き、歴史に残る数多くの有名作曲家の足跡をたどる他、コンサートやオペラの鑑賞をしたり、美術館を訪れたりする等、質の高い芸術を堪能する。また、街散策の中で、カフェや郷土料理など、現地の日常にも触れ、ヨーロッパ文化の奥深さを体験する。		
授業計画	<p>現地での滞在を充実したものとするために、渡航前に下記の事項をグループ全体で学び合う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オーストリア・ウィーンの歴史・文化・政治等を調べ、知識や情報を共有する。 2.旅のしおりを自分たちで作成し、現地での見学に役立てる。 3.ドイツ語・英語の初歩を学習し、現地での滞在に役立てる。 4.帰国後には、現地でお世話になった方々へのお礼状を郵送する。 5.渡航前と渡航後の自分自身の変化をレポートとして発表し合い、今後の学びにどのように活かしていくのかを考察する。 <p>〈訪問地・期間〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問地:オーストリア・ウィーン、ウィーン近郊の街 ・期間:9月中旬の7泊9日を予定 <p>〈注意事項〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パスポート申請他、事前準備は日程厳守の上で、各自が責任をもって行う。 		
準備学習と必要時間	<ul style="list-style-type: none"> ・海外へのフィールドワークであるため、ドイツ語・英語の学習、 現地の歴史・文化・政治状況等、入念な下調べをして訪問に備えること。 ・毎回60分の予習と復習時間を取る 		

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・事前準備への取り組み —20% ・研修中の取り組み —60% ・研修レポート —20% 				
参考文献	適宜紹介します。				
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・定員 4 名 ・積立金その他、25 万円前後を予定。(航空運賃、ユーロのレート変動により誤差あり) 内訳:航空運賃、滞在費、現地交通費、入館料、保険料、ETIAS 等				
課題へのフィードバック方法	事後学習において作成されたレポートについて話し合いの場を設定し、コメントする。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格	選択	教養科目
教員の実務経験					

ナンバリング	A②07	科目名	フィールドワーク(生活と社会) 「ナイト・サンセットウォーク in Chiba」
担当形態	複数	担当教員	古賀 琢也・郷家 史芸
ディプロマポリシーとの関連性	①, ③		
テキスト			
開講時期	集中	単位数・ 授業形態	2単位・演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校から自身の設定したゴールまで完歩する。 ・自身と向き合い、他者と協力する姿勢を身に付ける。 ・臨機応変に行動する力を身に付ける。 		
授業の概要	<p>車や電車等といった移動手段としての交通機関の発達には、私たちの社会や生活のあり方、また人の感性や健康、人間関係等、多岐にわたる変化をもたらしています。その一つに、歩く機会の減少があります。</p> <p>本授業では、自分たちで作った地図をみて目的地まで歩きます。長距離を歩くことで、人が本来備えている歩く力を実感すると共に、普段とは異なる移動中の音や光の感じ方、景色の見え方、時間の過ごし方、他者との距離の取り方等を体験します。総距離は約 35km を予定していますが、ゴールは自身で設定します。</p> <p>また、参加者全員で一緒に歩くため、参加者の体調や道路事情等によってはルート等を変更する場合があります。</p>		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回 オリエンテーション、目的地の設定 ・第2回 オリエンテーション、歩く行程確認、地図の作成 ・各自で、自宅周辺などを歩く ・第3回 直前の確認 ・第4回 ナイト・サンセットウォーク実施 ・第5回 レポート作成および報告会の準備 <p>※ナイト・サンセットウォークの実施は5・6月または11月を計画</p>		
準備学習と必要時間	<ul style="list-style-type: none"> ・各自、適度の距離を歩くことに慣れておくこと。 ・一日を通して歩くため、普段から(特に直前の)健康管理をしておくこと。 		

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習への参加 -20% ・活動への参加 -50% ・レポートの作成および報告会への参加 -30% 				
参考文献	授業中に適宜示します				
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・当日の集合時間、解散時間は、打ち合わせで検討し、決定します。 ・体験中の飲食代等は自己負担となります。 ・長時間歩くための服装、靴が必要。 ・雨天決行、荒天延期。 				
課題へのフィードバック方法	レポート等にはコメントを書き加え返却します				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格	選択	教養科目
教員の実務経験					

ナンバリング	A②07	科目名	フィールドワーク(生活と社会) 「生活と文化を考える～富山県利賀村研修」
担当形態	単独	担当教員	由田 新
ディプロマポリシーとの関連性	①, ③		
テキスト	資料を適宜用意します。		
開講時期	集中	単位数・ 授業形態	2単位・演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・村の人々の生活にふれ、自らの生活をふりかえり、その違いや共通点について語る ことができる。 ・「小さな異文化」の発見から多様なものの見方、考え方に気づき、語る ことができる。 		
授業の概要	大都市圏とは違う昔ながらの生活スタイルをもっている富山県南砺市利賀村で様々な生活体験をすることを通して、普段無意識に営んでいる自分自身の「生活」を問い直したいと思います。また、仲間との共同生活・村の人との交流を通して、お互いの中にある「小さな異文化」にも気づいてほしいと思います。		
授業計画	1) 事前準備 2) 研修(9月に一週間程度を予定) <ul style="list-style-type: none"> ・村の生活を体験(一般の家庭に宿泊・そば打ち体験・農作業等) ・保育所での実習体験 ・自然体験(ブナ原生林探索・ナイトウォーク・岩魚のつかみ取り等) ・仲間との長期にわたる共同生活体験 3) 事後学習		
準備学習と必要時間	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習の際、利賀村について調べる等の準備学習を課します。(60分以上) ・事後学習の準備として、利賀村研修での体験をまとめる等の課題を課します。(60分以上) 		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・研修への参加状況(積極的な取り組み、話し合い等での発言内容等)－ 40% ・話し合いでのまとめレポート － 20% ・研修レポート － 40% 		
参考文献	適宜紹介します。		
特記事項	費用は9～10万円程度を予定。		

課題へのフィードバック方法	提出されたレポートに基づいて話し合いを行い、教員もコメントを述べる。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格	選択	教養科目
教員の実務経験					

ナンバリング	A②08	科目名	フィールドワーク(自然と環境) 「キャンプインストラクターになろう」
担当形態	単独	担当教員	古賀 琢也
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	キャンプ指導者入門 第5版		
開講時期	集中	単位数・ 授業形態	2単位・演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプの意義や安全について理解できる。 ・宿泊活動やキャンプの指導に必要な知識や技術を身に付け、プログラムの指導ができる。 ・道具の扱い方やプログラムへの理解を深め、臨機応変に行動する力を身に付ける。 		
授業の概要	<p>幼児期から身近な自然と親しむことには多様な意義があり、保育現場においても宿泊や野外活動伴う実践に携わることがある。理論と実技を通して宿泊活動やキャンプの指導に必要な知識や技術を体系的に学び、自然の中で過ごす豊かさを伝えられるようになることを目指す。この授業を履修することでキャンプインストラクターの資格取得に必要な課程を修めることができる。</p> <p>キャンプインストラクターは、キャンパー個人やグループに対して、キャンプのプログラム等の指導を行う役割を担うことができる指導者として認められる資格である。キャンプの意義やキャンプの安全などの知識を学ぶとともに、実際にキャンプのアクティビティを体験しながら、プログラムの指導についても学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、組織キャンプのイメージを膨らませる 【理論編】</p> <p>第2回 キャンプの特性・ねらいと内容</p> <p>第3回 キャンプの対象</p> <p>第4回 キャンプの指導・安全 【実技編】</p> <p>第5回 テントを立ててみよう、ロープワーク</p> <p>第6～13回 宿泊演習(一泊二日)</p> <p>1. キャンプの安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールド調査(現地踏査) ・危険予知とその対処 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・ファーストエイドの実際 2. キャンプの生活技術 <ul style="list-style-type: none"> ・テント設営 ・野外炊事 ・工具及び道具使用法 ・天気予報、観天望気 3. さまざまなアクティビティ 				
準備学習と必要時間	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストの指定された箇所を読んでおく ・必要な準備や調べ学修をしておく(必要時間 60 分) 				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・活動への参加 — 50% ・グループワーク等での積極性 — 20% ・小テスト — 30% 				
参考文献	授業中に適宜示します。				
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・当日の集合・解散時間は、打ち合わせで検討し、決定します。 ・テキスト代 2,200 円、施設(千葉市少年自然の家)利用料 800 円、リネン代 1,600 円程度、活動中の食材費 3,500 円程度、活動にかかる費用(活動によって異なる)等を「目的別研修費」より支出します。 ・希望者は、「日本キャンプ協会 キャンプインストラクター」の資格を取得できます。登録・事務手数料、協会入会金などで 15,300 円が別途必要となります。 ・活動に合わせた服装で臨んでください ・雨天決行、荒天延期。 				
課題へのフィードバック方法	試験後、模範解答を提示して解説を行います。 また、レポート等にはコメントを加え返却します。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格	選択	教養科目
教員の実務経験	保育所、認定こども園での実践経験を踏まえ、保育における宿泊や野外活動で意識する点や子どもの感性について事例を交えながら解説する。				

ナンバリング	A②08	科目名	フィールドワーク(自然と環境) 「～プレーパークへいこう～ ちばの遊び場について考える」
担当形態	単独	担当教員	由田 新
ディプロマポリシーとの関連性	①, ③		
テキスト	資料を適宜用意します。		
開講時期	集中	単位数・ 授業形態	2単位・演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・“プレーパーク”に参加し、そこにいる子どもや大人とかかわりを持つことができる。 ・“プレーパーク”という場が子どもや大人にとってどんな場になっているか、どんな意味があるのか、体験をまじえながら説明することができる。 		
授業の概要	<p>プレーパークを通して、千葉の遊び場について考えます。</p> <p>子どもの遊び場がどんどんなくなり、地域の繋がりも失われてきている時代ですが、千葉県の現状はどうでしょうか。そんな中「プレーパーク」と呼ばれる遊び場が県内各地に生まれています。「プレーパーク」は「自分の責任で自由に遊ぶ」というモットーを掲げ、地域の大人が運営をしている子どもの遊び場です。この授業では、「プレーパーク」へ定期的に通い、活動に参加し、そこにいる子どもや大人と関わりながら、こういう場が子どもや大人にとってどんな場になっているか知り、社会的な意味を検討します。活動は土曜日を中心となります。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1).事前準備 2).フィールドワーク 月に1-2回程度(土曜日等)、プレーパークに通います。 フィールド先:NPO 法人四街道プレーパーク どんぐりの森 他 3).事後学習 フィールドワークについて定期的に振り返りを行い、最終的にレポートをまとめます。 		
準備学習と必要時間	<ul style="list-style-type: none"> ・プレーパークについて、どんな場なのか、千葉県にどのくらいあるのか、調べます。(60分以上) ・事後学習として、学内での振り返りのためのレポート作成等を課します(60分以上) 		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークへの参加状況 — 50% ・ふりかえりレポート — 20% ・まとめのレポート — 30% 		

参考文献	「森×子育て @ハッピーな日常を作る 40 の種子」 四街道プレーパークどんぐりの森編(2013 自費出版) その他適宜紹介します。				
特記事項	現地までの交通費がかかります。(JR 千葉→四街道) その他、現地講師料等と合わせて、8,000 円程度がかかります。				
課題へのフィードバック方法	提出されたレポートに基づいて話し合いを行い、教員もコメントを述べます。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格	選択	
教員の実務経験					

ナンバリング	A②05	科目名	現代社会論 <総論>
担当形態	複数	担当教員	現代社会論全教員
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	特になし		
開講時期	通年	単位数・授業形態	4単位・演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会を構成する諸々の事象を通じ、その現状と事象と事象の相互関係を理解するとともに意見表明できる。 ・保育者である前に社会構成員の一人として現代社会の課題と、今後の社会に必要な「モノ」を意識して発信できる。 ・学生自ら生活を営む現代社会を探求して実際の保育、子育て支援に反映できる。 		
授業の概要	<p>選択履修する各論の学習に際して、総論は多角的に「現代社会」の外観を知り、実際の社会を考察する材料とする。</p> <p>各論は、多様化する社会の背景・成り立ちなどを調べ、私達の実際の生活と比較検討して長所・短所などを考察するとともに、展開される各論はそれぞれ相互に関連性のあるところを理解する。</p> <p>総論に関しては、報告、討論などを通じて自分の学んだ各論の内容・実践などを発信し、それぞれの「現代社会」を共有する。</p> <p>各論のテーマ及び概要は、各論担当教員の「シラバス」のとおり。</p>		
授業計画	<p>第1回 「現代社会論」の理解・各論担当教員による「現代社会」①</p> <p>第2回 各論担当教員による「現代社会」②</p> <p>第3回 中間報告①(各論の授業実践)</p> <p>第4回 中間報告②(各論の授業実践)</p> <p>第5回 学生による「『現代社会論』で学んだこと」報告(1年間のまとめ)①</p> <p>第6回 学生による「『現代社会論』で学んだこと」報告(1年間のまとめ)②</p>		
準備学習と必要時間	<p>【予習】毎回、各論の内容を整理して説明できるようにしておく。</p> <p>【復習】各論の内容を総論(中間報告、1年間のまとめ)に向けて整理するとともに、総論における報告内容を準備する(予習・復習計1時間以上)。</p>		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・原則、各論担当教員が担当学生の意欲、取組姿勢、レポート(総論、各論含め)などの課題提出の内容・状況により評価する。 		

	<p>・また、総論(中間報告、学生による「『現代社会論』で学んだこと」報告)の参加姿勢・態度などに関して意見集約して各論担当教員に提示し、各論担当教員の成績評価の参考にする。</p>				
参考文献	<p>・授業中、適宜、必要に応じて紹介する。</p>				
特記事項	<p>特になし。</p>				
課題へのフィードバック方法	<p>・適宜、課題等に関してはコメント又は模範解答等を提示して解説します。</p>				
卒業・免許状・資格との関連	卒業	必修	幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格		
教員の実務経験					

ナンバリング	A②05	科目名	現代社会論 「芸術を教育・福祉へ」
担当形態	単独	担当教員	明石 現
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	適宜配布。		
開講時期	通年	単位数・ 授業形態	4単位・演習
到達目標	芸術による社会貢献に関する多くの事例を考察し、芸術が現代社会の諸問題にどのように役立てられるのかという道筋を理解し、教育、福祉の現場での具体的方策を構築することが出来る。		
授業の概要	<p>世界に視線を向けてみると、希望や人としての誇りに満ちた芸術活動の実践例が数多く存在していることに気付く。その実践例を学修し、芸術が社会に如何に貢献しているかを学び合う。</p> <p>音楽、写真、美術という3つのカテゴリーに分け、芸術による社会貢献の実践例を取り上げ、ディスカッションをした上で総括する。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 一年間の視点を共有する。</p> <p>第2回 「エル・システム ～奇跡の音楽教育プログラム～」① 歴史</p> <p>第3回 「エル・システム」② 仕組み</p> <p>第4回 「エル・システム」③ 取り組み</p> <p>第5回 「エル・システム」④ 欧米諸国への影響</p> <p>第6回 「エル・システム」⑤ 日本への影響</p> <p>第7回 「エル・システム」①～⑤についてのディスカッションと総括</p> <p>第8回 「ラマラ・コンサート ～国境を越える平和コンサート～」① 歴史</p> <p>第9回 「ラマラ・コンサート」② 仕組み</p> <p>第10回 「ラマラ・コンサート」③ 取り組み</p> <p>第11回 「ラマラ・コンサート」④ 国際社会への影響</p> <p>第12回 「ラマラ・コンサート」①～④についてのディスカッションと総括</p> <p>第13回 「報道写真家サルガド ～ある写真家が見つめた希望～」① その対象</p> <p>第14回 「報道写真家サルガド」② 取り組み</p> <p>第15回 「報道写真家サルガド」③ 未来への展望</p> <p>第16回 「報道写真家サルガド」①～③についてのディスカッションと総括</p> <p>第17回 「鷲田清一・語りきれないこと」①話すこと</p>		

	<p>第 18 回 「鷺田清一・語りきれないこと」②聞くこと 第 19 回 「鷺田清一・語りきれないこと」③語り合うこと 第 20 回 「鷺田清一・語りきれないこと」①～③についてのディスカッションと総括 第 21 回 「荒川修作・天命反転住宅」① 荒川修作とマドリン・ギンズの活動 第 22 回 「荒川修作・天命反転住宅」② 建築が精神・身体に与える影響 第 23 回 「荒川修作・天命反転住宅」③ 環境を見つめ直す 第 24 回 「荒川修作・天命反転住宅」①～③についてのディスカッションと総括</p>				
準備学習と必要時間	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回 60 分の予習と復習時間をとること。 ・各カテゴリーに関して、その社会的背景を事前に調べ概要を理解しておくこと。 ・円滑なグループ授業展開のために、事前に課された調べ学習を行い、授業後のレポートを必要に応じて提出すること。 その他、学外へのフィールドワークでの積極的な学習意欲を求めます。 				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業後のレポート — 60% ・フィールドワーク・発表 — 40% <p>※原則として試験は実施しません。</p>				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・山田真一「エル・システマ」教育評論社 ・小島美子「音楽からみた日本人」NHK 出版 ・姜尚中「希望と絆」岩波ブックレット ・渡部陽一「晴れ、そしてミサイル」 				
特記事項	学外学習費用概算：入場料等 10,000 円+交通費				
課題へのフィードバック方法	レポートと発表にはコメント等をする。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業	必修	幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格		
教員の実務経験					

ナンバリング	A②05	科目名	現代社会論 「今時の児童館、放課後児童クラブ、子育てサロン」
担当形態	単独	担当教員	鈴木 良東
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト			
開講時期	通年	単位数・授業形態	4単位・演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館、放課後児童クラブ、子育てサロン等の基本的な機能・役割について理解し説明できる。 ・健全育成について理解し、説明できる。 ・子どもの意見を運営に反映している施設や子どもが企画段階から関わる事業等を知り、「子どもの参画」の重要性を理解し、説明できる。 ・子どもを取り巻く環境に関心を持ち、課題を発見し、解決する姿勢を身に着ける。 		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・講義と演習(討議、発表、ロールプレイ)を通して、児童館・放課後児童クラブ・子育てサロンの機能や役割を理解する。 ・多様な形態の児童館や放課後児童クラブを訪問し、それぞれの特徴を調べ、比較し、考察する。 ・フィールドワークに関しては、体験形学習を取り入れ、児童館では小学生向けの「ミニえんにち」を実施。子育てサロンでは、乳幼児保護者向けにパネルシアター等を実演する。 		
授業計画	第1回 オリエンテーション、児童館での遊びの紹介 第2回 児童館及び放課後児童クラブの基礎的理解 第3回 健全育成について 第4回 小学生の発達と子どもとのコミュニケーション 第5回 フィールドワーク 放課後児童クラブ訪問Ⅰ 第6回 児童館での小学生の遊びや活動 第7回 中高生対応児童館の機能と役割 第8回 子育て支援と児童館 第9回 児童館訪問準備(ミニえんにちコーナー等準備) 第10回 フィールドワーク 中高生対応児童館と児童館訪問 第11回 フィールドワークのまとめ(KJ法による) 第12回 フィールドワーク 放課後児童クラブ訪問Ⅱ		

	第 13 回 フィールドワークのまとめ(第 5 回で訪問した放課後児童クラブとの比較) 第 14 回 被災地や途上国における遊びの支援 第 15 回 放課後児童クラブでの障害児への支援 第 16 回 放課後児童クラブと学校との連携及び保護者対応 第 17 回 児童館における地域福祉活動 第 18 回 子育てサロン訪問準備(パネルシアター、ペープサート等制作) 第 19 回 フィールドワーク 子育てサロン訪問 第 20 回 フィールドワークのまとめ(KJ 法による) 第 21 回 児童館、放課後児童クラブでの相談援助と家庭支援 第 22 回 フィールドワーク 放課後児童クラブ訪問Ⅲ 第 23 回 フィールドワークのまとめ (第 5 回第 12 回で訪問した放課後児童クラブとの比較) 第 24 回 1 年間のまとめ 主要テーマについてレポート作成				
準備学習と必要時間	毎週 60 分以上は、子どもに関する(主に小学生から高校生)新聞記事や雑誌記事、書籍などを読んでおくこと。				
評価方法	授業内での取り組み(積極的な取り組み、発言内容)50% レポート 50%				
参考文献	授業中に適宜示します。				
特記事項	なし				
課題へのフィードバック方法	レポート等にはコメントを書き加え返却します。 フィールドワークの交通費は自己負担(南阿佐ヶ谷・荻窪・高円寺エリアへ 2 回予定)				
卒業・免許状・資格との関連	卒業	必修	幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格		教養科目
教員の実務経験					

ナンバリング	A②05	科目名	現代社会論 「人類学とフィールドワーク」 —大相撲から文化と伝統を学ぶ—
担当形態	単独	担当教員	松山 啓
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	なし		
開講時期	通年	単位数・ 授業形態	4単位・演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークを実践することで、他者理解の方法を学ぶ。 ・大相撲に関する具体的な事例を考察し、「文化」という概念を説明できる。 ・上記①②について、自分の言葉や文章で表現できる。 		
授業の概要	<p>文化人類学とは、フィールドワークを通して対象世界の「文化」や「社会」を研究し、人間とは何かを問う学問である。本授業では、人類学的な思考を学びつつ、フィールドワークを実施することで、理論と実践を往還しながら異文化と他者理解の方法を学習する。この授業では、日本における相撲興行を対象とし、相撲部屋への参与観察や、本場所の観戦、両国の街歩きから「文化」や「伝統」をテーマにディスカッションをする。</p>		
授業計画	<p>第1回 文化人類学とは何か 第2回 フィールド演習: 大学周辺を歩く(おゆみ野地区) 第3回 ディスカッション フィールドノートの読み合わせと考察 第4回 大相撲: 「相撲部屋」について学ぼう 第5回 フィールド演習: 相撲部屋で稽古見学をしよう① 第6回 ディスカッション フィールドノートの読み合わせと考察 第7回 映画「辛抱」の鑑賞 第8回 大相撲: 興行の仕組みを知ろう 第9回 相撲の歴史を探る: 「なぜ両国は相撲の街になったのか」① 第10回 フィールド演習: 両国の街を歩く 第11回 ディスカッション フィールドノートの読み合わせと考察 第12回 前期のまとめ 内容の振り返りとディスカッション 第13回 フィールド演習: 大相撲の本場所を観戦しよう 第14回 ディスカッション フィールドノートの読み合わせと考察 第15回 フィールド演習: 相撲部屋で稽古見学をしよう② 第16回 ディスカッション フィールドノートの読み合わせと考察</p>		

	第 17 回 調理実習:ちゃんこ鍋をつくってみよう 第 18 回 映画「相撲道～サムライを継ぐものたち～」鑑賞 第 19 回 佐倉市と雷電為衛門の歴史を学ぶ 第 20 回 フィールド演習:佐倉市周辺を歩く (雷電ゆかりの地を巡る、国立歴史民俗博物館見学) 第 21 回 ディスカッション フィールドノートの読み合わせと考察 第 22 回 フィールド演習:相撲部屋で稽古見学をしよう③ 第 23 回 ディスカッション フィールドノートの読み合わせと考察 第 24 回 一年間のまとめ				
準備学習と必要時間	・事前に示された課題やテーマの概要を調べておくこと。(必要時間:60分) ・事前の授業準備において、コメントや質問を考えておくこと。(必要時間:60分)				
評価方法	・授業における積極的な取り組みとコメント - 30% ・フィールドワークの調査報告・発表 - 30% ・レポート - 40%				
参考文献	岸政彦・石岡文昇・丸山里美(2016)『質的社会調査の方法—他者の合理性の理解社会学』有斐閣. 新田一郎(1994)『相撲の歴史』講談社. 岸上伸啓(2018)『はじめて学ぶ文化人類学』ミネルヴァ書房.				
特記事項	フィールドワークにおける交通費等は各自負担。授業の進捗状況により、内容や順序の変更等の可能性がある。				
課題へのフィードバック方法	レポート・報告・発表に対するコメントを実施する。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業	必修	幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格		
教員の実務経験					

ナンバリング	A②05	科目名	現代社会論 「コンビニから社会の変化を考える」
担当形態	単独	担当教員	吉岡 秀子
ディプロマポリシーとの関連性	①, ③		
テキスト	なし		
開講時期	通年	単位数・ 授業形態	4単位・演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コンビニの進化の過程から社会における変化を理解し、説明できるようになること。 ・コンビニの商品やサービスのあり方から社会課題を見出し、議論し、解決策を検討できるようになること。 ・他者とコミュニケーションを取って意見をまとめ、積極的にプレゼンテーションできるようになること。 		
授業の概要	<p>暮らしに身近なコンビニは、社会の変化に応じて店のしくみや商品を変えて成長してきました。本授業ではコンビニを教材とし、現代社会の課題を考察します。商品やサービスがなぜ作られたのかといったケーススタディやワークショップを重ねることで自主的な学びにつなげ、自分たちがいかにして社会と関わっているのかを認識します。最後には、コンビニや企業の社会貢献活動から社会の課題は何かを考え、その解決の糸口を見つけます。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション(授業の方向性を共有する)</p> <p>第2回 コンビニの歴史・黎明期</p> <p>第3回 コンビニの歴史・成長期</p> <p>第4回 コンビニの歴史・成熟期～現在</p> <p>第5回 フィールドワーク: 浅草周辺探訪 ～外国人の多い観光地のコンビニを視察する</p> <p>第6回 ワークショップ: フィールドワーク後の議論と考察</p> <p>第7回 商品開発入門 ～コンビニはどうやって商品を開発しているのか</p> <p>第8回 ヒット商品が映す社会1 ～おにぎり</p> <p>第9回 ヒット商品が映す社会2 ～コンビニスイーツ</p> <p>第10回 フィールドワーク: カップヌードルミュージアム 横浜</p> <p>第11回 ワークショップ: フィールドワーク後の議論と考察</p> <p>第12回 ワークショップ: コンビニ新商品から社会のニーズを探る</p> <p>第13回 フィールドワーク: 都心の未来型コンビニを訪ねる</p>		

	第 14 回 ワークショップ: フィールドワーク後の議論と考察 第 15 回 コンビニから学ぶ「SDGs」 第 16 回 フィールドワーク:ファミリーマート本社・東京 第 17 回 ワークショップ: フィールドワーク後の議論と考察 第 18 回 フィールドワーク:セブン-イレブン～未来へ向けた実験店舗・千葉県松戸 第 19 回 ワークショップ:フィールドワーク後の議論と考察 第 20 回 ワークショップ:身近な「SDGs」を考える 第 21 回 SDGs 研究 発表会準備 第 22 回 SDGs 研究 発表会 第 23 回 ワークショップ: プレゼンテーション後の議論と考察 第 24 回 総括(年間授業を通じて学んだこと)				
準備学習と必要時間	新聞やネットニュースを読み、「社会に何が起きているか」を知るよう努めること (毎週 60 分以上)				
評価方法	・随時のレポート —50% ・プレゼンテーションを含む、授業内での積極的な取り組み・発言内容など 50%				
参考文献	授業中に適宜紹介します。				
特記事項	・リサーチするため、授業中にスマホなどの視聴を許可。(指示した時に限る) ・フィールドワークの日程・内容は変更する場合があります。 ・フィールドワークの交通費などは自己負担。				
課題へのフィードバック方法	課題やレポートは、コメントを書き加えて返却します				
卒業・免許状・資格との関連	卒業	必修	幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格		
教員の実務経験					

ナンバリング	A②05	科目名	現代社会論 「まちあるき」から社会を考える
担当形態	単独	担当教員	鷲野 宏
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト			
開講時期	通年	単位数・ 授業形態	4単位・演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・都市を観察するための様々な方法を修得できる。 ・都市という現象と社会との関係について客観的な考察ができる。 ・過去との対比で現代を読み解くことができる。 ・時代の変遷により変わるもの・変わらないものがあることを理解できる。 ・多様な価値観の存在や他者理解ができる。 		
授業の概要	<p>この各論では「まちあるき」を通して、都市という現象と社会との関係を体感し、常に変化し続ける現代社会について自ら考えることのできる教養を得ることを目的とします。授業は、建築・都市デザイン史やサウンドスケープ(音の風景)など、都市を観察するための教養を得るフェーズ、全身感覚で、都市環境を社会の価値観の表現として観察するフェーズ、対話を通じて気づきの共有と考察を行うフェーズの3つのセクションからなります。</p>		
授業計画	<p>第01回 オリエン:学園周辺のまちあるきで講座の概要を把握する 第02回 まちを観察するための基礎知識～建築史・都市史を概観する 第03回 FW:国家の中枢を観察する(東京駅丸の内駅舎周辺) 第04回 国家中枢エリアについての対話と考察及び情報整理技術「KJ法」の紹介 第05回 FW:国家の中枢を観察する(旧江戸城から現在の官庁街霞ヶ関) 第06回 気づきの共有に基づく対話と考察及び情報の整理技術「認知地図の」紹介 第07回 FW:旧帝国議会議事堂貴族院と参議院議員会館 第08回 議事堂建築についての対話と考察(帝国と現代の価値観の大きな違い) 第09回 FW:バブル期の計画都市を観察する(幕張新都心) 第10回 バブル期についての対話と考察 第11回 前期の学修を通じたデザインと社会の関係についての対話 第12回 前期の振り返り:各自の学修の成果発表と対話 第13回 後期オリエン:前期の振り返りと後期の目論見づくり 第14回 FW:ニュータウンを観察する(おゆみ野ニュータウン)</p>		

	<p>第 15 回 ニュータウンについての対話と考察 第 16 回 FW: 多様な界隈を歩く(渋谷～代官山) 第 17 回 FW: お祭りを観察する(代官山「猿楽祭」) 第 18 回 界隈とお祭りについての対話と考察 第 19 回 FW: 上野寛永寺の時の鐘の可聴範囲を歩く(上野～お茶の水) 第 20 回 時代の変遷で変わったもの変わらないものについての対話 第 21 回 FW: 日本橋に架かる高架高速道路を考える(京橋～日本橋) 第 22 回 日本橋の高架高速道路についての対話と考察 第 23 回 学修の振り返り: デザインと社会の関係についての自由対話 第 24 回 学修の振り返り: 各自の学修の成果発表及び自由対話 注)FW: フィールドワーク</p>				
準備学習と必要時間	まちなあるき体験での気づきについて、次のワークショップで共有できる状態にしてくること。(必要時間: 60 分以上)				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・参加姿勢、発言内容 30% ・気づきの共有・議論・考察の内容 40% ・学修の成果発表の内容及びレポート提出 30% 				
参考文献	授業中に適宜示します。 鳥越けい子・鷺野宏・星憲一郎『触発するサウンドスケープ』 岩波書店 2024 東京建築探偵団『建築探偵術入門』 文春文庫 2014 赤瀬川原平ほか「路上観察学入門」 筑摩書房 1993				
特記事項	(1)学外学習費用概算: 交通費等 16,000 円程度(学園前駅から起算した場合) (2)フィールドワークは現地集合現地解散。 交通費に加えチケット代・喫茶代等がかかる場合あり。 まちなあるきの所要時間は1回 3～4 時間程度を想定。(上野の回は7時間程度) フィールドワークは休日に実施する場合あり。 座学・ワークショップは水曜日 3 限のみならず・4 限まで行う回あり。 授業計画は社会状況や天気により臨機応変するので連絡網を設ける。				
課題へのフィードバック方法	議論にはコメントし、発表には講評をおこないます。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業	必修	幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格		
教員の実務経験					

ナンバリング	A②09	科目名	キャリアデザインⅡ
担当形態	単独	担当教員	明石 現
ディプロマポリシーとの関連性	②, ③		
テキスト	資料を適宜配布します。		
開講時期	前期	単位数・ 授業形態	1 単位・講義
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会における保育者の役割や多様な働き方、労働における問題などについて理解し、自分の言葉で説明することができる。 ・自己理解と環境理解を深め、自身の就労イメージを明確にし、書き表すことができる。 ・就職活動に向け、園/施設見学や応募書類の準備の仕方など、就職活動の具体的な進め方について学び、実行することができる。 		
授業の概要	<p>本授業は、「働くこと」をより具体的に考え、就業のための知識を深めると同時に、自身の将来像を明確にしていくことを目的としています。そのために、これまでの実習や学校生活をふりかえり自身の価値観や特性を自覚的に捉えていったり、さまざまな労働問題をはじめとした知識も学んだりしながら、就業に向けた理解を深めていきます。</p> <p>また、就職活動の具体的な進め方や書類の作成方法等について学び、皆さん一人ひとりが主体的に就職活動を進めることを目指します。</p>		
授業計画	<p>第 1 回 オリエンテーション、前年度の就職状況について</p> <p>第 2 回 就業に向けて(1)履歴書の基本的な書き方・求職の流れ</p> <p>第 3 回 就業に向けて(2)自身の価値観・特性を知ろう</p> <p>第 4 回 働くための知識を学ぶ(1)さまざまな労働問題について学ぼう (ハラスメント等)</p> <p>第 5 回 働くための知識を学ぶ(2)労働条件・求人票の見方を学ぼう</p> <p>第 6 回 就業に向けて(3)先輩の話から学ぶ</p> <p>第 7 回 就業に向けて(4)園/施設見学リストを作ろう</p> <p>第 8 回 これからの就職活動の進め方</p>		
準備学習と必要時間	<ul style="list-style-type: none"> ・提示した課題に 60 分以上は取り組み、期限内に提出すること。 ・就職のイメージや人生のイメージを持つことができるよう、自主的に職業や現場、そこで働く人について調べたり考えたりし、ボランティアなどの体験をすること。 		

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・提示した課題の提出状況及び内容　－80% ・授業内での取り組み(グループワークでの姿勢や発言内容)　－20% 				
参考文献	川崎友嗣 他「大学生のためのキャリアデザイン 自分を知る・社会を知る・未来を考える」ミネルヴァ書房、2019 宗方比佐子他「大学生のための『キャリア開発の教科書』」ミネルヴァ書房、2022 安齋徹他「アニメ映画から学ぶ生き方のヒント:人生100年時代の女性のキャリア」、樹村房、2022				
特記事項	なし				
課題へのフィードバック方法	提出物には次回の授業の冒頭で教員がコメントします。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業	必修	幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格		
教員の実務経験					

ナンバリング	B①11	科目名	保育内容総論
担当形態	単独	担当教員	郷家 史芸
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	なし		
開講時期	前期	単位数・ 授業形態	1単位・演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生で学んだ保育内容5領域に加え、「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」「環境を通して行う保育」と実習での経験との関連性を理解し、説明できる。 ・保育の計画をたて、援助の見通しを持ち、説明できる。 ・保育を振り返る姿勢を持ち、自身の実践について説明できる。 		
授業の概要	<p>1年次の「保育内容」の授業では子どもの生活や遊びについて領域の視点からみることを行ってきましたが、「総論」では保育内容を領域の視点に加え、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、保育環境などの視点を踏まえながら総合的にとらえていきます。また、日本の保育の基本である「環境を通して行う教育(保育)」について具体的に再確認します。主な授業方法は学生の実習での事例をもとにグループディスカッションを中心に行います。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、保育内容について振り返る</p> <p>第2回 幼稚園教育の基本について</p> <p>第3回 環境を通した保育について</p> <p>第4回 養護と教育の一体性について</p> <p>第5回 育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について①</p> <p>第6回 育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について②</p> <p>第7回 子どもの育ちと保育内容について①</p> <p>第8回 子どもの育ちと保育内容について②</p> <p>第9回 保育内容と指導計画の作成・展開・評価①～理論～</p> <p>第10回 保育内容と指導計画の作成・展開・評価②～実践～</p> <p>第11回 家庭・地域・小学校との連携と保育内容</p> <p>第12回 特別な配慮を要する子どもの保育</p> <p>第13回 多文化共生の保育</p> <p>第14回 実習をそれぞれの観点から振り返る</p> <p>第15回 まとめ</p>		

準備学習と必要時間	事前学習として事例を提示しますので自分なりの考えをまとめてきてください。こちらは予習として60分以上行ってください。				
評価方法	授業での取り組み(グループディスカッションへの積極的な参加) —40% レポート課題 —60%				
参考文献	授業中に適宜示します。				
特記事項	パソコンと幼稚園教育要領解説を持参してください。				
課題へのフィードバック方法	感想について、次の授業のテーマのきっかけとなるようなものは全体で共有できるよう授業のはじめに紹介します。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状	必修	領域及び保育内容の指導法に関する科目・健康
	その他		保育士資格	必修	保育の内容・方法に関する科目
教員の実務経験	(郷家)認定こども園での勤務経験を活かし、子どもの遊びに関して深く考察し、実践的に授業を行います。				

ナンバリング	B①12	科目名	こどもの健康と安全
担当形態	単独	担当教員	有馬 祐子
ディプロマポリシーとの関連性	②, ③		
テキスト	「子どもの保健と安全」教育情報出版 「保育手帖」親業訓練協会刊		
開講時期	前期	単位数・ 授業形態	1単位・演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育における保健的な観点をふまえた保育環境や援助について説明できる。 ・保育における衛生管理・事故防止・安全対策・危機管理・災害対策・感染症対策等について関連するガイドラインや近年のデータをふまえ説明できる。 ・こどもの体調不良に対する適切な対応について具体的に理解し、活用できる。 ・こどもの健康・安全の管理に関わる組織的取組や保健活動の計画・評価について、具体的に理解し、説明できる。 		
授業の概要	保育施設でこどもが健康で安全に生活するために必要なことについて確認をして、事例を通して具体的に学ぶ。また、保育者の健康を大切に考えることについても学習する。		
授業計画	第1回 こどもの健康と保育の環境と援助 第2回 感染症対策(1)ガイドラインに基づく感染症の予防 第3回 感染症対策(2)ガイドラインに基づく感染症の対処 第4回 保育における保健的な対応(1)基本的な考え方・乳児への対応 第5回 保育における保健的な対応(2)個別配慮の必要なこどもへの対応 第6回 こどもの体調不良に対する適切な対応(1)救急処置・救急蘇生法① 第7回 こどもの体調不良に対する適切な対応(2)救急処置・救急蘇生法② 第8回 こどもの体調不良に対する適切な対応(3)救急蘇生法③ 第9回 こどもの体調不良に対する適切な対応(4)体調不良・傷害 第10回 健康・安全管理の実施体制(1)職員の連携・協働、組織的取り組み 第11回 健康・安全管理の実施体制(2)保育における保健活動の計画・評価 第12回 保育における健康及び安全の管理(1)衛生管理・事故防止・安全対策 第13回 保育における健康及び安全の管理(2)危機管理・災害対策 第14回 健康・安全管理の実施体制(3)施設外との連携 第15回 試験・保育における保健的な対応(3)障がいのあるこどもへの対応		

準備学習と必要時間	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時に与えられた事前課題は、次回授業時までには必ず内容を把握し、出席時に提出すること。(30分) ・授業の記録は、時々点検する予定なので、提出できるノートを用意し、記録の整理をしておくこと。(10分) ・授業時に取り組んだワークシートは、返却されたら復習できるように整理し、目を通すこと。(30分) 				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時配付する課題(事前) — 22% ・授業中配付するワークシート — 28% ・期末試験 — 50% 				
参考文献	授業時に適宜示す。				
特記事項	配布資料を整理するファイルの準備をお願いします。				
課題へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時には必要ないものを整頓し、片付けるべき道具はしまうこと。 ・課題の提出においては、書式、提出期日を守ること。 ・試験後は、解答を提示します。オンラインで講評します。 				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格	必修	保育の内容・方法に関する科目
教員の実務経験					

ナンバリング	B①13	科目名	特別支援保育Ⅱ
担当形態	単独	担当教員	藤澤 翠美花
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	太田俊己 編著 青鞥社 2021年 「子どもと社会の未来を拓く障害児保育—インクルーシブな保育に向けて」		
開講時期	前期	単位数・ 授業形態	1単位・演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な子どもが共に過ごすことの意味を、子ども同士の育ちあいの視点から説明できる。 ・どの子どもも参加でき、過ごしやすい保育について自分なりに考察できる。 ・特別な支援が必要な子どものいる家族の心理を知り、様々な関係機関との連携・協働の重要性を理解し、説明できる。 ・障害児もひとりの「こども」であり、特別支援保育は「保育の原点」であるという 特別支援保育の本質を理解し、説明できる。 		
授業の概要	1年次の保育実習を踏まえて、改めて障害とは何かを概念・歴史的に整理すると同時に、特別支援保育にかかわる現状と課題を理解します。また、特別な支援が必要な子どもとの関わりについての具体的な保育の事例を扱いながら、子ども同士の育ちあいや、「どの子どもも参加できる」保育のあり方について考えるワークを重ねます。更に、障害児の親・きょうだいなど家族の心理を理解し、保育者という立場で自分に何ができるのか、考える態度を育みます。		
授業計画	第1回 オリエンテーション：保育実習をふりかえる 第2回 「障害」の概念と障害児保育の歴史的変遷 第3回 特別支援保育にかかわる現状と課題 第4回 多様な子どもが共に過ごす意味とは(子ども同士の育ちあい) 第5回 多様な子どもが共に過ごす意味を「事例」から考える① 第6回 多様な子どもが共に過ごす意味を「事例」から考える② 第7回 多様な子どもを包み込む保育とは(個の視点と集団の視点) 第8回 多様な子どもを包み込む保育のあり方を「事例」から考える① 第9回 多様な子どもを包み込む保育のあり方を「事例」から考える② 第10回 個別の指導計画の作成 第11回 障害のある子の家族(親・きょうだい)の心理と支援① 第12回 障害のある子の家族(親・きょうだい)の心理と支援②		

	第 13 回 関係機関との連携と保育者の役割① 第 14 回 関係機関との連携と保育者の役割② 第 15 回 総まとめ:特別支援保育において大切なこと(グループワーク)				
準備学習と必要時間	・事前に授業で指定された課題には必ず取り組み、予習をしておくこと。 (必要時間:30分)。 ・毎週30分以上は、授業に関連する事例を調べたり、テレビや雑誌を読んだりする習慣を身に付けること。				
評価方法	・授業時間内の取り組み(参加状況・授業内ワークを含む) — 40% ・レポート — 60%				
参考文献	鯨岡峻編「最新保育講座 障害児保育」(第2版)ミネルヴァ書房 2013年				
特記事項	「特別支援保育Ⅰ」の単位を修得していない学生は、履修できません。				
課題へのフィードバック方法	レポートには、必要に応じてコメントを記入し、返却します。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格	必修	保育の内容・方法に関する科目
教員の実務経験					

ナンバリング	B①14	科目名	こどもの食と栄養 I
担当形態	単独	担当教員	並河 香代子
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	「保育の現場で役立つ子どもの食と栄養」 アイ・ケイコーポレーション		
開講時期	前期	単位数・ 授業形態	1単位・演習
到達目標	<p>1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得し、活用できる。</p> <p>2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解し、説明できる。</p> <p>3. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解し、説明できる。</p>		
授業の概要	<p>子どもの栄養と食生活は、単に栄養素を摂取するだけでなく、心身の順調な発育・発達を促し、健康な生活を営むための基礎となる。本授業では、養護及び教育が一体となった保育における生活の基本でもある食生活の現状と意義、栄養に関する基礎的な知識を修得する。また、子どもの発達段階における栄養や食生活の特性・重要性を認識し、調乳や保育者として知っておくべき調理の基本について具体的に学ぶ。特に調理実習は、衛生管理の基礎を踏まえて行う。</p>		
授業計画	<p>第1回 子どもにとっての栄養とは～子どもの心身の健康と食生活～</p> <p>第2回 子どもの食生活の現状と課題</p> <p>第3回 栄養の基本的概念</p> <p>第4回 栄養の種類と機能</p> <p>第5回 日本人の食事摂取基準</p> <p>第6回 家庭や児童福祉施設における食事・栄養</p> <p>第7回 食事バランスガイド</p> <p>第8回 食事バランスガイドと献立作成・調理の基本</p> <p>第9回 実習① 調理の基礎</p> <p>第10回 保育現場における防災と備蓄品</p> <p>第11回 妊娠期の栄養</p> <p>第12回 日本の伝統的な食文化、外国の食文化</p> <p>第13回 乳汁栄養</p> <p>第14回 実習② 調乳</p> <p>第15回 まとめ～課題レポートの確認を通して～</p>		

準備学習と必要時間	<p>授業で指定された課題について、以下のことを踏まえて、授業に出席すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回授業で取り扱う指定課題について、熟読し理解を深めておく(60分)。 ・実習を通じて理解を深めた内容については、理論的に考察を行うこと(60分)。 <p>その他、必要に応じて課題等を提示するので、指示に従ってレポート等を作成すること。</p>				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内のワークシート等課題 — 20% ・レポート — 40% ・小テスト — 40% 				
参考文献	授業中に適宜示す。				
特記事項	・調理実習参加時はネイルアート禁止、守れない場合は欠席扱いとする。				
課題へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習後レポート提出は必須。 ・レポートには、適宜コメント等をつけて返却する。 				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格	必修	保育の対象の理解に関する科目
教員の実務経験	教員の実務経験				

ナンバリング	B①15	科目名	こどもの食と栄養Ⅱ
担当形態	単独	担当教員	並河 香代子
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	「保育の現場で役立つ子どもの食と栄養」 アイ・ケイコーポレーション		
開講時期	後期	単位数・ 授業形態	1単位・演習
到達目標	<p>1. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。</p> <p>2. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。</p> <p>※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、 「保育所における食事の提供ガイドライン」(平成24年3月、厚生労働省)等</p>		
授業の概要	<p>幼児期以降の子どもの発育・発達と食生活について理解を深める。子どもの発育・発達と食生活について理解を深めると共に、食育の基本とその内容を知り、地域・文化や現代社会との関連という視点から保育における食育の意義と目的を考える。また、家庭や保育現場における食生活の実態、疾病やアレルギーなどのガイドラインを踏まえ、特別な配慮を要する子どもへの対応を学ぶ。保育との関連の中で保育者として対応できる知識と技術を身に付けることを目標とする。特に調理実習は、衛生管理の基礎を踏まえて行う。</p>		
授業計画	<p>第1回 離乳の意義と必要性</p> <p>第2回 離乳食の進め方・与え方</p> <p>第3回 離乳食に適した食品と調理</p> <p>第4回 実習① 離乳食実習</p> <p>第5回 幼児期の心身の発達と食生活</p> <p>第6回 実習② 幼児の食事</p> <p>第7回 幼児期の栄養上の問題と、食生活指導・保護者支援</p> <p>第8回 実習③ 幼児のおやつ</p> <p>第9回 学童期・思春期の心身の発達と食生活</p> <p>第10回 保育における食育の意義・目的と基本的考え方</p> <p>第11回 食育の内容と環境作り、計画及び評価</p> <p>第12回 食品による窒息、誤嚥</p> <p>第13回 実習④ 食育を踏まえた実習</p>		

	第 14 回 特別な配慮が必要な子どもへの対応 第 15 回 まとめ～課題レポートの確認を通して～				
準備学習と必要時間	授業で指定された課題について、以下のことを踏まえて、授業に出席すること。 ・次回授業で取り扱う指定課題について、熟読し理解を深めておく。(60分) ・実習を通じて理解を深めた内容については、理論的に考察を行うこと。(60分) その他、必要に応じて課題等を提示するので、指示に従ってレポート等を作成すること。				
評価方法	・授業時間内のワークシート等課題 — 20% ・レポート — 40% ・小テスト — 40%				
参考文献	授業中に適宜示す。				
特記事項	・調理実習参加時はネイルアート禁止、守れない場合は欠席扱いとする。				
課題へのフィードバック方法	調理実習後のレポート提出は必須。 レポートには、適宜コメントをつけて返却する。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格	必修	保育の対象の理解に関する科目
教員の実務経験					

ナンバリング	B①16	科目名	子育て支援
担当形態	単独	担当教員	高橋 あい
ディプロマポリシーとの関連性	①, ③		
テキスト			
開講時期	後期	単位数・授業形態	1単位・演習
到達目標	<p>・保育の専門性に基づいた保護者に対する支援について、その特性と展開を理解し、具体的に説明できる。</p> <p>・実践事例等を通して、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を学び、活用できる。</p>		
授業の概要	<p>現代の子育て家庭を取り巻く状況について知り、保育の専門性を背景とした子育て支援について、その特性と展開を理解する。事例を通して、保護者の心情やニーズについて考え、具体的な支援方法についてディスカッションすることで学びを深める。また、グループに分かれて保護者対応についてロールプレイ形式で発表をすることにより、実践的な技術を身につけることを目指す。</p>		
授業計画	<p>第1回 保育士の行う子育て支援の特性</p> <p>第2回 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成</p> <p>第3回 保育所等における子育て支援とその実際</p> <p>第4回 保護者やその家庭への支援ニーズに対する気づきと多面的理解</p> <p>第5回 子ども及び保護者の状況・状態の把握</p> <p>第6回 子どもの保育とともにを行う保護者の支援</p> <p>第7回 障害のある子ども及びその家庭に対する支援</p> <p>第8回 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援</p> <p>第9回 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解</p> <p>第10回 子ども虐待の予防と対応①</p> <p>第11回 子ども虐待の予防と対応②</p> <p>第12回 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働</p> <p>第13回 要保護児童等の家庭に対する支援</p> <p>第14回 まとめ・期末試験</p> <p>第15回 試験の解説・全体の振り返り</p>		

準備学習と必要時間	授業に関連する事例やニュースに興味を持ち、毎週 60 分以上は、関連する書籍を読んだり、調べたりする習慣を身に付けてください。				
評価方法	授業での取り組み(討議への積極的な取り組み、コメントペーパー) - 35% 課題 - 15% 期末試験 - 50%				
参考文献	太田光洋 編著 「保育・教育相談支援 一子育ち、子育てを支える」 建帛社				
特記事項	なし				
課題へのフィードバック方法	課題提出や試験の後は、模範解答を提示して解説を行います。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格	必修	保育の内容・方法に関する科目
教員の実務経験					

ナンバリング	B②09	科目名	こどもと健康
担当形態	単独	担当教員	松原 敬子
ディプロマポリシーとの関連性	①, ③		
テキスト	「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館 「保育所保育指針」 フレーベル館		
開講時期	後期	単位数・授業形態	1単位・演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の定義と乳幼児期の健康の意義について説明できる。 ・乳幼児期を通じた身体と運動の発達を説明できる。 ・乳幼児期の基本的な生活習慣の形成とその意義を説明できる。 ・安全教育に関する基本的な考え方を理解している。 		
授業の概要	<p>今日の子どもを取り巻く環境を踏まえ、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基礎となる知識や技能を身につけることを目的とします。</p> <p>乳幼児期の子どもの身体と運動の発達、生活習慣、安全教育について、これまでの実習での事例を互いに共有したり、グループでのディスカッションをしたりしながら、実態に伴った理解を深めていきます。その上で、子どもの健康を支える保育者の役割について考察します。</p>		
授業計画	<p>第1回 健康の定義、昨今の子どもを取り巻く環境と健康</p> <p>第2回 乳幼児期の身体の発達</p> <p>第3回 乳幼児期の運動発達の特徴</p> <p>第4回 遊びと生活の中での子どもの身体活動</p> <p>第5回 子どもと健康と安全教育、遊びの中で育む安全意識</p> <p>第6回 乳幼児期の生活習慣、園生活の中で育む生活習慣</p> <p>第7回 生活習慣を育む保育者の役割と家庭との連携</p> <p>第8回 子どもと健康における今日的課題と保育者の役割、まとめ</p>		
準備学習と必要時間	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習として指定された資料を読んだり、授業に関する事例を調べたりすること。 <p>(必要時間:60分)</p>		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業毎の小レポート:35% ・授業内での取り組み (グループ活動やディスカッションでの積極的な取り組みや発言内容):35% ・まとめのレポート:30% 		

参考文献	無藤隆 他(2018)「事例で学ぶ保育内容<領域>健康」萌文書林 他、随時授業内で紹介します。				
特記事項	なし				
課題へのフィードバック方法	授業最後に書く小レポートは、次の授業のはじめに紹介し全体で共有する。 その他、授業内での発表には随時口頭でコメントをする。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状	必修	領域及び保育内容の指導法に関する科目・健康
	その他		保育士資格	必修	
教員の実務経験					

ナンバリング	B②08	科目名	保育方法論 I
担当形態	単独	担当教員	小木曾 友則
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	「幼稚園教育要領解説」フレーベル館. 「保育所保育指針解説」フレーベル館. 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館. その他適宜資料を配布する。		
開講時期	前期	単位数・ 授業形態	1 単位・講義
到達目標	1. 保育方法の基礎理論と実践について説明することができる。 2. 育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を説明することができる。		
授業の概要	本講義は、これからの社会を担う子ども達に求められる資質・能力を育成するために必要な、保育の方法, 保育の技術, 情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技術を身につける。 講義は担当教員が保育士・幼稚園教諭として勤務した経験を踏まえ、具体的な事例を基に「環境を通して行う教育」「幼児期にふさわしい生活」「遊びを通しての総合的指導」「一人一人の発達の特性に応じた指導」の基礎的な枠組みを理解する。 保育には多様な見方があることを理解するために、アクティブラーニングを取り入れ発言の場や対話の時間を設定する。		
授業計画	第 1 回 教育方法の基礎理論 「教育方法とは何か説明できる」 第 2 回 幼児教育方法の歴史 「幼児教育の歴史を踏まえ子ども理解とは何か説明できる」 第 3 回 環境を通して行う保育 「環境を通して行う保育について説明することができる」 第 4 回 幼児期にふさわしい生活 「幼児期にふさわしい生活と保育形態について説明することができる」 第 5 回 遊びを通しての総合的指導 「幼児期の遊びの意義を示した上で、保育者の援助の留意点を説明することができる」		

	<p>第 6 回 一人一人の発達の特性に応じた指導 「個と集団の育ちを踏まえ、保育者の役割を説明することができる」</p> <p>第 7 回 幼児理解に基づいた評価 「保育における評価とは何か説明することができる」</p> <p>第 8 回 育みたい資質・能力と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 「教育課程と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の関連を説明することができる」</p>
準備学習と必要時間	<p>予習として、毎回授業計画に示された「 」のテーマに関して、テキストで確認を行う。(60 分) 復習として、毎回講義のテーマに関して講義資料をもとに振り返る。(30 分)</p>
評価方法	<p>受講態度(20%) 授業課題(30%) 期末レポート(50%)</p> <p>受講態度は、授業中に提示した課題に責任を持って取り組む、質問に対する応答やグループ討議での積極性、発表時のまとめ方等から「関心・意欲・態度」及び「技能・表現」の到達度を見る。</p> <p>授業課題は、毎授業時間終了時に講義のゴールについて記述する振り返りシートから授業内容に関する「知識・理解」及び「思考・判断」から到達度を見る。</p> <p>期末レポートは、各授業に設定されたゴールから出題し、「知識・理解」及び「思考・判断」の観点から到達度を見る。</p>
参考文献	<p>マンガと事例でポイントをつかむ 幼児教育・保育方法論 教育情報出版</p> <p>幼児理解と評価 文部科学省</p> <p>指導計画の作成と保育の展開 文部科学省</p> <p>その他授業中に適宜示す。</p>
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンまたはタブレットを毎回持参すること。 ・Google Classroom から講義資料の配信、授業課題の提示を行う。 ・配信されたレジュメの PDF データにメモするか、あらかじめ自身で印刷するなどして受講することをすすめる。 ・授業計画に示した「 」は各回の講義のゴールである。授業中はゴールを念頭に受講し、授業後の振り返りシートで理解した内容をまとめて教員に提出する。 ・期末レポートは、各講義のゴールから出題される。毎回の講義を重んじた授業設計であることを踏まえて受講してほしい。 ・他の受講者に対する迷惑行為(私語、飲食、講義と無関係なスマートフォンの使用、複数回に渡る退室や明確に受講意思のない居眠りなど)と判断される行為はその回の受講態度の減点となる。講義の進行を妨げる場合は受講態度を大きく減点する。 ・本講義では、生成 AI の利用については「使用可能範囲」と「使用禁止範囲」を設けている。これは遵守してほしい。

課題へのフィードバック方法	毎回の講義で提出する振り返りシートには教員がコメントを行い、次回の授業冒頭で他の学生のコメントを紹介する。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状	必修	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
	その他		保育士資格	必修	保育の本質・目的に関する科目
教員の実務経験	(小木曾)保育所及び幼保連携認定こども園で勤務した経験を踏まえ、具体的な事例を利用しながら実践的な講義を展開する。				

ナンバリング	B②11	科目名	保育方法論Ⅱ
担当形態	単独	担当教員	小木曾 友則
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館 「保育所保育指針解説」 フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 フレーベル館 その他資料を適宜配布する。		
開講時期	後期	単位数・ 授業形態	1単位・講義
到達目標	1. 保育の目的に適した指導技術を理解し、適用することができる。 2. 子ども達の興味・関心を高めたり、活動を振り返ったりするために、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。		
授業の概要	本講義は、これからの社会を担う子ども達に求められる資質・能力を育成するために必要な、保育の方法、保育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技術を身につける。 講義は担当教員が保育士・幼稚園教諭として勤務した経験を踏まえ、具体的な事例を基に「保育の目的に応じた指導技術」「情報機器 (ICT) を活用した教材作成・提示の技術」を学ぶ。 保育には多様な見方があることを理解するために、アクティブラーニングを取り入れ発言の場や対話の時間を設定する。		
授業計画	第1回 発達のとりに応じた教育方法と指導計画作成の実践① 「子どもの実態に応じたねらいを設定することができる」 第2回 発達のとりに応じた教育方法と指導計画作成の実践② 「ねらい及び内容に基づいた環境構成を設定することができる」 第3回 発達のとりに応じた教育方法と指導計画作成の実践③ 「実践後の省察の意義を説明することができる」 第4回 幼児教育における情報機器 (ICT) の活用① 「情報機器を活用した保育実践における留意点を説明することができる」 第5回 幼児教育における情報機器 (ICT) の活用② 「子どもの情報活用能力を育むために必要な保育者の知識及び技術とは何か説明することができる」		

	<p>第 6 回 幼児教育と小学校教育の円滑な接続 「幼小接続期における保育者の留意点について説明することができる」</p> <p>第 7 回 これからの幼児教育と教育方法 「教育方法を支える保育者の在り方について、自身の考え方を説明することができる」</p> <p>第 8 回 指導技術を支える保育者の専門性 「保育の目的に応じた指導技術を選択・判断するための視点を説明することができる」</p>
準備学習と必要時間	<p>予習として、毎回授業計画に示された「 」のテーマに関して、テキストで確認を行う。(60 分) 復習として、毎回講義のテーマに関して講義資料をもとに振り返る。(30 分)</p>
評価方法	<p>受講態度(20%)授業課題(30%)期末レポート(50%)</p> <p>受講態度は、授業中に提示した課題に責任を持って取り組む、質問に対する応答やグループ討議での積極性、発表時のまとめ方等から「関心・意欲・態度」及び「技能・表現」の到達度を見る。</p> <p>授業課題は、毎授業時間終了時に講義のゴールについて記述する振り返りシートから授業内容に関する「知識・理解」及び「思考・判断」から到達度を見る。</p> <p>期末レポートは、各授業に設定されたゴールから出題し、「知識・理解」及び「思考・判断」の観点から到達度を見る。</p>
参考文献	<p>授業中に適宜示す。</p>
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンまたはタブレットを毎回持参すること。 ・Google Classroom から講義資料の配信、授業課題の提示を行う。 ・配信されたレジュメの PDF データにメモするか、あらかじめ自身で印刷するなどして受講することをすすめる。 ・授業計画に示した「 」は各回の講義のゴールである。授業中はゴールを念頭に受講し、授業後の振り返りシートで理解した内容をまとめて教員に提出する。 ・期末レポートは、各講義のゴールから出題される。毎回の講義を重んじた授業設計であることを踏まえて受講してほしい。 ・他の受講者に対する迷惑行為(私語、飲食、講義と無関係なスマートフォンの使用、複数回に渡る退室や明確に受講意思のない居眠りなど)と判断される行為はその回の受講態度の減点となる。講義の進行を妨げる場合は受講態度を大きく減点する。 ・本講義では、生成 AI の利用については「使用可能範囲」と「使用禁止範囲」を設けている。これは遵守してほしい。

課題へのフィードバック方法	毎回の講義で提出する振り返りシートには教員がコメントを行い、次回の授業冒頭で他の学生のコメントを紹介する。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状	必修	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
	その他		保育士資格	必修	保育の内容・方法に関する科目
教員の実務経験					

ナンバリング	B②12	科目名	保育者論Ⅱ
担当形態	単独	担当教員	小木曾 友則
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	「幼稚園教育要領解説」フレーベル館. 「保育所保育指針解説」フレーベル館. 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館. その他適宜資料を配布する。		
開講時期	後期	単位数・ 授業形態	1単位・講義
到達目標	1.保育者の専門性について考察し、理解したことを説明できる。 2.保育者の連携・協働について理解し、説明することができる。 3.保育者の資質向上とキャリア形成について理解し、説明することができる。		
授業の概要	本講義は、現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。 講義では、保育者論Ⅰで理解した内容を基盤にしながら、担当教員が保育士・幼稚園教諭として勤務した経験を踏まえ、具体的な事例を基に、「自己の保育者像の明確化」、「チーム保育」、「学び続ける保育者の在り方」について学ぶ。		
授業計画	第1回 保育者の専門性① 「計画に基づく保育の実践と省察・評価」 第2回 保育者の専門性② 「保育の質の向上」 第3回 保育者の連携・協働① 「保育における職員間の連携・協働」 第4回 保育者の連携・協働② 「専門職間及び専門機関との連携・協働」 第5回 保育者の連携・協働③ 「地域における自治体や関係機関等との連携・協働」 第6回 保育者の資質向上とキャリア形成① 「資質向上に関する組織的取組」 第7回 保育者の資質向上とキャリア形成② 「保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義」		

	第 8 回 保育者の資質向上とキャリア形成③ 「組織とリーダーシップ」				
準備学習	予習として、毎回授業計画に示された「 」のテーマに関して、テキストで確認を行う。 (60 分) 復習として、毎回講義のテーマに関して講義資料をもとに振り返る。(30 分)				
評価方法	<p>受講態度(20%)授業課題(30%)期末レポート(50%)</p> <p>受講態度は、授業中に提示した課題に責任を持って取り組む、質問に対する応答やグループ討議での積極性、発表時のまとめ方等から「関心・意欲・態度」及び「技能・表現」の到達度を見る。</p> <p>授業課題は、毎授業時間終了時に講義のゴールについて記述する振り返りシートから授業内容に関する「知識・理解」及び「思考・判断」から到達度を見る。</p> <p>期末レポートは、各授業に設定されたゴールから出題し、「知識・理解」及び「思考・判断」の観点から到達度を見る。</p>				
参考文献	授業中に適宜示す。				
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義は、保育者論 I の単位が修得できていない場合、受講することができない。 ・パソコンまたはタブレットを毎回持参すること。 ・Google Classroom から講義資料の配信、授業課題の提示を行う。 ・配信されたレジュメの PDF データにメモするか、あらかじめ自身で印刷するなどして受講することをすすめる。 ・授業計画に示した「 」は各回の講義のゴールである。授業中はゴールを念頭に受講し、授業後の振り返りシートで理解した内容をまとめて教員に提出する。 ・期末レポートは、各講義のゴールから出題される。毎回の講義を重んじた授業設計であることを踏まえて受講してほしい。 ・他の受講者に対する迷惑行為(私語、飲食、講義と無関係なスマートフォンの使用、複数回に渡る退室や明確に受講意思のない居眠りなど)と判断される行為はその回の受講態度の減点となる。講義の進行を妨げる場合は受講態度を大きく減点する。 ・本講義では、生成 AI の利用については「使用可能範囲」と「使用禁止範囲」を設けている。これは遵守してほしい。 				
課題へのフィードバック方法	毎回の講義で提出する振り返りシートには教員がコメントを行い、次回の授業冒頭で他の学生のコメントを紹介する。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状	必修	教育の基礎的理解に関する科目
	その他		保育士資格	必修	保育の本質・目的に関する科目

教員の実務経験	(小木曾)保育所及び幼保連携認定こども園で勤務した経験を踏まえ、具体的な事例を利用しながら実践的な講義を展開する。
---------	---

ナンバリング	B②13	科目名	こども臨床学
担当形態	単独	担当教員	伊藤 恵里子
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	コンパス子ども理解(建帛社) 2021年発行		
開講時期	後期	単位数・授業形態	2単位 講義
到達目標	<p>こどもを理解し、その理解に基づいてかかわり、実践をふりかえり、更にこども理解を新たにしていく、という保育の基本を改めて確認します。その上で、自分のこどもへの理解と関わりが、こどもにとってどのような意味を持つのかを考え、多様な視点で検討する姿勢をもつことを目指します。次の3点を目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のこども理解やこどもへの関わりについて、その根拠を交えて説明できる。 ・他者の多様な意見を聞いて、自分のこども理解や考えを捉え直し、様々な援助の可能性を検討できる。 ・保育・教育の現場における相談の基礎知識を習得し、説明できる。 		
授業の概要	<p>こども理解や援助そのものに答えはなく、その場、その時によって、適切な判断には様々な可能性があります。そこで、自分のこども理解やその根拠について知り、そこに他者との話し合いやワークを通して自分以外の多様な意見や見方に耳を傾け、自分の考えの枠組みやこども観、保育観を検討し続ける姿勢を身につけていきます。また、こどもの育ちの中でのつまずきに気づき、支援につなげる理解についても学びます。</p> <p>さらに、保育・教育の現場における保護者からの相談の具体例や、いわゆる教育相談の基本的な考え方、それを裏打ちする心理的枠組み・技法についての基礎知識について学びます。</p>		
授業計画	<p>第1回 こども理解の意義・こども理解と関わりとの関係</p> <p>第2回 発達からの理解・表現としての理解</p> <p>第3回 こどもを理解し、かかわる基本姿勢としてのカウンセリング・マインド</p> <p>第4回 こども理解の様々な手がかり・方法について考える</p> <p>第5回 こども理解とかかわりをふりかえるための記録</p> <p>第6回 記録からこども理解とかかわりをふりかえる</p> <p>第7回 「つまずき」を捉える視点:サインへの気付き</p> <p>第8回 「つまずき」を捉える視点:個と集団の関係からみるこども理解</p> <p>第9回 保育・教育の現場における「教育相談」の意義</p>		

	第 10 回 保護者からの相談内容の具体例と、教育相談の基本的な進め方 第 11 回 こども・保護者の心理的特性や教育上の課題を捉える為の枠組み 第 12 回 相談活動を支えるカウンセリング技法 第 13 回 園全体で検討していく体制作り～教育相談の計画・共有～ 第 14 回 保育者同士の支え合い、他機関・地域に開かれた体制作り 第 15 回 保育における「臨床」とは / 期末レポート作成				
準備学習と必要時間	・実習等の記録を見返し、話して伝えられるようにしておくこと。 ・授業で示された自己学習を行うこと（合わせて 60 分）				
評価方法	・話し合いやワークへの取り組みの積極性 — 20% ・授業内レポート — 30% ・期末レポート — 50%				
参考文献	津守真「子どもの世界をどう見るか 行為とその意味」NHKブックス 大場幸夫「こどもの傍らに在ることの意味－保育臨床論考」萌文書林				
特記事項	なし				
課題へのフィードバック方法	授業内レポートに対しては、次回以降の授業でコメントをする。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状	必修	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
	その他		保育士資格	必修	保育の対象の理解に関する科目
教員の実務経験					

ナンバリング	B②10	科目名	保育・教職実践演習(幼稚園)
担当形態	複数	担当教員	小木曾 友則・由田 新
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	「幼稚園教育要領解説」フレーベル館. 「保育所保育指針解説」フレーベル館. 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館. その他適宜資料を配布する。		
開講時期	後期	単位数・ 授業形態	2単位・演習
到達目標	1. 保育に対する使命感や情熱を持ち、常に子どもから学び、共に成長しようとする姿勢を理解し、説明することができる。 2. 保育者としての職責や義務を自覚し、目的や状況に応じた適切な言動をとるとともに、他の保育者と協働する力を説明することができる。 3. 子どもの発達や心身の状況を踏まえて幼児理解を深め、信頼関係の構築や集団づくりに必要な学級経営の在り方について説明することができる。 4. 保育内容に関する基本的な知識や技能を理解し、子どもの反応や育ちの状況に応じて指導内容や保育形態を提示できる。		
授業の概要	本講義は、本学の学びの軌跡の集大成として位置付けられる。自己の課題を自覚し、必要な知識や技能等を補い、主に保育・福祉など人と関わる専門職として円滑なスタートがきれるようにする。 本講義では、対話やグループワークを中心に以下の内容を学ぶ。 実習等の体験と結びつけながら「①保育者の意義や役割、職務内容、子どもに対する責任、倫理」「②社会性、対人関係能力」「③子どもやその家庭の理解、職員間の連携、関係機関との連携」「④保育や子育て家庭に対する支援の展開」を振り返る。 保育に関わる今日の社会的状況等の課題について自ら問いを立て、その要因や背景、課題解決の方向性及びその具体的内容や方法等について検討する。		
授業計画	第1回 オリエンテーション これまでの実習と学内の学びを振り返って(教職カルテについて) 第2回 保育者の意義・役割・責任 第3回 教育的愛情と子ども理解 第4回 社会性・対人関係能力の基礎		

	<p>第 5 回 協働する保育者</p> <p>第 6 回 保護者・地域との連携</p> <p>第 7 回 幼児理解の深化</p> <p>第 8 回 個別のニーズへの対応</p> <p>第 9 回 集団づくりと学級経営</p> <p>第 10 回 学級経営案の作成</p> <p>第 11 回 保育内容の理解</p> <p>第 12 回 指導内容・保育形態の工夫</p> <p>第 13 回 教材研究と工夫</p> <p>第 14 回 現代的課題の理解</p> <p>第 15 回 自己課題の明確化とまとめ</p>
準備学習と必要時間	<p>予習として、毎回授業計画に示された内容に関して、資料を検索し確認を行う。(60分) 復習として、毎回講義のテーマに関して講義資料をもとに振り返る。(30分)</p>
評価方法	<p>受講態度(20%) 授業課題(60%) 期末レポート(20%)</p> <p>受講態度は、授業中に提示した課題に責任を持って取り組む、質問に対する応答やグループ討議での積極性、発表時のまとめ方等から「関心・意欲・態度」及び「技能・表現」の到達度を見る。</p> <p>授業課題は、授業終了時の振り返りシート、提出課題から授業内容に関する「知識・理解」及び「思考・判断」の到達度を見る。</p> <p>期末レポートは、自己の課題を踏まえ今後の取り組むべきことを問い「知識・理解」及び「思考・判断」の観点から到達度を見る。</p>
参考文献	<p>授業中に適宜示す。</p>
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンまたはタブレットを毎回持参すること。 ・Google Classroom から講義資料の配信、授業課題の提示を行う。 ・他の受講者に対する迷惑行為(私語、飲食、講義と無関係なスマートフォンの使用複数回に渡る退室や明確に受講意思のない居眠りなど)と判断される行為はその回の受講態度の減点となる。講義の進行を妨げる場合は受講態度を大きく減点する。 ・本講義では、生成 AI の利用については「使用可能範囲」と「使用禁止範囲」を設けている。これは遵守してほしい。
課題へのフィードバック方法	<p>提出課題に対しては教員がコメントを行い、次回の授業冒頭で他の学生の取り組みを紹介する。</p>

卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状	必修	教育実践に関する科目
	その他		保育士資格	必修	総合演習
教員の実務経験	(小木曾) 保育所及び幼保連携認定こども園で勤務した経験を踏まえ、具体的な事例を利用しながら実践的な講義を展開する。				

ナンバリング	B③01	科目名	教育実習(実習指導)
担当形態	複数	担当教員	池谷 潤子・伊藤 恵里子・大澤 ちづる 小木曾 友則・由田 新
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	「教育課程・保育の計画と評価」 萌文書林 「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 フレーベル館 「保育用語辞典」 ミネルヴァ書房		
開講時期	前期	単位数・ 授業形態	1単位 演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園において、子どもとのかかわり、適切な援助を行うための準備をし、実習後に実習体験のまとめを行うことで、自身の体験を省察し反省的な実践を行う素地ができる。 ・保育の過程を理解し、計画の立案から実践、評価までを行う体験(部分実習・責任実習等)のための準備を整える。 ・15日間の実習で、背景を含めた子どもの理解やこれまでの実習から見えてきたテーマについて、実習から見えてきた自己の良さや課題について、深く掘り下げるための準備ができる。 		
授業の概要	<p><事前指導></p> <p>1年次の実習の成果等を基に、実習のテーマを設定します。そして、①目的・テーマにそった実習の実施、②部分・責任実習等、保育の過程の理解に向けた準備、③幼稚園教育要領の理解、④記録の作成(経過記録/エピソード記録)⑤実践から自身の価値観や良さと課題の傾向を観ていきます。</p> <p><事後指導></p> <p>実習後の振り返りは、実習の総括レポートを基に、実習の記録や体験を基に仲間同士で振り返り、自身が実習を通して何を見て何を感じ、目の前の子どもとどのように関わり、なぜそのように考えたかなど実習のまとめを行います。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 2年次の実習のねらいとすすめ方</p> <p>第2回 実習をするということ・大切にしていきたいこと</p> <p>第3回 これまでの実習を振り返りながらテーマを設定する</p> <p>第4回 幼稚園教育要領を実習に生かす</p> <p>第5回 園での子どもの生活・保育者の仕事をどう理解するのか</p>		

	第 6 回 部分・責任実習に向けて① 第 7 回 記録の書き方 第 8 回 事前訪問(1 日体験) 第 9 回 事前訪問の振り返りとまとめ 第 10 回 部分・責任実習に向けて② 第 11 回 教育実習において何をどう学ぶのか 第 12 回 事後指導① 第 13 回 事後指導② 第 14 回 事後指導③ 第 15 回 事後指導④				
準備学習	・実習での体験を実習記録としてまとめる(60 分以上)。 ・前回の実習記録を読み直し、次回の実習の目標を立てる(60 分以上)。				
評価方法	・実習記録及び指導案の課題 — 20% ・幼稚園教育要領の理解 — 20% ・実習の総括レポート — 40% ・実習成果の発表 — 20%				
参考文献	「幼稚園教育要領」 文部科学省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 内閣府				
特記事項	・全ての授業に出席することが求められます。 ・実習が不十分で単位が認定されない場合、実習指導も合わせて認定されません。				
課題へのフィードバック方法	課題やレポートは必要に応じてコメントを記入し返却します。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状	必修	教育実践に関する科目
	その他		保育士資格		
教員の実務経験	(池谷) 国外保育園での勤務経験を活かし、実際の課題はどんなものか、その解決への取り組み方法、また、その際の問題点などに触れ、より実践的な授業を行う。 (大澤) 国内外の幼稚園教諭経験があり、発達支援を目的とした音楽療法についても経験を有する				

ナンバリング	B③06	科目名	教育実習(幼稚園Ⅱ)
担当形態	複数	担当教員	池谷 潤子・伊藤 恵里子・大澤 ちづる 小木曾 友則・由田 新
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 フレーベル館		
開講時期	通年	単位数・ 授業形態	3単位 実習
到達目標	<p><子ども理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園において、子どもがどのように学び、生活をし、どう成長を遂げるのかなどその背景を含めて具体的に考察する。その理解にもとづき、幼児と適切に関わることができる。 <p><職務の理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者の援助と、その基となる保育観や意図を理解する。 <p><園の理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者とのかかわり、地域の幼児教育のセンターとしての使命など、様々な支援を理解する。 <p><保育の過程の理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の過程を理解し、保育の計画立案、実践、自己評価、改善を試行することができる。この過程を通し、保育に必要な基礎的技術や情報機器の活用を身につける。 <p><自己課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習を通して自己の良さや課題、価値観などに気づく。 		
授業の概要	<p>本実習は、幼稚園教諭免許状を取得するために必要な実習の1つであり、3週間という長期に亘って実施されます。実習としては続くステップとなります。子ども理解、職務理解に加え、保護者への支援についても学びます。各自の実習課題をきちんと意識して臨むことが必要となります。</p>		
授業計画			
準備学習と必要時間	教育実習(実習指導)の受講および実習園からの課題(必要時間 60分)。		

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・事前指導で立てた目標の達成状況、実習の取り組み状況 — 40% ・実習記録 — 30% ・実習園からの評価 — 30% <p>※単位認定の前提として、実習事前事後指導を学修している事が条件となる。</p>				
参考文献	<p>「幼稚園教育要領」 文部科学省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 内閣府</p>				
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・実習を規定時間行うことが必要となりますが、規定時間を満たしたとしても、実習の状況等により、単位の修得ができない場合があります。 ・教育実習(幼稚園Ⅰ)の単位を修得していない場合、履修出来ません。 				
課題へのフィードバック方法	実習記録は必要に応じてコメントを記入して返却します。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状	必修	教育実践に関する科目
	その他		保育士資格		
教員の実務経験	<p>(池谷) 国外保育園での勤務経験を活かし、実際の課題はどんなものか、その解決への取り組み方法、また、その際の問題点などに触れ、より実践的な授業を行う。</p> <p>(大澤) 国内外の幼稚園教諭経験があり、発達支援を目的とした音楽療法についても経験を有する</p> <p>(小木曾) 保育所及び幼保連携型認定こども園で保育士として実習生を受け入れた経験を踏まえ、具体的な事例を提示しながら事前指導で実習の意義及び実習内容と課題の明確化、実習の留意事項、記録の作成方法などの指導を行う。</p> <p>事後指導では、記録をもとに実習の総括を行う。</p>				

ナンバリング	B③07	科目名	保育実習指導Ⅱ
担当形態	複数	担当教員	小木曾 友則
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	「保育所保育指針解説」 フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 フレーベル館		
開講時期	前期	単位数・ 授業形態	1単位 演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習の意義と目的を理解し、総合的に保育を実践する。 ・実習や既習の教科目の内容との関連性を思考しながら、保育の実践に必要な力を習得する。 ・保育の観察、記録、自己評価等の検討に基づく保育における改善点について、具体的実践や事例を通して理解する。 ・保育所に従事する保育士の専門性について、具体的に理解し活用できる。 ・保育実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行うと共に、保育における課題や認識を明確化し可視化する。 		
授業の概要	<p><事前指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所における保育実習の意義と目的を理解し、保育所保育指針及び各教科との関連性を踏まえ、子ども一人一人に応じたかわりや必要となる保育技術等、実習に臨む観点を明確にしていきます。保育における計画と実践、記録と自己評価の方法を学び、実習後には、それらの実際と改善について学びます。 <p><事後指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習の総括を行い、保育士の専門性や職業への理解を深め、課題を明確にします。 		
授業計画	第1回 実習の目的・心構え／これまでの学びの確認 第2回 子どもの最善の利益を考慮した保育所保育と保育に関する制度の理解 第3回 保育所保育の内容と保護者支援 第4回 一人一人の子ども状況に応じた適切な援助と関わり 第5回 これまで得た保育の知識・技能・技術を活かした具体的な保育の実践 第6回 実習園の概要と地域の理解 第7回 保育の過程と計画 第8回 全体的な計画に基づく長期・短期の計画の理解と作成 第9回 保育の観察、記録に基づくより良い保育の展開		

	第 10 回 経過記録の理解と作成 第 11 回 エピソード記録の理解と作成 第 12 回 保育における自己評価に基づく保育の改善 第 13 回 保育所に従事する保育士の専門性と職業倫理に関する理解 第 14 回 事後指導における保育所実習の総括と自己評価 第 15 回 今後の自己課題の明確化と可視化				
準備学習と必要時間	・各自の準備課題の実施 ・これまでの実習記録の見直し、修正 ・低年齢児向けの指導計画の作成 (3 点必要時間 60 分以上)				
評価方法	・授業内課題 — 20% ・事後学習の際のふり返りのレポート — 40% ・実習記録・指導案の課題 — 40%				
参考文献	「保育所保育指針」 厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 内閣府				
特記事項	・実習準備のため授業の全てに出席することが求められます。 ・実習が不十分で単位が認定されない場合、実習指導も合わせて認定されません。 ・保育実習Ⅰの単位を修得していない場合、履修出来ません。				
課題へのフィードバック方法	課題やレポートは必要に応じてコメントを記入し返却します。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格	選択必修	保育実習
教員の実務経験	(小木曾) 保育所及び幼保連携型認定こども園で保育士として実習生を受け入れた経験を踏まえ、具体的な事例を提示しながら事前指導で実習の意義及び実習内容と課題の明確化、実習の留意事項、記録の作成方法などの指導を行う。 事後指導では、記録をもとに実習の総括を行う。				

ナンバリング	B③08	科目名	保育実習指導Ⅲ
担当形態	単独	担当教員	相磯 友子・中嶋 一郎
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	資料を適宜配布する。		
開講時期	前期	単位数・ 授業形態	1単位・演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習の意義と目的を理解し、総合的に保育を実践する。 ・実習や既習の教科目の内容との関連性を思考しながら、保育の実践に必要な力を習得する。 ・保育の観察、記録、自己評価等の検討に基づく保育における改善点について、具体的実践や事例を通して理解する。 ・施設に従事する保育士の専門性について、具体的に理解し活用できる。 ・保育実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行うと共に、保育における課題や認識を明確化し可視化する。 		
授業の概要	<p><事前指導></p> <p>本授業は、施設における保育実習の意義と目的を理解し、各教科との関連性を踏まえ、児童福祉施設等の実情の理解、利用者理解、必要な技能などの観点を明確化にするとともにあります。施設における支援計画と支援計画による実践、記録と自己評価の方法を学び、実習後には実習の反省と改善すべき事項について学びます。</p> <p><事後指導></p> <p>実習の総括を行い、保育士の専門性の理解を深め、今後、就職に際して学生自身の課題を具体化します。</p>		
授業計画	<p>第1回 実習の目的・心構え／これまでの学びの確認</p> <p>第2回 利用者にとっての最善の利益を考慮した施設での生活と関連諸制度の理解</p> <p>第3回 施設における生活の具体的内容と支援</p> <p>第4回 一人一人の利用者の状況に応じた適切な支援と関わり</p> <p>第5回 これまで得た知識・技能・技術を活かした具体的な支援の実践</p> <p>第6回 実習施設の概要と地域の理解</p> <p>第7回 保育の過程と計画</p> <p>第8回 全体計画に基づく具体的な支援計画の理解</p> <p>第9回 観察、記録に基づくより良い支援の展開</p> <p>第10回 経過記録の理解と作成</p>		

	第 11 回 エピソード記録の理解と作成 第 12 回 施設における支援の自己評価に基づく改善 第 13 回 施設に従事する保育士の専門性と職業倫理に関する理解 第 14 回 施設における保育実習の総括と自己評価 第 15 回 今後の自己課題の明確化と可視化				
準備学習と必要時間	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の理解、制度、障がいについての学習(60分以上) ・各自の準備課題の実施 ・これまでの実習記録の見直し、修正 				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内課題 — 20% ・事後学習の際のふり返りのレポート — 40% ・実習記録の課題 — 40% 				
参考文献	適宜紹介する。				
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・実習準備のため授業の全てに出席することが求められます。 ・実習が不十分で単位が認定されない場合、実習指導も合わせて認定されません。 ・保育実習Ⅰの単位を修得していない場合、履修出来ません。 				
課題へのフィードバック方法	課題にはコメントを記入し返却します。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格	選択必修	保育実習
教員の実務経験					

ナンバリング	B③09	科目名	保育実習Ⅱ
担当形態	複数	担当教員	小木曾 友則
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	「保育所保育指針解説」 フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 フレーベル館		
開講時期	集中	単位数・授業形態	2単位 実習
到達目標	<p><施設の理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所の社会的役割やその機能について理解を深め、具体的な保育実践において活用できる。 <p><子どもの理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの観察やその援助、関わりの視点を明確にし、保育の具体的な理解を深める <p><保育の過程の理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所における保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価について、具体的な実践を通して理解を深める。 <p><職務の理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所に従事する保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践と関連づけて理解する。 ・こどもの保育及び子育て支援について総合的な理解を深める。 <p><自己課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題を明確化し、可視化する。 		
授業の概要	<p>保育所保育の全般に参加し、個々のニーズに対応したかわり方を考察する視点を培います。また、指導計画を作成、実践し、自己課題を確認します。さらに、今日的課題となる家庭や地域社会との連携を視野に入れてこどもの育ちを保障する職務を遂行する保育者についての理解を深めていきます。</p>		
授業計画	<p>おおむね 11 日間以上、90 時間以上の実習を行います。実習においては、意欲を持って参加するとともに、出勤時間を守り、日々記録の作成と提出等を行うことが必要です。1 年次からの全ての実習の経験や学びから、実習での目標を立て、それに向けた実習準備を行い達成できるよう実践します。</p> <p>子どもの理解、保育士の職務理解、施設の理解等、実習での学びを深めるとともに、保育の過程を理解するための実践(部分実習や責任実習)などにも取り組む場合があります。</p>		

	<p>実習を通して、保育士としてふさわしい心構えや態度、知識や技術の習得はもちろんのこと、保育や子育て支援の理解、専門職として自律する自己の理解も狙います。さらに、将来どのような職業に就くのかなど、具体的に就業を考える機会にもなるような学びの獲得を期待します。また、自身が設定したテーマやこれまでの実習の中で見えてきた良さや課題について、考察したり、さらに深く掘り下げていくことが求められます。</p> <p>実習においては、具体的に以下の内容について学習します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養護と教育の一体化と保育の展開 ・保育所の社会的役割及び責任とその機能 ・一人一人のこどもの心身の状態や集団での活動の観察 ・保育所における保育士等の援助と関わり ・保育所の生活の流れとあそびや活動の展開への理解 ・保育所保育と環境を通して行う保育 ・保育所保育と生活やあそびを通して総合的に行う保育 ・入所しているこどもとその保護者に対する子育て支援に関する理解 ・地域の保護者やそのこども等に対する子育て支援の理解 ・保育所とその関係機関や地域社会との連携・協働 ・全体的な計画に基づく長期・短期の指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程に関する理解 ・具体的指導計画に基づく保育の実践とその評価 ・多様な保育の内容・展開と保育士の具体的業務 ・多様な保育の内容・展開と保育士が順守する職業倫理 ・集大成としての保育実習における自己課題の明確化と可視化
準備学習と必要時間	保育実習指導Ⅱの受講および実習園からの課題(必要時間 60 分以上)
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・事前指導で立てた目標の達成状況 —10% ・実習の取り組み状況 — 40% ・実習記録 — 20% ・実習園からの評価 — 30% <p>※単位認定前提として、実習事前事後指導を学修している事が条件となる。</p>
参考文献	<p>「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府</p>
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・実習を規定時間行うことが必要となりますが、規定時間を満たしたとしても、実習の状況等により、単位の修得ができない場合があります。 ・保育実習Ⅰの単位を修得していない場合、履修出来ません。

課題へのフィード バック方法	・実習記録に対して指導します。				
卒業・免許状・資格 との関連	卒業		幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格	選択 必修	保育実習
教員の実務経験	(小木曾) 保育所及び幼保連携型認定こども園で保育士として実習生を受け入れた経験を踏まえ、具体的な事例を提示しながら指導を行う。				

ナンバリング	B③10	科目名	保育実習Ⅲ
担当形態	単独	担当教員	相磯 友子・中嶋 一郎
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	実習ハンドブック、保育実習指導Ⅲで配布した資料等		
開講時期	集中	単位数・ 授業形態	2単位・実習
到達目標	<p><利用者理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活を通して、その時の利用者の気持ちを理解しようとして考察し、具体的な支援に結びつける。 <p><施設の理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉施設等(保育所以外)の社会的役割と機能に関して実践を通して総合的な理解を深める。 <p><職務の理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設に従事する保育士の職業倫理・業務内容について、具体的な実践と関連付けて理解する。 ・こども家庭支援、こども家庭福祉、社会的養護などの理解を基本にして保護者支援、家庭支援に関する知識・技能、技術を習得する。 <p><自己課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題を明確化し、可視化する。 		
授業の概要	<p>本授業は、児童福祉施設等(保育所以外)の保育、生活支援全般に参加して個別のニーズに対応した関わり方を考察する視点を培うこととする。また、個別支援計画を作成、実践して自己課題を確認する。更に、今日的課題となる家庭支援、地域支援における関係機関との連携に関して「保育者のあり方」を理解する。</p>		
授業計画	<p>概ね 11 日間以上且つ 90 時間以上の実習を実施します。</p> <p>実習に際して意欲・目的意識を持って参加するとともに、勤務時間の順守及び、日常の記録の作成と提出などが必要になります。また、これまでの実習経験と学びの成果を基盤として保育者・施設職員としての心構えの習得はもちろんのこと、より一層、実際の支援に結び付く知識と技術を獲得して専門性の向上に努めることが求められます。</p> <p>実習を通じて「自分は、将来、どのような職業に就くのか」などの就業を考える機会となるような学びの獲得を期待します。そのためには、自身の設定したテーマの明確</p>		

	<p>化と実習を通しての疑問、課題などを考察をしたり、深く掘り下げる姿勢が求められます。</p> <p>実習においては、具体的に以下の内容について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉施設等(保育所以外)の社会的役割とその具体的機能 ・施設における支援の実際とその具体的事例 ・こども(利用者)を受容し、共感する態度に関する具体的実践 ・個人差や生活環境に応じたこども(利用者)のニーズの把握と理解 ・施設における個別支援計画の理解と作成 ・施設における個別支援計画に基づいた実践 ・家庭支援の実際 ・児童福祉施設等における多様な専門職との連携・協働 ・児童養護施設等と地域社会との連携・協働 ・児童福祉施設等における保育士の多様な業務内容と職業倫理 ・集大成としての保育実習における自己課題の明確化と可視化 				
準備学習と必要時間	保育実習指導Ⅲの受講および実習先からの課題。(必要時間 60 分以上)				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・事前指導の目標の達成状況 — 10% ・実習の取り組み状況 — 40% ・実習記録 — 20% ・実習園からの評価表 — 30% <p>※単位認定の前提として、実習事前事後指導を学修していることが条件となる。</p>				
参考文献	授業中に適宜紹介する。				
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・実習を規定時間行うことが必要となりますが、規定時間を満たしたとしても、実習の状況等により、単位の修得ができない場合があります。 ・保育実習Ⅰの単位を修得していない場合、履修出来ません。 				
課題へのフィードバック方法	実習記録は必要に応じてコメントを記入し返却する。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格	選択必修	保育実習
教員の実務経験					

ナンバリング	B④06	科目名	あそび技能演習
担当形態	オムニバス	担当教員	阿部 友理・池谷 潤子・園田 真名美
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	特になし		
開講時期	前期	単位数・ 授業形態	2単位・演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育現場で求められる基礎的な保育技能を身につけ、それらを実践できる。 ・手あそび、絵本・紙芝居、パネルシアター、音楽遊び、身体遊び(ゲーム)など、多様な活動を展開するための技能を習得する。 ・子どもの表現活動を豊かにするために、保育者として主体的に取り組む姿勢を身につける。 ・教育実習での活動を想定し、指導案を作成するとともに、その内容を実践できる。 		
授業の概要	<p>本授業では、保育現場で求められる保育技能を身につけ、実践する力を高めることを目指します。教育実習Ⅱに向けて、「つくってあそぶ」「身体を育てるあそび」「音楽表現あそび」など、多様な視点から保育実践の準備を進めていきます。さらに、実習後には自身の経験を振り返り、課題を踏まえて技能をより高めるための工夫について考察します。</p> <p>各授業では、理解度を確認するための小テスト(発表・模擬保育など)を実施し、全員が各テーマに取り組みます。また、課題確認テストや課題提出を通して、学びの定着と実践力の向上を図ります。</p>		
授業計画	<p>第1回 身近な素材(紙皿・紙コップ)でつくって、あそぶ(池谷)</p> <p>第2回 パネルシアターの制作(池谷)</p> <p>第3回 紙皿シアターの制作(池谷)</p> <p>第4回 身近な素材(様々な紙)でつくって、かざる(池谷)</p> <p>第5回 手遊びと絵本(池谷)</p> <p>第6回 幼児の音楽表現遊び(阿部)</p> <p>第7回 季節の歌の教材制作(阿部)</p> <p>第8回 歌の教材の個人発表と考察(阿部)</p> <p>第9回 手作り楽器の制作(阿部)</p> <p>第10回 障がいのある人と音楽、音楽表現遊びの振り返り(阿部)</p> <p>第11回 身体を使ったゲーム、様々なダンス1(園田)</p> <p>第12回 身体を使ったゲーム、様々なダンス2(園田)</p>		

	第 13 回 ゲームとダンス課題、創作ダンス発表(園田) 第 14 回 ゲームとダンス課題、創作ダンス発表(園田) 第 15 回 身体遊びふりかえり(園田)				
準備学習と必要時間	授業後に毎回 60 分以上、授業で学んだ内容を活かした指導案を作成すること。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・各授業での取り組み(授業態度、製作物の提出、実技試験など) - 60% ・各課題への取り組み - 40% 				
参考文献	「新版 遊びの指導」 同文書院				
特記事項	なし				
課題へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・「課題カード」に必ず各自で記入し、授業後担当教員に提出してください。「課題カード」が未提出の場合、欠席扱いとなります。 ・課題カードは、課題の項目を書き込んで、一旦提出します。 ・2 コマ連続の授業のため、遅刻は 9 時 50 分までとします。 ・課題の提出後、または課題発表後に教員からコメントします。 				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状	必修	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
	その他		保育士資格	必修	保育の内容・方法に関する科目
教員の実務経験					

ナンバリング	B④08	科目名	あそび実践演習(音楽)
担当形態	単独	担当教員	大澤 ちづる
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	適宜資料を配布する		
開講時期	後期	単位数・ 授業形態	1単位・演習
到達目標	<p>①保育における音環境について考察し、豊かな「音環境」を説明できる。</p> <p>②いろいろな楽器に触れ、それらの基礎的な知識、簡単な技術が身につく。</p> <p>③楽器や素材から、「音あそび」への展開を考えることができる。</p>		
授業の概要	<p>・実習などを振り返りながら、それぞれが知っている保育の「音環境」について話し合い、子どもにとってどんな影響があるのか？豊かな「音環境」とは？を考えていく。</p> <p>いろいろな楽器の特性や音楽づくりの基礎的な知識を知り、自ら音遊びを経験することで、保育における音楽的活動の展開の仕方を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション:保育における音環境について考える</p> <p>第2回 いろいろな楽器を知る</p> <p>第3回 音・楽器遊び①</p> <p>第4回 音・楽器遊び②</p> <p>第5回 合奏①</p> <p>第6回 合奏②</p> <p>第7回 合奏③</p> <p>第8回 合奏④ 学内コンサートに出演する</p>		
準備学習と必要時間	授業で取り上げたテーマについて調べたり、実技的な課題に対して自己練習を行ったりすること。(必要時間 60分)		
評価方法	<p>・授業での取り組み(実技、発言、発表) 70%</p> <p>・小レポート 30%</p>		
参考文献	<p>・「あそんで楽器」手づくり保育シリーズ フレーベル館 繁下和雄</p> <p>・「授業がもっと楽しくなる音楽づくりのヒント 作曲なんてへっちゃらだー！」 音楽之友社 野村誠</p>		
特記事項	・手作り楽器や教材の材料の準備は各自で行うこととする。		

課題へのフィードバック方法	・実技の取り組みや発表については、適宜口頭でコメントをしていく。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格	選択	保育の内容・方法に関する科目
教員の実務経験					

ナンバリング	B④11	科目名	あそび実践演習(言葉)
担当形態	単独	担当教員	池谷 潤子
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	「幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説」		
開講時期	後期	単位数・ 授業形態	1単位・演習
到達目標	<p>(1) 言葉を使った保育実践の意義を理解し、説明できる。</p> <p>(2) 言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解し、実践できる。</p> <p>(3) 言葉に関わる児童文化財の意義を理解し、周辺領域である音楽や造形、身体による表現を含めた実践的な技能を身につける。</p>		
授業の概要	<p>幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的な知識を学び、「言葉」を使った保育実践の意義について理解した上で、幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践を身につける。</p>		
授業計画	<p>第1回： 児童文化財の紹介、パネルシアターの製作(1)</p> <p>第2回： パネルシアターの製作(2)</p> <p>第3回： パネルシアターの製作(3)と発表</p> <p>第4回： わらべうたの実践(1) 様々なわらべうたを学ぶ</p> <p>第5回： わらべうたの実践(2) わらべうた音階の音楽アンサンブル</p> <p>第6回： 言葉を豊かにする遊び(1)</p> <p>第7回： 言葉を豊かにする遊び(2)</p> <p>第8回： 附属幼稚園でのパネルシアターの上演</p>		
準備学習と必要時間	<p>・授業課題となるパネルシアター、わらべうた、言葉あそびについて図書館等で調べ、授業で学んだ内容について実践できるように教材の作成等を行うこと。(必要時間 90分)</p>		
評価方法	<p>・授業への参加度 (グループ活動、発表、付属幼稚園の預り保育での模擬保育等) — 60%</p> <p>・小レポート(テーマごとの授業での学びのふりかえり) — 20%</p> <p>・最終レポート(授業での学びのふりかえりと今後の展開) — 20%</p>		

参考文献	「増田裕子のミュージックパネル（子どもとあそび傑作選）」 増田裕子 「オルフ・シュールヴェルク:子どものための音楽 I.わらべうたと即興表現」 カール・オルフ 「紙芝居・共感のよろこび」 まついのりこ 「映像で見る0・1・2歳のふれあいうた・あそびうた」 エイデル出版(DVD)				
特記事項	なし				
特記事項 課題へのフィードバック方法	・パネルシアターの製作のための材料等は各自で購入します。(約 1,000 円) ・学生との相談の上、言葉に関するフィールドワークを行う予定です。費用は「約 10,000 円+交通費」です。 ・課題発表に関しては、実践後にコメントをします。 ・レポートにはコメントを記入して返却します。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格	選択	保育の内容・方法に関する科目
教員の実務経験					

ナンバリング	B④07	科目名	音楽表現演習Ⅲ
担当形態	クラス分け・ 単独	担当教員	明石 現・大澤 ちづる・清水 朋美 曾我 桂子・福中 琴子
ディプロマポリシー との関連性	②		
テキスト	ピアノコース:「バスティン おとなのピアノ教本 Book1」 株式会社東音企画 ギターコース:「新ギター教本」 ギタルラ社 共通テキスト:「こどものうた 100」 チャイルド社 他に適宜、楽譜や資料を配布する。		
開講時期	前期	単位数・ 授業形態	1 単位・演習
到達目標	ピアノやギターによる伴奏を弾きながら「こどものうた」を豊かに表現し、保育で応用する技術が身につく。具体的には、教育実習Ⅱ(幼稚園実習)に向けて「子どもの歌」のレパートリーを増やすとともに、コードネームから簡易伴奏をつくる知識・技術の習得を目指す。また、独奏曲の演奏を通して、それぞれの楽器の特性を生かした演奏法が身につく。		
授業の概要	保育の内容を理解し、展開するために必要な保育の表現技術の一つである歌唱およびピアノやギターを用いた弾き歌いの力量を高め、豊富なレパートリーをもとに応用できることを目的として、少人数によるグループ授業を行なう。教育実習Ⅱでは「子どもの歌」の弾き歌い伴奏が求められることが多く、この授業はそのための準備も兼ねている。実習園の課題曲についても、個々に応じて指導する。一方で、表現技術の向上、就職試験に備えて独奏曲の指導も行なう。		
授業計画	第 1 回 オリエンテーション 保育における音楽の役割 第 2 回 季節の歌 第 3 回 行事の歌 第 4 回 生活の歌 日本のこどものうたの歴史 第 5 回 コード進行を使った伴奏法および弾き歌い① 第 6 回 コード進行を使った伴奏法および弾き歌い② 第 7 回 コード進行を使った伴奏法および弾き歌い③ 第 8 回 コード進行を使った伴奏法および弾き歌い④ 第 9 回 伴奏パターン 4 第 10 回 伴奏パターン 5 第 11 回 独奏曲① 第 12 回 学生と教職員によるコンサートの参加と鑑賞		

	第 13 回 独奏曲② 第 14 回 独奏曲・リハーサル 第 15 回 まとめ・実技試験				
準備学習と必要時間	毎回 60 分の予習と復習時間を取り、レパートリーの蓄積をすること。				
評価方法	・課題曲の達成度・弾き歌いの実技試験 —50% ・授業内の取り組み —50%				
参考文献	「幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育」教育芸術社、 「こどものうた 200」チャイルド社、「続こどものうた 200」チャイルド社、 「保育者・教師をめざす人、集まれ！みんなピアノだい好き！」全音楽譜出版社、 「マンガでわかる楽譜入門」誠文堂新光社				
特記事項	・単位修得には 10 曲以上の弾き歌い曲の達成が必要となる。 継続的に練習を行なうこと。 ・免許・資格の取得を希望する場合、必ず履修すること。				
課題へのフィードバック方法	発表に対しては、適宜コメントをする。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格	選択	保育の内容・方法に関する科目
教員の実務経験					

ナンバリング	B④13	科目名	音楽表現演習Ⅳ
担当形態	クラス分け・ 単独	担当教員	明石 現・大澤 ちづる
ディプロマポリシー との関連性	②		
テキスト	「こどものうた 100」 チャイルド本社 演奏技術に応じて、練習曲集を適宜指示する。		
開講時期	後期	単位数・ 授業形態	1 単位・演習
到達目標	ピアノやギター(ウクレレを含む)による伴奏を弾きながら「こどものうた」を豊かに表現し、保育で実践的に応用できる力・発展できる力が身につく。音楽的な感性を豊かにし、演奏技術の確実なレベルアップを図り、学内のコンサートで発表する。		
授業の概要	保育の内容を理解し、展開するために必要な保育の表現技術の一つである歌唱およびピアノやギターを用いた弾き歌いの力量を高め、豊富なレパートリーをもとに応用・発展できることを目的として、個人指導を行う。ピアノコースでは連弾、ギターコースではウクレレや合奏を取り入れて、互いを感じながら演奏する機会を設ける。授業での取り組みとともに、コンサートでの実技発表を実施する。		
授業計画	第 1 回 オリエンテーション 演奏技術の確認と計画立案 第 2 回 弾き歌いと練習曲① 春 第 3 回 弾き歌いと練習曲② 夏 第 4 回 弾き歌いと練習曲③ 秋 第 5 回 弾き歌いと練習曲④ 冬 第 6 回 連弾・アンサンブル① 弾くこと 第 7 回 連弾・アンサンブル② 聴くこと 第 8 回 連弾・アンサンブル③ 表現すること 第 9 回 独奏曲 第 10 回 学生と教職員によるコンサート① 準備 第 11 回 学生と教職員によるコンサート② 準備 第 12 回 学生と教職員によるコンサート③ リハーサル 第 13 回 学生と教職員によるコンサート④ 発表と鑑賞 第 14 回 独奏曲 第 15 回 まとめ		

準備学習と必要時間	毎回 60 分の予習と復習時間を取り、レパトリーの蓄積をすること。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での取り組み(実技で確認) — 50% ・コンサートでの発表 — 50% 				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・「こどものうた 200」チャイルド本社 ・「続こどものうた 200」チャイルド本社 				
特記事項	継続的に練習を行うこと。				
課題へのフィードバック方法	発表に対しては、適宜コメントをする。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格	選択	保育の内容・方法に関する科目
教員の実務経験					

ナンバリング	B⑤04	科目名	社会的養護Ⅱ
担当形態	単独	担当教員	中嶋 一郎
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	「児童の福祉を支える 演習 社会的養護Ⅱ」 萌文書林		
開講時期	前期	単位数・授業形態	1単位・演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉施設における養護の意義を理解し、専門的な支援者としての保育士に必要な認識を身につける。 ・子どもの成長・発達に果たす養護の意義について学習し、保育士としての役割・感覚を身につける。 ・子どもの最善の利益を意識した支援の実践方法を身につける。 ・社会的養護に関わる施設の事例分析を行い、利用者理解と事例への洞察力、支援の視点を身につける。 		
授業の概要	<p>この科目は、保育士資格を取得するための必修科目であり、保育士実践に必要な知識・技能を学習するものである。</p> <p>具体的には、子どもと家族に対応する「専門的な支援者」である保育士として、社会的養護、施設が目指そうとしている方向性と施設における家族、子どもへの支援の在り方を「子どもの最善の利益」「子どもの権利」という視点から理解するため、保育士の専門性にかかわる知識・技術とその応用に関して具体的な事例を交えて学ぶ。これらを通じて実習に向けた準備等ができるようにする。</p>		
授業計画	<p>第1回：社会的養護における児童の権利擁護と保育士の倫理及び責務 ①児童の権利擁護(1)</p> <p>第2回：社会的養護における児童の権利擁護と保育士の倫理及び責務 ②児童の権利擁護(2)</p> <p>第3回：社会的養護における児童の権利擁護と保育士の倫理及び責務 ③保育士等の倫理及び責務</p> <p>第4回：施設養護の特性及び実際 ①児童養護の体系と児童福祉施設の概要</p> <p>第5回：施設養護の特性及び実際 ②日常生活支援と諸施設の暮らし(1)</p> <p>第6回：施設養護の特性及び実際 ③日常生活支援と諸施設の暮らし(2)</p>		

	<p>第 7 回:施設養護の特性及び実際 ④日常生活支援と諸施設の暮らし(3)</p> <p>第 8 回:保育士の専門性にかかわる知識・技術とその傾向 ①保育士の業務、虐待された子どもへの支援</p> <p>第 9 回:保育士の専門性にかかわる知識・技術とその傾向 ②虐待への対応、子どもと家族への支援</p> <p>第 10 回:保育士の専門性にかかわる知識・技術とその傾向 ③児童相談所の連携、虐待した家族への支援</p> <p>第 11 回:保育士の専門性にかかわる知識・技術とその傾向 ④ソーシャルワークの技術活用、アドミッションケア</p> <p>第 12 回:保育士の専門性にかかわる知識・技術とその傾向 ⑤リービングケア、アフターケア</p> <p>第 13 回:今後の課題と展望 ①施設の小規模化と地域連携 第 14 回:今後の課題と展望 ②施設の小規模化と地域連携 第 15 回:まとめ社会的養護の施設で働くということ</p>
準備学習と必要時間	<p>授業前には、毎回 60 分の予習としてテキストに目を通しておくこと。 授業後には、授業内容の復習を 60 分以上行うこと。</p>
評価方法	<p>1 期末試験 55% 2 授業毎の感想・レポート 45%</p>
参考文献	授業中に適宜示します
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話等の使用や私語等を慎むことは、守るべきマナーです。(減点の対象) ・授業等で不満があれば個人的に受け付けておりますので、いつでもご相談ください。 ・自分の意見を持つことは、共に学ぶ学友との相互理解を深めるための道具です。自分の意見はワークシートにまとめ、それを元に他人と議論を交わしてください。(以下、加点の対象) ・他の学生を尊重し、その意見をしっかりと受け止めてください。 ・発表の際には、他の学生に伝わる大きさの声で行ってください。 ・わからないことがあれば、授業内、外で積極的に質問してください。
課題へのフィードバック方法	<p>試験後、模範解答を提示して解説を行います。 授業毎に課す感想レポートについては、特に返却はいたしません。 質問等の記載があった場合は、個別対応、または次回の授業にて補足をします。</p>

卒業・免許状・資格 との関連	卒業		幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格	必修	保育の本質・目的に関する科目
教員の実務経験					

ナンバリング	B⑤05	科目名	こども家庭支援論
担当形態	単独	担当教員	佐藤 隆司
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	授業中、適宜、配布する		
開講時期	前期	単位数・ 授業形態	2単位・講義
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て家庭に対する支援の意義・目的を説明できる。 ・家庭支援のための基本的態度を理解して実務に活用できる。 ・家庭支援のための施策及び社会資源に関して理解して説明できる。 ・児童虐待防止のための発見・通告・支援などの流れと要保護児童対策地域協議会の目的・役割などを理解して子どもの救済者として行動できる。 		
授業の概要	<p>本授業は、子育て家庭を取り巻く現状と課題を整理して、家庭支援の必要性と支援のための制度・施策を理解する。</p> <p>特に社会問題化する児童虐待の発見のポイント、通告先、家庭支援のためのアセスメントなどを理解して実務に活かせることを目的とする。</p> <p>なお、授業の進捗状況などにより、若干、授業計画は前後することもあり得る。</p>		
授業計画	<p>第1回 こども家庭支援の意義と必要性―家族機能の変遷と家庭支援の必要性―</p> <p>第2回 こども家庭支援の目的と機能 ―児童福祉・児童家庭福祉・子ども家庭福祉の変遷―</p> <p>第3回 待機児童対策と異次元の少子化対策</p> <p>第4回 保育所における家庭支援―保育の必要性和保育所における保護者支援―</p> <p>第5回 保育士による子ども家庭支援の基本① 保育士に求められる基本的態度</p> <p>第6回 保育士による子ども家庭支援の基本② 保育士の子育て支援の特性</p> <p>第7回 保育士による支援① 家庭の状況に応じた支援と関係機関の連携の必要性</p> <p>第8回 保育士による支援② 社会資源と自助・互助・共助・互助</p> <p>第9回 こども家庭支援の対象 ―市町村こども家庭センターと要支援児童、特定妊婦、要保護児童―</p> <p>第10回 児童虐待の理解① 虐待の定義の理解</p> <p>第11回 児童虐待の理解② 発見・通告・支援と市町村要保護児童対策地域協議会</p> <p>第12回 保育士の子育て支援の展開① 子ども及び保護者状況・状態の把握</p> <p>第13回 保育士の子育て支援の展開② 家族アセスメント</p> <p>第14回 授業全体の振り返り</p>		

	第 15 回 子育て支援サービスの課題				
準備学習と必要時間	<p>【予習】毎日 10 分以上は家族・保育に関連する新聞、ネットニュースなど(特に少子化対策)を読んでおくこと。</p> <p>【復習】授業後は、授業中に指摘したポイント、留意事項などを説明できるように整理しておくこと(予習・復習計1時間以上)。</p>				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度、参加意欲(課題提出期限厳守) — 20% ・期末試験 — 60% ・課題 — 20% 				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『保育所・認定こども園等における人権擁護のためのセルフチェックリスト～「子どもを尊重する保育」のために～』全国保育士会, 2018年 ・『保育所や幼稚園等における虐待の防止及び発生時の対応等に関するガイドライン』こども家庭庁・文部科学省, 2025年 ・早樫一男編著『対人援助職のためのジェノグラム入門 家族理解と相談援助に役立つツールの活かし方』中央法規, 2016年 ・七木田 敦・上村眞生・岡花祈一郎編集『子ども家庭支援論－子どもを中心とした家庭支援－〔第2版〕』教育情報出版, 2025年 <p>※その他, 必要に応じて授業中に紹介する。</p>				
特記事項	<p>【留意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義中心。 ・私語、飲食、化粧、電子機器使用(録画・録音等)などは禁止。 				
課題へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・質問は原則、翌週の授業の際、コメントする。 ・課題等に関しては模範解答を提示して解説をする。 				
卒業・免許状・資格との関連	卒業		幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格	必修	保育の本質・目的に関する科目
教員の実務経験	<p>児童相談所(区域担当・虐待防止調整担当・里親担当児童福祉司)、児童養護施設、児童自立支援施設等の実務経験を活かして現場の実情と課題等に触れ、より実践的な授業を展開する。</p>				

ナンバリング	B⑥01	科目名	専門総合演習「子どもと芸術Ⅰ」
担当形態	単独	担当教員	明石 現
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	適宜配布する		
開講時期	前期	単位数・授業形態	2単位・演習
到達目標	<p>子どもの育みに、芸術が如何に関わり、繋がり行く何かで在り得るかを考察する。その大切な軸として、子どもがもつ多様性を受け入れる柔軟なところへの発見、敬意を据え、保育と芸術の関わりの答えを導くための課題を、具体的な芸術という体験の中で見つめ、発見し、その認識をもち、具体的方策を説明する事が出来ることを到達目標とする。</p>		
授業の概要	<p>本授業のテーマおよび概要は、子どもの育みへの芸術の関与であり、探求である。「芸術分の教育プロジェクト」(手話合唱)をはじめ、芸術には子どもがもつ多様性を受け入れる柔軟なところを引き出す力があるという視点から始め、音楽、文学、映像等の芸術作品の鑑賞、考察を行い、個々の課題を設定する。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業の方向性の確認 第2回 「子どもの多様性を受け入れる柔軟なところ」とは何か ディスカッション 第3回 「子ども」を考える① 文学を通して 第4回 「子ども」を考える② 文学を通して 第5回 「子ども」を考える③ 映像作品を通して 第6回 「福祉」を考える① 文学を通して 第7回 「福祉」を考える② 文学を通して 第8回 「福祉」を考える③ 映像作品を通して 第9回 「社会」を考える① 文学を通して 第10回 「社会」を考える② 文学を通して 第11回 「社会」を考える③ 映像作品を通して 第12回 「芸術分の教育プロジェクト」① 手話合唱について 第13回 「芸術分の教育プロジェクト」② 保育、福祉と芸術の接点 第14回 「芸術分の教育プロジェクト」③ プロジェクトの成り立ちについて 第15回 「芸術分の教育プロジェクト」④ まとめ</p>		
準備学習と必要時間	・毎回 60 分の予習と復習時間をとること。		

	<ul style="list-style-type: none"> ・指示した課題、レポートを期限内に行うこと。 ・事前学習等、円滑なグループワークの準備、自己練習に取り組むこと。 				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加、取り組み姿勢 — 70% ・小レポート作成 — 30% 				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・今西祐行「一つの花」ポプラポケット文庫 ・ヘレン・ケラー「光の中へ」めるくまーる他 ・渡部陽一「晴れ、そしてミサイル」 				
特記事項	学外学習費用概算：入場料等 10000 円+交通費				
課題へのフィードバック方法	ゼミ内でレポートを共有し、それに対し教員がコメントを加えます。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業	必修	幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格		
教員の実務経験					

ナンバリング	B⑥01	科目名	専門総合演習 「子どもの生活とその周辺領域から考える」
担当形態	単独	担当教員	池谷 潤子
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	資料を適宜配布します		
開講時期	前期	単位数・ 授業形態	2単位・演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・文献・資料・映像等を通して、保育現場の実践と課題について理解し、説明できる。 ・グループディスカッションを通して、自分の解決すべき課題を発見することができる。 ・小中学生たいむに、どのようなアプローチで取り組めるかについて考える。 		
授業の概要	<p>文献・映像資料等から、保育現場での様々な取り組みや課題について学び、話し合いで自分の意見を述べ、互いに理解することなど、学生の表現力や多様な視点から物事を捉える力を高めることをねらいとします。</p> <p>前期は、具体的な例として、学内の子育て支援「たいむ」の環境、スタッフの経験談等から子育て支援と保育者の役割についての理解を深める。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション ゼミのねらいと活動について</p> <p>第2回 子育て支援(1)「たいむ」について</p> <p>第3回 子育て支援(2)「たいむ」のスタッフの話を聞く</p> <p>第4回 たいむの環境整備(屋外:草取りと土づくり)</p> <p>第5回 実習に向けて自己課題を考える</p> <p>第6回 実習のふりかえりと今後の課題</p> <p>第7回 たいむの環境整備(屋外:さつまいもの苗植え)</p> <p>第8回 保育に関する映像を見る</p> <p>第9回 保育に関する映像を見て、ディスカッションする</p> <p>第10回 小中学生たいむの準備(1)</p> <p>第11回 小中学生たいむの準備(2)</p> <p>第12回 たいむの環境整備(屋外:草取り)</p> <p>第13回 たいむの環境整備(屋外)</p> <p>第14回 小中学生たいむの実施</p> <p>第15回 前期のまとめ</p>		
準備学習と必要時間	授業前に・与えられたテーマについて調べて、小レポートを書いてくること。		

評価方法	・授業での取り組み(話し合いにおける積極的な参加と発言) — 60% ・ふりかえりレポート — 40%				
参考文献	保育・子育て支援演習(萌文書林) 雑誌「エデュカーレ」(臨床育児保育研究会)				
特記事項	なし。				
課題へのフィードバック方法	小レポート、発表課題についてコメントします。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業	必修	幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格		
教員の実務経験					

ナンバリング	B⑥01	科目名	専門総合演習 「子どもの表現と表現する自分」
担当形態	単独	担当教員	大澤 ちづる
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	適宜、資料を配布する。		
開講時期	前期	単位数・ 授業形態	2単位・演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿から、さまざまな「音楽的表現」を捉える視点を学び、子ども理解を深める。 ・グループディスカッションを通して、自らの考えを見出したり、他者の意見を受け入れたりしながら、自己課題を発見する。 ・自分の声や身体に向き合い、歌う経験を通して、豊かな感性と表現力を高める。 		
授業の概要	<p>保育者は、子どものモデルです。子どもの前に立つとき、保育者は、常に見られる存在となります。保育者の立ち居振る舞いや言葉は、子どもに刷り込まれていきます。皆さんは、見られる自分をどれほど意識したことがあるでしょうか。</p> <p>本授業では、自ら表現することを通して、表現の豊かさ、面白さを探求します。表現する自分、見られる自分を意識し、人に何かを伝えるために自分に必要なものは何か、自己課題を発見して欲しいと思います。子どもの表現について考えることと並行して、自己の表現活動を行います。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション ゼミのねらいと内容について</p> <p>第2回 表現とは？</p> <p>第3回 保育現場における表現活動について①</p> <p>第4回 保育現場における表現活動について②</p> <p>第5回 楽しく歌うとは？</p> <p>第6回 歌ってあそぶ①</p> <p>第7回 歌ってあそぶ②</p> <p>第8回 幼稚園実習のふりかえり</p> <p>第9回 表現活動①</p> <p>第10回 表現活動②</p> <p>第11回 表現活動③</p> <p>第12回 表現活動④</p> <p>第13回 表現活動⑤</p> <p>第14回 表現活動 発表</p>		

	第 15 回 まとめ・後期にむけて				
準備学習と必要時間	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で取り扱う指示された文献等を事前に読み込んでおくこと。 ・表現活動については、与えられた課題を自己練習すること。(必要時間 60 分) 				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での取り組み(討議への積極的な参加、発言内容、実技) — 50% ・レポート — 20% ・実技発表 — 30% 				
参考文献	青木久子「新保育者論 子どもに生きる」萌文書林 「オペラシアターこんにやく座ソング集 世界は劇場 1」全音楽譜出版社				
特記事項	ワークショップに参加したり観劇に出かけたりすることがあります。 それらの経費は自己負担となります。				
課題へのフィードバック方法	発表課題についてコメントします。 表現活動について、口頭でコメントします。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業	必修	幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格		
教員の実務経験					

ナンバリング	B⑥01	科目名	専門総合演習「遊びを通して探究する」
担当形態	単独	担当教員	郷家 史芸
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト			
開講時期	前期	単位数・ 授業形態	2単位・演習
到達目標	<p>・幼児の遊びを捉えなおし、子どもたちが、夢中になれるような遊びを創造し探求しようとする姿勢を持つ。</p> <p>・グループディスカッションを通して、互いの意見を共有し、自分の学びにつなげることができる。</p>		
授業の概要	<p>幼児は遊びの中で疑問を持って試行錯誤したり、興味を持ったことに挑戦したり、友達と意見を交わしたり様々な経験をします。その経験からたくさんの事を学び、成長していきます。保育者は幼児の遊びから興味関心、学びを読み取り、次の援助を検討します。この授業では幼児の遊びに関して一つのテーマを決め、実際に遊んでみながら、遊びの展開・援助・学びを捉えていきます。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 遊びの実践①テーマ決め, アイディアを出す</p> <p>第3回 アイディアの精査</p> <p>第4回 遊びの実践①</p> <p>第5回 遊びの実践①の振り返り</p> <p>第6回 遊びの実践②テーマ決め, アイディアを出す</p> <p>第7回 アイディアの精査</p> <p>第8回 遊びの実践②</p> <p>第9回 遊びの実践②の振り返り</p> <p>第10回 遊びの実践③テーマ決め, アイディアを出す</p> <p>第11回 アイディアの精査</p> <p>第12回 遊びの実践③</p> <p>第13回 遊びの実践③の振り返り</p> <p>第14回 遊びの視点から実習を振り返る</p> <p>第15回 前期のまとめと後期に向けて</p>		

準備学習と必要時間	テーマに関する自分のアイデアをまとめてくる(60分)。 授業後は振り返りのまとめを行う。(60分)				
評価方法	・授業での取り組み(積極的な発言, 自発的な姿勢等)・・・60% ・授業内のレポート・・・40%				
参考文献	授業中に適宜示します。				
特記事項	フィールドワーク等にかかる費用については個人負担となります。				
課題へのフィードバック方法	レポートは授業内で共有し、コメントさせていただきます。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業	必修	幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格		
教員の実務経験					

ナンバリング	B⑥01	科目名	専門総合演習「森や自然の素材をおもしろがる」
担当形態	単独	担当教員	古賀 琢也
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	プリント・資料を配布する		
開講時期	前期	単位数・ 授業形態	2単位・演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・対象についての発見や気づきを出し合い、興味をもって探求する姿勢を身に付ける ・素材をおもしろがり、焦点を当てて遊びに展開するための支援を考えることができる ・互いの経験を写真と言葉を用いて可視化し、振り返りから次の保育への展開を考えることができる。 		
授業の概要	<p>森・里山での保育について理解を深める。また、森や戸外で出会った素材をどのように遊びに活かすことができるか、おもしろがりながら探求することで、環境や素材への視点を深める。</p> <p>子どもたちの興味・関心を予測しながら、必要な準備や環境整備をし、環境についても理解を深めていく。そして、森に来た子どもの遊びを観察し、さらに遊びが展開するために、</p> <p>どのようなことが考えられるか素材や遊びに焦点を当てて展開を考える。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション:野原に何がある?お気に入りを見つけながら互いを知る</p> <p>第2回 里山での保育、森の保育をまなぶ①</p> <p>第3回 里山での保育、森の保育をまなぶ②</p> <p>第4回 身近な自然にはどのような素材がある?出かけて、触れて、遊んでみよう</p> <p>第5回 遊びの記録を基に対話しよう</p> <p>第6回 素材と遊びを分解して考える</p> <p>第7回 森で遊ぼう① 関わりながら、観る、考える、投げかけてみる</p> <p>第8回 振り返りと対話①</p> <p>第9回 森で遊ぼう② 関わりながら、観る、考える、投げかけてみる</p> <p>第10回 振り返りと対話②</p> <p>第11回 素材の可能性の探究</p> <p>第12回 遊び、子ども、素材について考える①</p> <p>第13回 遊び、子ども、素材について考える②</p> <p>第14回 対話から見えてきたこと</p> <p>第15回 まとめ</p>		

準備学習と必要時間	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で提示された課題について調査・検討。(必要時間:各回 30 分以上) ・授業内で学んだことを整理し、まとめること。(必要時間:各回 30 分以上) ・授業に際し、指定された資料がある場合は資料を読み、考えをまとめてくること。 				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業・活動への積極的な参加-70% ・レポートの提出と内容-30% 				
参考文献	「森のようちえん 自然のなかで子育てを」解放出版社 「ネイチャーエデュケーション」みくに出版 「身近な自然を活かした保育実践とカリキュラム (環境・人とつながって育つ子どもたち)」中央法規出版				
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークでは、活動に適した服装で参加する ・フィールドワーク等にかかる費用は個人負担となります 				
課題へのフィードバック方法	レポートは授業内で共有し、コメント等を加え、返却します				
卒業・免許状・資格との関連	卒業	必修	幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格		
教員の実務経験	保育所、認定こども園での実践経験を踏まえ、保育において環境と自然を生かして遊ぶなかで意識する点や子どもの感性について事例を交えながら解説する。				

ナンバリング	B⑥01	科目名	専門総合演習 「インクルーシブ保育・教育を考える」
担当形態	単独	担当教員	相磯 友子
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	適宜資料を配布します。		
開講時期	前期	単位数・ 授業形態	2単位・演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な子どもを含むインクルーシブ保育・教育について説明することができる。 ・インクルーシブな遊びについて自分なりに工夫して実践することができる。 ・フィールドワークにおいて自分なりの観点で観察しレポートを作成することができる。 		
授業の概要	<p>本授業では、これまでの自分の体験を振り返りながら、多様な子どもを含むインクルーシブ保育・教育について考えます。文献精読や遊びの実践、インクルーシブ保育・教育の現場へのフィールドワークを通して、自分なりのインクルーシブ保育・教育についての考えを深めます。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、インクルーシブ保育・教育とは</p> <p>第2回 今まで出会った障害のある子(人)、外国にルーツのある子(人)との関りを振り返る</p> <p>第3回 インクルーシブ保育・教育に関する文献を読もう①</p> <p>第4回 インクルーシブ保育・教育に関する文献を読もう②</p> <p>第5回 インクルーシブ保育・教育に関する文献を読もう③</p> <p>第6回 インクルーシブ保育・教育に関する文献を読もう④</p> <p>第7回 インクルーシブな遊びの検討</p> <p>第8回 インクルーシブな遊びの準備</p> <p>第9回 インクルーシブな遊びの体験</p> <p>第10回 フィールドワークの事前準備</p> <p>第11回 フィールドワーク①</p> <p>第12回 フィールドワーク②</p> <p>第13回 フィールドワークの振り返り</p> <p>第14回 これから取り組みたいテーマを考える</p> <p>第15回 テーマの発表と夏休みに向けた取り組みの確認</p>		

準備学習と必要時間	・毎週 60 分以上は、授業で紹介する資料や本を読んだり、授業に関連する情報を自分なりに収集すること。				
評価方法	・授業での取り組みやディスカッションへの貢献 — 50% ・コメントペーパーとフィールドワークのレポート内容 — 50%				
参考文献	授業で随時示します。				
特記事項	※フィールドワークの交通費が 2000～3000 円かかります。				
課題へのフィードバック方法	・コメントペーパーにはコメントを付けて次の授業で返却します。 ・フィールドワークのレポートにはコメントを付けて次の授業で返却します。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業	必修	幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格		
教員の実務経験					

ナンバリング	B⑥01	科目名	専門総合演習 「子どもの権利」・「ICF」の視点に基づいた援助・ 支援を考える I
担当形態	単独	担当教員	中嶋 一郎
ディプロマポリシー との関連性	①, ②, ③		
テキスト	なし(授業ごとに資料を配布)		
開講時期	前期	単位数・ 授業形態	2単位 演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの権利、ICF について理解し、実践場面における支援者の支援内容を分析できるようになる。 ・子どもの権利、ICF に立脚した支援を実践できるようになる。 ・子どもの権利、ICF の視点を踏まえた「子ども観」「利用者観」を醸成させる。 		
授業の概要	<p>子どもや支援を必要とする人々に対して支援を実践していく際に、不適切な関わりが起きてしまう一因として、支援者の持つ「子ども観」「利用者観」が挙げられる。</p> <p>これを踏まえ、この授業では、「子どもの権利」「ICF」についての知識を学び、その知識と現場で起きている様々な事象を分析し、実践における理論背景として知識を用いた説明する力を養い、活動を通じて「子ども観」「利用者観」の醸成を図っていくことを企図して授業を展開する。授業方法は、ディスカッション形式で行う。</p>		
授業計画	<p>第 1 回 オリエンテーション ゼミの狙いと活動について</p> <p>第 2 回 子どもの権利とは</p> <p>第 3 回 子どもの権利を用いた具体的な支援の分析</p> <p>第 4 回 子どもの権利の視点から社会事象を読み解く①</p> <p>第 5 回 子どもの権利の視点から社会事象を読み解く②</p> <p>第 6 回 子どもの権利の視点から社会事象を読み解く③</p> <p>第 7 回 子どもの権利の視点から社会事象を読み解く④</p> <p>第 8 回 ICF(国際生活機能分類)とは</p> <p>第 9 回 ICF(国際生活機能分類)を用いた子ども・利用者の具体的な分析①</p> <p>第 10 回 ICF(国際生活機能分類)を用いた子ども・利用者の具体的な分析②</p> <p>第 11 回 ICF(国際生活機能分類)の視点から社会事象を読み解く①</p> <p>第 12 回 ICF(国際生活機能分類)の視点から社会事象を読み解く②</p> <p>第 13 回 ICF(国際生活機能分類)の視点から社会事象を読み解く③</p> <p>第 14 回 ICF(国際生活機能分類)の視点から社会事象を読み解く④</p>		

	第 15 回 子どもの権利・ICF の視点を踏まえた子ども観、利用者観を考える				
準備学習と必要時間	事前学習として自身が興味を持った社会福祉に関するニュース(社会問題)を調べてまとめてくること。(60 分で可能な範囲) 事後学習として授業で学んだ知識を反芻し、自身で説明できるように復習をおこなうこと。(60 分で可能な限り)				
評価方法	授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 1. 授業毎の感想・レポート - 75% 2. 授業への積極的参加度 日常の受講態度 - 25%				
参考文献	授業中に適宜示します。				
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ活動になりますので、互いを尊重し合い、楽しさと真剣さを同居させられる雰囲気を作っていけるような姿勢で取り組んでいただきたいです。 ・ゼミ活動を通じて相互理解をしながら、お互いがそれなりに心地よさを感じられる距離感を活動を通じて学んでいただければ幸甚です。 ・月 1 回程度の障がい者施設でのフィールドワーク有。 費用は交通費として 1,000 円程度かかる予定です。 				
課題へのフィードバック方法	レポート、発表等に関して、直接コメント等を行います。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業	必修	幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格		
教員の実務経験					

ナンバリング	B⑥02	科目名	卒業演習「子どもと芸術Ⅱ」
担当形態	単独	担当教員	明石 現
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③,		
テキスト	適宜配布		
開講時期	後期	単位数・授業形態	2単位・演習
到達目標	前期「専門総合演習」で見出した課題に対し、実践的芸術表現及び体験を通し、保育に於ける芸術の在り様、具体的方法を探求し、かつ理解し説明できることを到達目標とする。		
授業の概要	前期「専門総合演習」で見出した子どもの育みや社会への芸術的関与を実践的な芸術体験、具体的には手話合唱を軸とした「芸術分の教育プロジェクト」による演奏活動、広島でのゼミ合宿、フィールドワーク等を通して、個々の学びの定着を図る。		
授業計画	第1回 「芸術分の教育プロジェクト」(手話合唱) 第2回 広島ゼミ合宿① 歴史 第3回 広島ゼミ合宿② フィールドワーク 第4回 広島ゼミ合宿③ まとめ 第5回 フィールドワーク①事前学習 第6回 フィールドワーク① 第7回 フィールドワーク①振り返り 第8回 フィールドワーク②事前学習 第9回 フィールドワーク② 第10回 フィールドワーク②振り返り 第12回 卒業レポート作成・まとめ① 第13回 卒業レポート作成・まとめ② 第14回 卒業レポート作成・まとめ③ 第15回 学びの成果発表会		
準備学習と必要時間	・毎回 60 分の予習と復習時間をとること。 ・指示した課題を期限内に行うこと。 ・フィールドワークにおける事前学習等、円滑なグループワークの準備、自己練習に取り組むこと。		

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加、取り組み姿勢 — 60% ・卒業レポート — 40% 				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・渡部陽一「晴れ、そしてミサイル」 				
特記事項	<p>学外学習費用概算：広島ゼミ合宿は交通費を含めて5万円前後。（参加が難しい方は別課題で対応）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位修得のためには卒業レポートの提出と学びの成果発表会の出席が必須です。 				
課題へのフィードバック方法	ゼミ合宿やフィールドワークを経て卒業レポートを作成し、それに対して教員がコメントを加えます。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業	必修	幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格		
教員の実務経験					

ナンバリング	B⑥02	科目名	卒業演習 「様々な経験を通して考える私の保育観」
担当形態	単独	担当教員	池谷 潤子
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	適宜資料を配布する。		
開講時期	後期	単位数・ 授業形態	2単位・演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学内の子育て支援施設「たいむ」等の施設で、子ども、保護者、スタッフとの関わることで、施設の内容を理解し、課題を考える。 ・ゼミでの活動、自分で選択したテーマについてのレポートを作成し、学修の成果としてまとめ、自分の考えを述べることができる。 		
授業の概要	<p>後期の卒業演習では、学内の子育て支援「たいむ」と「イーグルアフガン明德カレッジ」でのボランティアを行うことと並行して、自分が興味のあるテーマについての卒業レポート作成をします。</p> <p>ボランティアの際には、子どもの遊び、保護者との関わり、保育者の役割などに視点を置く参与観察をします。また卒業レポートでは、オートエスノグラフィーなど個人の興味に沿ったテーマで文献とフィールドワークの両方からまとめます。</p>		
授業計画	<p>第1回 実習のふりかえり</p> <p>第2回 後期の取り組みについての話し合い</p> <p>第3回 他大学の多文化芝生ゼミに参加する</p> <p>第4回 卒業レポートについて</p> <p>第5回 ボランティアとふりかえり①</p> <p>第6回 たいむの環境整備(屋外での焚き火)</p> <p>第7回 ボランティアとふりかえり②</p> <p>第8回 卒業レポートについての個人発表</p> <p>第9回 たいむの環境整備(屋外でのやきいも)</p> <p>第10回 ボランティアとふりかえり③</p> <p>第11回 卒業レポートについての個人発表</p> <p>第12回 卒業レポートについて</p> <p>第13回 卒業レポートについて</p> <p>第14回 学びの成果発表会① 準備</p> <p>第15回 学びの成果発表会② 発表</p>		

準備学習と必要時間	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で出された課題について、調べること ・ボランティア先での実践について整理し、まとめてくること 				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での取り組み (ワークショップ、グループ活動への積極的な取り組みや発言内容)— 60% ・卒業レポート — 40% 				
参考文献	授業中に適宜示します。				
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・単位修得のためには卒業レポートの提出と学びの成果発表会の出席が必須です。 ・学生との相談の上、フィールドワークを行います。 				
課題へのフィードバック方法	レポート、発表についてはコメントします。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業	必修	幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格		
教員の実務経験					

ナンバリング	B⑥02	科目名	卒業演習「表現する自分を探求する」
担当形態	単独	担当教員	大澤 ちづる
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	適宜、資料を配布する		
開講時期	後期	単位数・授業形態	2単位・演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門総合演習で見出した自己課題についてフィールドワークを行い、分析、検討することができる。 ・表現活動を通して、豊かな感性や表現力を身につける。 ・自分の表現方法、表現力の変化について振り返るとともに、自らの関心や問題意識を踏まえた「表現」や「保育」に関するレポートを作成し、学修の成果としてまとめることができる。 		
授業の概要	<p>ゼミの仲間と一緒にひとつの楽曲を演奏することを通して、自らが表現者となる体験を重ねていきます。自分の表現を探求しながら、自身の内面の変化にも焦点をあてていきたいと考えています。保育者が試行錯誤しながら環境を構成し、子どもと向き合い、その日の保育を省察する、これらの保育の営みは、本ゼミのねらいとしている「きいて、みて、やって、考える」という学びの循環と通ずるものがあります。ゼミ活動を通して、自己学習する力や自分への自信につなげて欲しいと思います。特色ある園への見学も行います。</p>		
授業計画	<p>第1回 夏休みの自己課題の発表 1 第2回 夏休みの自己課題の発表 2 第3回 表現活動 1 第4回 表現活動 1 を振り返る 第5回 表現活動 2 第6回 表現活動 2 を振り返る 第7回 表現活動 3 第8回 表現活動 3 を振り返る 第9回 フィールドワーク 第10回 卒業レポートの作成 1 第11回 卒業レポートの作成 2 第12回 卒業レポートの作成 3 第13回 学びの成果発表会 準備 1</p>		

	第 14 回 学びの成果発表会 準備2 第 15 回 学びの成果発表会 発表				
準備学習と必要時間	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で取り扱う指示された文献等を事前に読み込んでおくこと。 ・表現活動については、与えられた課題を自己練習すること。(必要時間 60 分) 				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での取り組み(フィールドワークの準備、実践内容) - 60% ・卒業レポート - 40% 				
参考文献	授業中に適宜示します。				
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・単位修得のためには卒業レポートの提出と学びの成果発表会の出席が必須です。 ・フィールドワークにかかる費用等は個人負担となります。 				
課題へのフィードバック方法	レポートにはコメントを書き加え返却します。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業	必修	幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格		
教員の実務経験					

ナンバリング	B⑥02	科目名	卒業演習 「自分の興味関心から自己・社会・文化を見つめる」
担当形態	単独	担当教員	郷家 史芸
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト			
開講時期	後期	単位数・ 授業形態	2単位・演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が興味関心を持っている事柄を深め、テーマに応じて自己理解や社会や文化に関する理解を深める。 ・自分の感じている疑問を明らかにし、それを解き明かそうという姿勢が身についている。 		
授業の概要	<p>前期では子どもの遊びや様子から興味関心や学びを読み取り、遊びを深める援助を考えてきました。後期では自分の興味関心にフォーカスを当てていきます。自身のテーマに応じて文献調査、事例検討、フィールドワーク、対話などから深め、まとめていきます。自身が設定したテーマに合わせ自己理解を深め、自分はどういう存在であるのか検討したり、社会や文化における一つの事象を掘り下げ、それらが人間にどのような影響を与えてきたのかを考えたりします。</p>		
授業計画	<p>第1回 テーマの選定 第2回 調査対象を明確にする 第3回 文献調査① 第4回 文献調査② 第5回 文献調査③ 第6回 文献調査のまとめ 第7回 ゼミ内での中間報告① 第8回 独自調査(アンケート・フィールドワークなど)① 第9回 独自調査(アンケート・フィールドワークなど)② 第10回 独自調査(アンケート・フィールドワークなど)③ 第11回 ゼミ内での中間報告② 第12回 調査したことをまとめる① 第13回 調査したことをまとめる② 第14回 発表会準備 第15回 学びの成果発表会</p>		

準備学習と必要時間	ゼミ内での報告の準備や文献調査等に授業時間外に 60 分以上とってください。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での取り組み(積極的な発言, 自発的な姿勢等)・・・60% ・卒業レポート・・・40% 				
参考文献	授業中に適宜示します				
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・単位修得のためには卒業レポートの提出と学びの成果発表会の出席が必須です。 ・フィールドワーク等にかかる費用については個人負担となります。 				
課題へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題等に関しては授業内で共有し, コメントさせていただきます。 卒業レポートに関しては適宜コメントを入れてフィードバックをします。 				
卒業・免許状・資格との関連	卒業	必修	幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格		
教員の実務経験					

ナンバリング	B⑥02	科目名	卒業演習「問うこと、探求することをおもしろがる」
担当形態	単独	担当教員	古賀 琢也
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト			
開講時期	後期	単位数・ 授業形態	2単位・演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの経験、自分なりの興味から問いをたて、情報を得ることができる ・基本的な作法、倫理的配慮に基づいてレポート作成や探求を行うことができる ・調べたことや探求の成果を、卒業レポートとしてまとめ、自分の考えや気づきを言語化することができる 		
授業の概要	<p>本授業では、専門総合演習「森や自然の素材をおもしろがる」に引き続き、森や自然を生かした保育について学びを深めていく。それと同時に、自分の感性、実習の経験などを踏まえ、テーマを立てて問うこと、探求していくことをおもしろがる。</p> <p>調べ方について、基本的な論文・レポート作成の作法、倫理的配慮などについて学び、探求や調べたことの成果を卒業レポートとしてまとめ、学びの成果発表会で発表を行う。</p>		
授業計画	<p>第1回 里山での保育、森の保育をまなぶ</p> <p>第2回 可視化した記録の可能性</p> <p>第3回 自分なりのテーマについて調べ、問いを立てる①</p> <p>第4回 自分なりのテーマについて調べ、問いを立てる②</p> <p>第5回 文献の引用、参考の仕方</p> <p>第6回 倫理的配慮について</p> <p>第7回 調べ方、探求する方法を学ぶ</p> <p>第8回 問いを探求する①</p> <p>第9回 問いを探求する②</p> <p>第10回 卒業レポートの作成①</p> <p>第11回 卒業レポートの作成②</p> <p>第12回 卒業レポートのまとめ、校正</p> <p>第13回 発表について考える</p> <p>第14回 発表準備</p> <p>第15回 学びの成果発表会</p>		

準備学習と必要時間	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の立てた問いについて調査・検討。(必要時間:各回 30 分以上) ・授業内で学んだことを整理し、まとめること。(必要時間:各回 30 分以上) ・授業に際し、指定された資料がある場合は資料を読み、考えをまとめてくること。 				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業・活動への積極的な参加 - 30% ・レポートへの取り組み、姿勢 - 30% ・卒業レポート - 40% 				
参考文献	「好奇心が育む学びの世界」 風鳴舎 「意味が躍動する生とは何か」 世織書房				
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークは先方の都合等により、日程・時間が変更となることがあります。 ・フィールドワーク等にかかる費用は個人負担となります。 				
課題へのフィードバック方法	レポート等は授業内で共有し、コメント等を加え返却します。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業	必修	幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格		
教員の実務経験					

ナンバリング	B⑥02	科目名	卒業演習 「インクルーシブ保育・教育を考える」
担当形態	単独	担当教員	相磯 友子
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	適宜資料を配布します。		
開講時期	後期	単位数・ 授業形態	2単位・演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブな実践に必要な事項について自分の言葉で説明することができる。 ・インクルーシブ保育・教育のための実践を自分なりに構想することができる。 ・文献調査やフィールドワーク、ゼミでの話し合いを通して、自分の設定したテーマについて卒業レポートでわかりやすく記述することができる。 		
授業の概要	<p>本授業では、専門総合演習「インクルーシブ保育・教育について考える」に引き続き、身近なインクルーシブな実践、遊び、活動などに着目して、文献調査やフィールドワークを行い卒業レポートを作成します。一人ひとりの関心に応じて調査を行い、ゼミで共有したり話し合ったりしながら自身のテーマについて考えを深めます。</p>		
授業計画	<p>第1回 卒業レポートテーマの確認 第2回 文献の探し方 第3回 文献調査① 第4回 文献調査② 第5回 データを集めよう① 第6回 データを集めよう② 第7回 データを集めよう③ 第8回 データを集めよう④ 第9回 データのまとめ方 第10回 卒業レポートの構成 第11回 卒業レポートの作成 第12回 卒業レポートの作成 第13回 卒業レポートの作成 第14回 卒業レポート発表会のプレゼン資料の作成 第15回 卒業レポート発表会</p>		

準備学習と必要時間	・毎週 60 分以上、卒業レポートに関する資料や文献を読んだり、レポートの作成に取り組んだりすること。				
評価方法	・卒業レポートの内容－60% ・授業での取り組みとディスカッションへの貢献－40%				
参考文献	それぞれの関心に合わせて随時紹介します。				
特記事項	・単位修得のためには卒業レポートの提出と卒業レポート発表会への出席が必須です。				
課題へのフィードバック方法	・卒業レポートと発表にはコメントを付け、グループでも共有します。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業	必修	幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格		
教員の実務経験					

ナンバリング	B⑥02	科目名	卒業演習「子どもの権利」「ICF」の視点に基づいた援助・支援を考えるⅡ」
担当形態	単独	担当教員	中嶋 一郎
ディプロマポリシーとの関連性	①, ②, ③		
テキスト	なし(必要に応じて授業毎に資料を配布)		
開講時期	後期	単位数・ 授業形態	2単位 演習
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉に関する社会問題に興味を持ち、学んだ知識を用いて分析ができる。 ・ 問題意識を持った出来事に対して、問題を抽出し、分析ができる。 ・ 社会調査等を踏まえた結果から、解決策を提示し、実践することができる。 		
授業の概要	自身が興味を持った社会福祉に関する出来事に対して、演習で学んだ知識を用いてディスカッションを通じて分析を行う。その出来事と自身の生活場面等で関与できる部分の繋がりを見つけ、研究的な問題として取り上げ、その問題について実践的・質的手法等を用いて活動を行っていく。		
授業計画	第1回 自身が興味を持った社会福祉に関する社会問題について分析する① 第2回 研究テーマの選定 問題の所在と研究の目的 第3回 研究目的を明らかにするための方法の選定 第4回 フィールドワーク① 調査活動 第5回 フィールドワーク② 調査活動 第6回 研究結果のまとめ① 第7回 研究結果のまとめ② 第8回 研究結果を踏まえた考察① 第9回 研究結果を踏まえた考察② 第10回 研究レポート作成① 第11回 研究レポート作成② 第12回 研究発表スライド作成① 第13回 研究発表スライド作成② 第14回 学びの成果発表会 練習 第15回 学びの成果発表会		

準備学習と必要時間	事前学習として、自身が取り組む課題について準備学習を 60 分以上行う。 事後学習として、自身が取り組む課題について学習を深める取り組みを 60 分以上行う。				
評価方法	1. 授業毎の活動態度 25% 2. 研究レポート・発表用スライド 75%				
参考文献	授業毎に必要なに応じて適宜示します。				
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・単位修得のためには卒業レポートの提出と学びの成果発表会の出席が必須です。 ・研究活動に対して、仲間と支え合いながら活動を楽しんで行える雰囲気作りを大事に活動をいていきたいと思っています。 ・研究レポートを作成するにあたり、PC(ワード・エクセル・パワーポイント)等が必要になります。各自ご準備が可能な方はお願いいたします。 ・月 1 回程度、障がい者施設でのフィールドワーク有。 費用は交通費として 1,000 円程度かかる予定です。 				
課題へのフィードバック方法	・レポート、発表等に関して、直接指導・コメント等を行います。				
卒業・免許状・資格との関連	卒業	必修	幼稚園教諭免許状		
	その他		保育士資格		
教員の実務経験					